

日本語で学ぶ日本事情

中級から上級へ

新訂版

# 日本を知る

.....その暮らし365日

板坂 元\*著  
関 正昭\*編

スリーエーネットワーク

©1992 by Itasaka Gen, Seki Masaaki

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.

Shoei Bldg., 6-3, Sarugaku-cho 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0064, Japan

ISBN 4-88319-262-8 C 0081

First published 1992

First Revised Edition 1996

Second Revised Edition 2003

Printed in Japan



## はじめに

1 この本は外国人が日本と日本人を理解するための「日本事情入門書」であるが、一方、留学生・技術研修生・ビジネスマン等の日本語学習教材（中・上級者向け）としても有効に利用されることを目標としている。ここで言う中・上級とは、来日時に日本語力ゼロからスタートした留学生の習得段階で言えば、1年間の大学入学予備教育課程の後期から大学入学後1年くらいまでを想定している。

2 この本は、いわゆる総合的日本語教科書ではない。あくまでも日本事情に関する知識を得ることを第一の目標としている。しかし、その一方で、ややもすると不自然になりがちな外国人のための「教科書用日本語」ではなく、自然で読みごたえのある文章を読みこなすことによって、語彙力と読解力のアップをはかることを目指している。

3 「語彙表」は中・上級者向けにリストアップしたもので、すべて英訳がつけてある。必要に応じて類義語、反対語、例文等も掲げてある。○（正しい使い方）、×（誤った使い方）で示した例は、中・上級者がおかしやすい誤用例について特に注意を促すためのものである。

語彙表に取りあげた語の選定基準は次のとおり。

日本語能力試験の認定基準によれば、初級を終え中級に入ろうとする学習者は既習語彙1500～2000語、読み書きできる漢字500字、学習時間300～400時間を経た段階にあると考えられる。上記1で述べた中・上級者ならば、この段階はすでに終了しているはずであるが、現実には既習事項がまだ定着せず、日本語能力の不安定な時期である。したがって、語彙選定の基準には中級レベルとしての最低ラインを想定し、国立国語研究所（1984）の「基本語2000」および、関正昭（1985）の「基本語1313」のどちらかに取り上げられている語以外のものはすべて取りあげることにした。

4 この本には一般の中・上級用教科書に見られるような練習問題はないが、重要語句（いろいろな文が作れる機能的・生産的なもの、本文の下線を施し

た部分、通し番号が付してある)の語法については、「語法用例」編に例文を数例ずつ掲げてある。例文は既習語を用いて、なるべくやさしいものにするか、あるいは本文中の用例の中から取りあげた。語彙表と同じく、参考例文やおかしやすい誤用例も必要に応じて示してある。

5 本文のほかに「日本の文化を知るキーワード」(本文の欄外、および四角の枠で囲んで掲げてある)が取りあげてある。これに関しては、単語訳がないので独習者は自分で辞書を引きながら読み進まなければならないが、日本の文化の一端を知る楽しみが得られるものと思う。

6 表記は、常用漢字・現代かなづかいに準じ、漢字には下ルビが付けてある。下ルビは横書きの文字を追う時の普通の視線の動きではとらえにくいことを利用して、漢字既習者にはルビに頼らずに、あるいはそれが邪魔にならないように読めることを配慮したからである。

なお、常用漢字にあっても以下に挙げる語種については、かな表記を原則とした。

【助詞、助動詞、(和語の)接頭語、(和語の)接尾語、補助動詞、感動詞、(和語の)形式名詞、(和語の)接続詞・副詞、連体詞】

7 この本は先に刊行された『Gates to Japan』(英文)の第一編と同じ内容である(一部改訂)。日本事情を知るために、まず英文編を読み、次に日本語学習用として本書を精読するのも一つの方法である。

8 本書の刊行が当初の予定より大幅に遅れてしまった。本文執筆者の板坂元先生にはお詫びの申し上げようもない。しかし、こうして刊行までに漕ぎ着けられたのはスリーエーネットワーク社長福本一氏をはじめ編集スタッフの御熱意があったからである。記して感謝申し上げる。

#### 9 執筆担当者

本文	板坂元
編集	関正昭
語法用例	関正昭
語彙表・英訳	新内康子

なお、企画の段階で一橋大学教授松岡弘氏から貴重なアドバイスをいただいた。

#### 10 参考文献

国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』 1984

関正昭「3MICのための基本語彙表」『短期日本語研修講座に関する報告及び小論集』東海大学留学生教育センター 1985

石山宏一『現代用語を英語にする』ジャパントाइムズ 1991

山口百々男・辻本信義『和英日本文化のキーワード』ジャパントाइムズ 1988

1992年9月 編者 関正昭



## TO THE LEARNER

1. This book is an introduction to Japanese society and culture for people who desire to understand Japan and Japanese people. At the same time it is hoped that Japanese language learners, such as foreign students, technical trainees, businessmen, and others, can effectively use this book as an intermediate and advanced Japanese textbook. Therefore, the writers of this text envision the user of this book as a person who had no Japanese language ability when he or she came to Japan but who has now finished one year or one and a half year's intensive Japanese language learning.

2. The first aim of the text is to provide learners with information on Japanese society and culture. It is more of a reader than an integrated Japanese textbook with conversations, drills, and other language activities.

The second aim is to help learners build up their vocabulary and improve their reading ability by reading content-oriented, "real" Japanese instead of artificial textbook Japanese.

3. The vocabulary lists provide English translations for both intermediate and advanced learners.

It provides synonyms, antonyms, examples, and other information whenever necessary. Correct expressions are marked with a "○." In order to call attention to common errors made by intermediate and advanced learners, incorrect expressions have been marked with a "×."

4. The usage section provides important expressions and a few examples of each. These important expressions are valuable in that they encourage learners to create similar sentences on their own. The expressions are underlined and numbered for easy reference. Examples have been kept as simple as possible by using simple vocabulary or words taught in the text. Related expressions and common errors are also occasionally provided.

5. Explanations of words from the main text referring to Japanese culture are footnoted or boxed. Although the Japanese in these explanations is rather difficult and the learner may need to use a dictionary to fully understand them, it is hoped that the readings will prove to be pleasurable and informative.

6. *Furigana* (“*Kana* reading of the character”) have been placed beneath — instead of above — the *Kanji*. In this way, learners seriously studying *Kanji* can more easily read the text without paying attention to the *furigana* readings.

Please note that all particles, auxiliary verbs, Japanese-origin prefixes, Japanese-origin suffixes, verbal auxiliaries, interjections, Japanese-origin pseudonouns, Japanese-origin conjunctions and adverbs, and adjectival parts of speech (*rentaishi*) are shown in *Kana* script even though some of them can be written in *Kanji*.

7. The content of this book is similar to part one of the English edition of “Gates to Japan,” which has already been published. This book may be utilized by first reading the English edition, in order to learn about Japanese society and culture, and then as a Japanese language textbook.
8. Text: Gen Itasaka  
Editor: Masaaki Seki  
Usage section: Masaaki Seki  
Vocabulary list and English translation: Koko Shin’uchi

September, 1992  
Masaaki Seki (editor)

# 目次

はじめに .....	3
TO THE LEARNER .....	6
第1章 佐藤家の一日 .....	11
だい しょう さとう け いちにち	
6時 起床 ... 12 / 7時 朝食 ... 13 / 8時 ... 15 / 9時 ... 17	
じ きしょう じ ちようしよく じ じ	
12時 昼食 ... 20 / 13時 ... 23 / 15時 職場体操 ... 25 / 16時 ... 26	
じ ちゅうしよく じ じ じ じよく たいそう じ	
19時 夕食 ... 31 / 22時 就寝 ... 33	
じ ゆうしよく じ じ しゅうしん	
第2章 佐藤家の一年 .....	37
だい しょう さとう け いちねん	
4月 .....	38
がつ	
入学式・入社式 ... 38 / 春闘 ... 40	
にゅうがくしき にゅうしやしき しゅんとう	
5月 .....	42
がつ	
ゴールデンウィーク ... 42 / 憲法記念日 ... 44	
けんぽう きねん び	
6月 .....	48
がつ	
梅雨 ... 48 / ボーナス ... 52	
つ ゆ	
7月 .....	54
がつ	
中元 ... 54 / 夏休み ... 56	
ちゅうげん なつやす	
8月 .....	60
がつ	
盆 ... 60 / 終戦記念日 ... 62 / 高校野球 ... 64	
ぼん しゅうせん きねん び こうこう やきゅう	
9月 .....	67
がつ	
台風 ... 68 / 彼岸 ... 70	
たいふう ひがん	
10月 .....	72
がつ	
スポーツ ... 72 / 秋祭り ... 74	
あきまつ	
11月 .....	76
がつ	
文化の日 ... 76 / 結婚式 ... 78	
ぶんか ひ けっこんしき	
12月 .....	80
がつ	
忘年会 ... 80 / 年末 ... 84	
ぼうねんかい ねんまつ	
1月 .....	87
がつ	
正月 ... 88 / 成人の日 ... 92	
しやうがつ せいじん ひ	
2月 .....	95
がつ	
入学試験 ... 96 / スキー ... 98	
にゅうがく しけん	



3月	99
卒業式 … 100 / 人事異動 … 101	
第3章 日本人の一生 … 103	
家庭内教育 … 104 / 学歴偏重社会 … 106 / 企業社会 … 110	
日本的経営の特質 … 110 / 初出社・定期採用・就業規則 … 111	
昇給・昇進・企業内福祉 … 113 / 労組・ベア交渉 … 114	
意志決定 … 116 / 社会保障と医療 … 118	
語彙表 … 121	
語法用例 … 158	
索引 … 188	
語法用例項目一覧 … 203	

### 日本の文化を知るキーワード

はんこ … 17	漫画 … 56	万歳 … 92
おにぎり(おむすび) … 20	挨拶 … 59	すし … 94
喫茶店 … 22	根回し … 59	てんぷら … 94
インスタントラーメン … 26	京都 … 60	箸 … 94
やきとり … 28	広島 … 62	折り紙 … 96
麻雀 … 30	パチンコ … 64	雑祭り … 99
そろばん … 32	敬語 … 66	出前 … 100
盆栽 … 34	能 … 69	琴 … 102
障子 … 36	ふろしき … 70	三味線 … 102
畳 … 36	じゃんけん … 72	芸者 … 102
さくら … 38	銭湯 … 74	ふとん … 104
こいのぼり … 42	狂言 … 75	はちまき … 106
ニッポンかニホンか … 44	着物 … 76	お茶 … 109
銀座 … 46	お見合い … 78	生け花 … 109
新宿 … 46	カラオケ … 80	名刺 … 110
原宿 … 46	天皇 … 82	外人 … 112
浅草 … 47	奈良 … 84	はら … 114
秋葉原 … 47	こたつ … 86	心中 … 116
下町と山の手 … 47	すきやき … 88	遠慮 … 118
心付け … 52	歌舞伎 … 91	落語 … 120

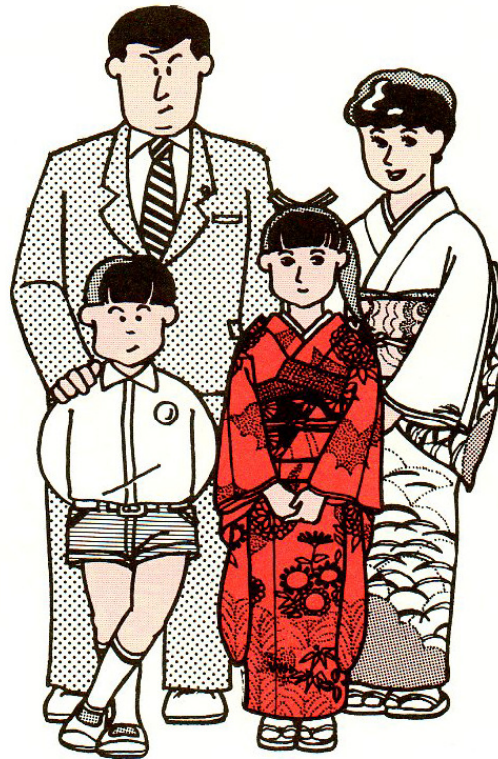


# 第1章

だい しょう

## 佐藤家の一日

さ と う け い ち に ち



### 佐藤家の家族構成

佐藤氏	41歳	大手製造会社勤務	海外事業部	課長
佐藤夫人	38歳	おお て せいぞうがいはん きん む	かいがいの じぎょうぶ	かちょう
長女	14歳	中学校2年生		
長男	12歳	小学校6年生		
佐藤家の住宅		分譲集合住宅 (3LDK)		
		(都心から電車で1時間程度の郊外)		

## 6時 起床

じ き しょう

佐藤さんの一日は6時ごろに始まる。たいていのサラリーマンは、  
勤め先から電車やバスで1時間以上もかかるところに住んでいるか  
ら、毎日それくらいの時間に起きるのが普通だ。まず奥さんが起き  
て、夫や子供たちのために朝食の準備をする。

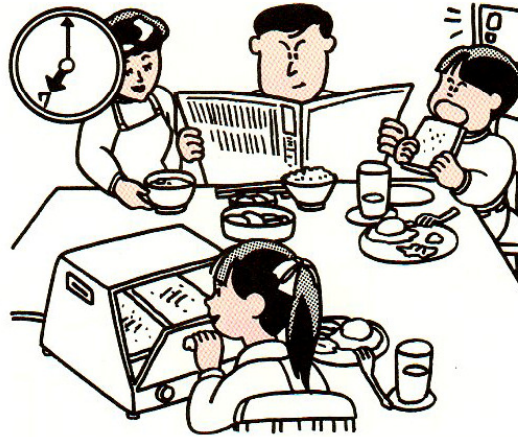


## 7時 朝食

じ ちょうしよく

7時ごろ朝食が始まる。佐藤さんはご飯に味噌汁と野菜の煮しめ、  
漬物といった和食を食べる。子供たちは目玉焼きにハムやサラダと  
いった洋食のメニューだ。飲むものも、佐藤さんは日本茶で子供た  
ちはジュースと違っている。しかし、最近一般的には朝食は、和食  
より準備に手間のかからない洋食の方が多い。

5



佐藤さんは、朝食をとりながら新聞やテレビで昨日のできごとに  
ついての知識を仕入れる。天気予報を見るのも日課になっている。

きとう

ちょうしよく

しんぶん

きのう

5

ちしき

しい

てんきよほう

み

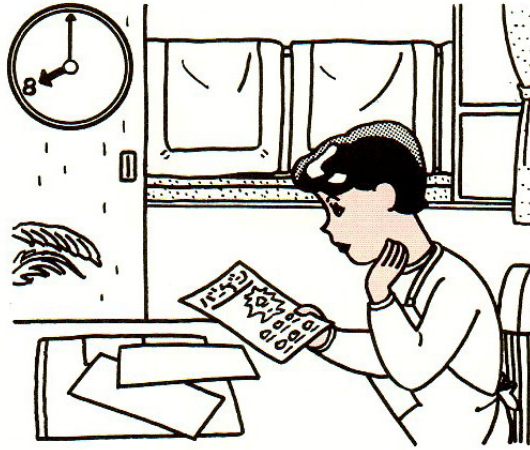
にっか



それが終わると、佐藤さんは会社へ、子供たちは学校へ出かける。  
お きとう かいしゃ こども がっこう で  
この時間はどこでもラッシュアワーで、特に大都市の電車や地下鉄  
じかん とく だいとし でんしゃ ちかてつ  
は乗車率が200%になることもある。  
じょうしゃりつ パーセント

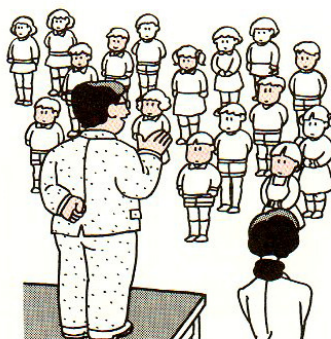






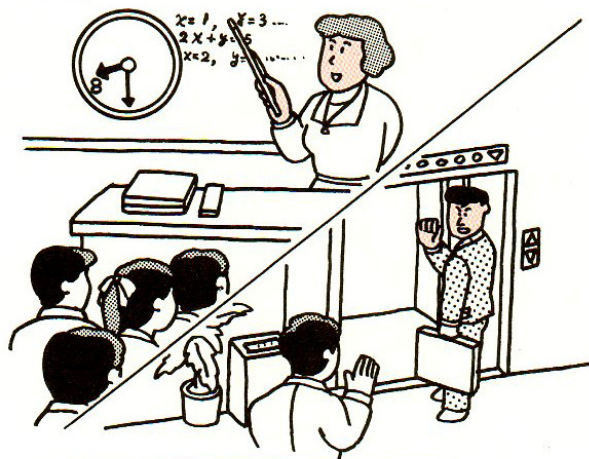
## 8時

佐藤さんの奥さんは、みんなが出かけた後、掃除をしたり、ごみを捨てたり、洗濯・布団干しなどの家事を済ませる。また、ときには新聞といっしょに入る折込広告のうち、デパートや近所のスーパーマーケットなどでのバーゲンセールのお知らせを丹念に読み、10時の開店時間を見計らって出かけることもある。



子供たちは、学校で授業が始まる前に、スポーツなどの部活動を  
こども がっこう じゅぎょう はじ まえ ぶ かつどう  
 する。定刻になると全校生徒・教職員が集まって朝礼が行なわれる。  
ていこく ぜんこうせい と きょうしきいん あつ ちょうれい おこ  
 校長先生の話があり、行事予定その他の通達事項がこの際に全校生  
こうちようせんせい はなし ぎょうじ よてい た つうたつ じこう さい ぜんこうせい  
 徒に知らされる。  
と し

- 5 授業は8時半に始まる。1回の授業時間は50分が普通で、次の授  
じゅぎょう じはん はじ かい じゅぎょう じかん ぶん ふつう つぎ じゅ  
 業までに10分の休み時間がある。同じころ、満員電車から解放され  
ぎょう ぶん やす じかん おな まんいんでんしゃ かいほう  
 た佐藤さんは会社にたどりつく。  
さとう かいしゃ



### 日本の文化を知るキーワード

日本理解にもっとも必要なキーワードを60語選び、それに簡単な解説  
にほんりかい ひつよう ごえろ かんたん かいせつ  
 をほどこす。

9 時  
じ

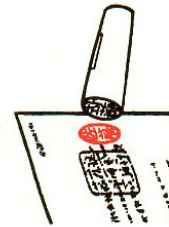
佐藤さんの会社での一日は、9時から始まる。会社<sup>10</sup>によっては、  
 朝礼をして社歌を歌ったり、社訓やスローガンをいっせいに唱えた  
 りする。また、簡単な体操をるところもある。なお、日本のサラ  
 リーマンの多くは、会社のバッジを背広の左襟につけている。

佐藤さんの会社での仕事は、平均して会議と書類作りと回ってき  
 た書類に判を押すといったデスクワークが中心になっている。この  
 ほか、電話をかけたり受れたり、来客と話したりといった仕事で一  
 日中忙しく働く。



## はんこ

日本では欧米式のサインは法的効力を持たない。法的な文書や、  
 銀行で預金を引き出したり、役所などで何か申請したりするとき  
 は、名前のあとにはんこ（印鑑）を押さなければならない。象牙  
 や水晶、動物の骨などに姓を漢字で彫り込んだはんこに、朱肉を  
 つけて押すのが普通で、その際、姓名はだれかほかの人が書いて





佐藤さんは海外事業部に属しているので、ファックスやEメール  
さとう かいがい じぎょうぶ ぞく  
 や国際電話による連絡のほかコンピューターによる情報整理など、  
こくさいでん わ れんらく じょうほうせいり  
 外国語を使<sup>11</sup>っての仕事も多い。午前中は主にデスクワークをして、  
がいこくご つか しごと おお ごぜんちゅう おも  
 午後には取引先の企業や役所に出かけることも少なくない。  
ご ご とりひきさき きぎょう やくしょ で すく



## 日本人によくある姓名

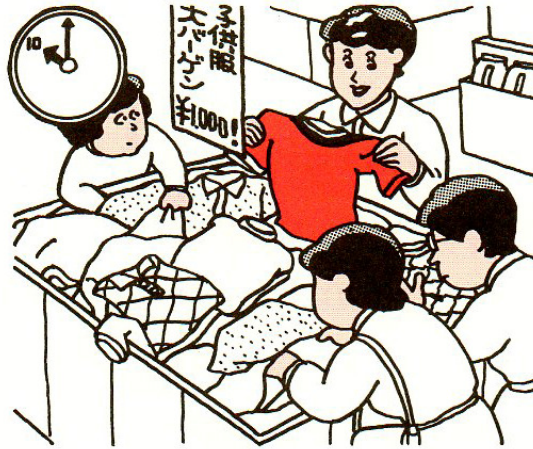
日本人によくある姓名 <small>にほんじん</small>		男性によくある名前 <small>せいめい だんせい</small>		女性によくある名前 <small>じょせい なまえ</small>	
多い名字 <small>おお みょうじ</small>					
佐藤	さとう	清	きよし	正美	まさみ
鈴木	すずき	勇	いさむ	和子	かずこ
高橋	たかはし	茂	しげる	幸子	さちこ
田中	たなか	博	ひろし	清美	きよみ
渡辺	わたなべ	実	みのる	一美	かずみ
伊藤	いとう	進	すすむ	和美	かずみ
山本	やまもと	弘	ひろし	節子	せつこ
中村	なかむら	正	ただし	文子	ふみこ
小林	こばやし	勝	まさる	久子	ひさこ
加藤	かとう	隆	たかし	政美	まさみ

出典：株式会社ナレッジシステム

もしつかえない。

ありふれた姓のはんこは、文房具屋で既製品を買うことができる。土地の売買や巨額な取引には、あらかじめ市町村の役所に届けてある印(実印)を使わなければならない。また、銀行などでは通帳に押してあるはんこを使わなければ預金の引き出しはできない。

速達や書留、小包みなどの受取にも、はんこが必要だし、ビジネスで



そのころ、佐藤さんの近所の主婦の中には、パートで働きに出る  
き どう きんじょ しゅ ふ なか はたら で  
 人も少なくない。子供の教育費や住宅ローンの返済に当てるために  
ひと すく こども きょういく ひ じゅうたく へんさい あ  
 パートで働く人もいる。  
はたら ひと



も書類を見たという印にはんこを押す。このように日本では、はんこが  
しよるい み しるし お に ほん  
 日常生活の必需品になっている。  
にちじょうせいかつ ひつじゅひん

## 12時 昼食

じ ちゅうしょく

- 昼食時には、会社の社員食堂で食事をする。社員食堂は町の食堂  
 ちゅうしょく じ かいしゃ しゃいんしょくどう しょく じ しゃいんしょくどう まち しょくどう  
 に比べて<sup>12</sup> 値段が安く便利だ。しかし、近くのレストランに食べに  
 くら ねだん やす べんり ちか た  
 行く人も多く、オフィス街のレストランは昼食時にはたいへんな込  
 い ひと おお がい ちゅうしょく じ こ  
 み<sup>13</sup>ようだ。こういうレストランでは、数百円の日替わりの定食が準  
 5 みようだ。 こういう レストランでは、 数百円の日替わりの定食が準  
 すうひゃくえん ひ が ていしょく じゅん  
 備<sup>14</sup>されており、20分くらいで昼食を済ませることができる。  
 び ぶん ちゅうしょく す



## おにぎり (おむすび)



御飯を両手に軽くおさまるくらい取り、真中に梅干しや塩鮭など  
 ごはん りょうて かる と まんなか うめぼし しょくざけ  
 を入れて、握り固めたもの。握るときに、両手に水と食塩をつけ  
 い にぎ かた にぎ りょうて みず しょくえん  
 るので、薄い塩味になる。また、外側をのりでおおうこともあり、  
 うす しおあじ そとがわ  
 簡単な漬物などをおかずにして食べる。  
 かんたん つもの た

昔はこれを竹の皮に包んで携帯食として旅行や遠足などに持参  
 むかし たけかわ つつ けいたいしょく りょこう えんそく じさん





子供たちは、小学校では学校給食があるので、全員同じものを食  
こども しょうがっこう がっこうきゅうしょく ぜんいんおな た  
 べる。中学生は、母親の作った弁当を学校に持っていき、東京の  
ちゅうがくせい ははおや つく べんとう がっこう も とうきょう  
 公立の中学校では給食を行なっているところもある。弁当を持って  
こうりつ ちゅうがっこう きゅうしょく おこ べんとう も  
 来ないで、学校の売店でサンドイッチやミルクを買って済ませる者  
こ がっこう ばいてん か す もの  
 も多い。  
おお

5

したが、今はラップなどに包んだり、プラスチックの容器に入れたりす  
い ま つつ  
 る。本来もつとも典型的な家庭料理で、歩いて旅行する者の携帯食とし  
ほんらい てんけいてき か ていりょうり ある りよう もの けいたいしょく  
 て日本人には馴染み深い食べ物だった。今は専門のおにぎり屋などで買  
にほんじん な ぶか た もの いま せんもん や か  
 うことができる。

お昼休みは、ほとんどのところが12時から1時までになっている。  
ひるやす じ じ

オフィス街では、この時間に会社の制服を着た若い女性たちをよく  
がい じ かん かいしゃ せいふく き わか じよせい

見かける。男子社員は背広姿だが、女子の社員には制服を支給する  
み だん し しゃいん せ びろすがた じよ し しゃいん せいふく し きゅう

会社が多い。各社それぞれの制服姿はオフィス街の風物となってい  
かいしゃ おお かくしゃ せいふくすがた がい ふうぶつ

5 る。



### 喫茶店

きっ さ てん

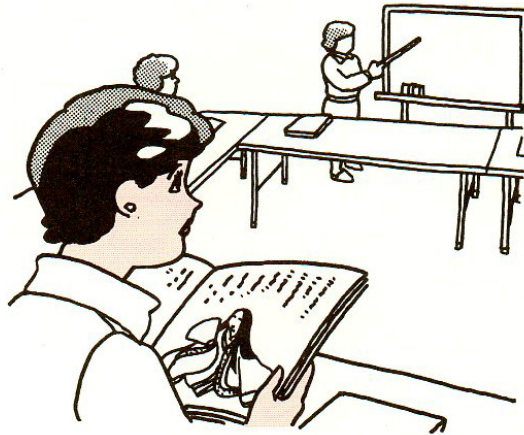
コーヒーや紅茶を中心に軽食を提供する飲食店。待ち合わせや  
こうちゃ ちゅうしん けいしょく ていきょう いんしょくてん ま あ  
 簡単な打ち合わせや商談などに使われるため、日本中いたるところ  
かんたん う あ しょうだん つか に ほんじゅう  
 に見られる。もともとは18世紀の英国のコーヒーハウスや現代  
み せい き えいこく げんだい  
 のフランスのカフェなどをまねて作られたものだが、インテリア  
つく  
 に工夫を凝らしたり、食器にまで金をかけた日本独特の喫茶店が  
くふう こ しょつ き かね に ほんどくとく きっ さ てん



13時  
じ

佐藤さんの奥さんは、外出着に着かえてカルチャーセンターに行く。そこで日本の古典の講読と英会話を勉強している。カルチャーセンターには、エアロビクスやジャズダンスのように、体を動かすコースもあれば、料理の講習や英会話や古典の講読といった教養コースなど、何十という種類のコースがある。昔は、茶道や生花など女性のおけいこ事は限られていたが、今はカルチャーセンターのさまざまなコースをはじめ、テニス、水泳など、それぞれ自分の好きなものを楽しむのが一般的になっている。このほか、最近ではいろいろなボランティア活動をする人も増えている。

5



できあがり、日本人の生活に重要な役割を果たすものとなっている。

店の名前も、フランス語や難しい漢字を使ったりしてしゃれた感じを出したものが多く、外装も日本の店舗の中ではデザイン的にレベルが高い。

なお、喫茶店ではアルコール飲料は扱わない。



これが済むと、佐藤さんの奥さんは、夕食のための買物をする。  
 食事の支度も昔より簡単になって、デパートやスーパーマーケット  
 では、すでにできあがっていて家で温めるだけで食べられるように  
 なった食品が多く売られている。

- 5 掃除機・洗濯機・電子レンジなどの普及によって、主婦の労働は  
 少なくとも済むようになったので、その分、主婦がパートに出たり、  
 カルチャーセンターに行ったりする時間ができたのだと言ってよか  
ろう。着るものも、自分の手で仕立てる人が少なくなって、既製服  
 かオーダーで済ませる人が多く、主婦の余暇は昔に比べて飛躍的に  
 延びている。





## 15時 職場体操

佐藤さんの職場では午後3時になると、スピーカーからラジオ体操の音楽が流れ、いっせいに背筋を伸ばし、音楽に合わせて体操するのが日課の一つになっている。



16時  
じ

子供たちは学校が終わって家に帰ってくる。佐藤さんの子供は二  
こども がっこう お いえ かえ さとう こども ふた  
人とも受験のための塾に通っている。競争が激しいので、学校の勉  
り じゅけん じゅく かよ きょうそう はげ がっこう べん  
強だけではいい学校に入れない。そのため、ほとんどの子供たちは  
きょう がっこう はい こども

5 放課後、塾に行行って勉強する。  
ほう か ご じゅく い べんきょう



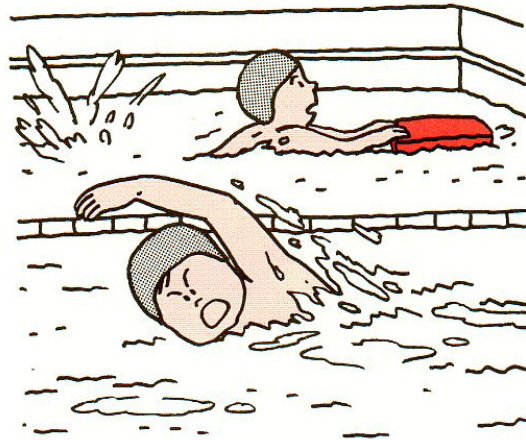
## インスタントラーメン



ラーメンは、もともと中国のめん料理だったものを第二次大戦  
らーめん ちゅうごく りょうり だいに じたいせん  
後に復員して来た兵士たちがラーメンとして売りはじめたものだ。  
ご ふくいん き へいし う  
もともとは豚の骨から取ったスープを使ったが、次第に日本的な  
ぶた ほね と つか し だいに ほんてき  
風味に変化し、味噌を使ったものなど、多種類のラーメンが生ま  
ふうみ へんか みそ つか たしゅるい う  
れた。



勉強のほかに、佐藤さんの娘はピアノのけいこに通っているし、  
 テニスのレッスンも受けている。男の子も、水泳のクラブに通って  
 いる。



さらに、1960年ごろからインスタント食品製造技術の発達とともに、  
 このラーメンを真空乾燥して売り出すことが始まり、現在世界の多くの  
 国で売られるまでに普及している。



塾以外にも、家庭教師に来てもらって個人的に教えてもらう子供  
じゅく い がい か ていぎょう し き こ じんてき おし こども  
 も多い。日本の学校は宿題も多いので、家に帰って3時間も4時間  
おお に ほん がっこう しゅくだい おお いえ かえ じ かん じ かん  
 も勉強することも珍しくない。  
べんきょう めずら

## やきとり



細切れの鳥肉を細い竹串にさして、これに醤油を主体にして砂  
こま ぎ とりにく ほそ たけぐし しょう ゆ しゅたい  
 糖やみりんなどを加えて作ったたれをつけて焼いた料理。豚など  
とう くわ つく や りょうり ぶた  
 のもつ（内臓）を材料に使うこともあるが、焼き鳥と総称してい  
ないぞう ざいりょう つか や とり そうしょう  
 る。比較的安いので、酒を飲むときに、これをさかなにする人も  
ひ かくてきやす さけ の ひと  
 多い。  
おお





同じころ、佐藤さんは会社で仕事を続けている。終業は5時なの  
 だが、5時きっかりに仕事を終わって帰宅することは、ほとんどな  
 い。たいていは残業するし、夕方からは会社の取引先とのつきあい  
 で食事をしたり酒を飲んだりすることもある。同僚と一杯飲む機会  
 も多い。社用以外のときは、安く酒が飲める居酒屋やスナックに行  
 って酒を楽しむ。酒の席での話題も、会社の仕事や人事などに関す  
 る情報の交換が多く、こういうことから日本のサラリーマンの団  
 結力は養われる。

5



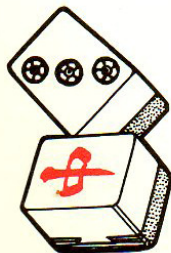
串を使って肉類や野菜を焼く料理は、近東のシシカバーブの系統の食  
 べ物で、鳥を食べるのは、江戸時代の狩り場料理の伝統をついだものだ  
 ろう。

- 20  
また、サラリーマンの勤務外の楽しみで人気があるのは、マージ  
ヤンとゴルフだ。ゴルフとマージャンは会社の接待ですることも多  
いが、最近ではマージャンをする若いサラリーマンが少しずつ減って  
きている。このほかに会社内で野球チームを作って草野球をすると  
ころもある。現在、週休2日制を採用している企業が増え、土曜日  
は休日の人が多いが、仕事の必要があれば自主的に出勤する人もあ  
る。日曜日にもゴルフなどのスポーツで一日を費やす人は少なくない  
が、最近では子供や妻と買物に行ったり遊園地に行ったりして家庭  
サービスをする人が増えてきている。



## 麻雀

マージャン



4人のメンバーが正方形のテーブルを囲んで、136枚のパイを使  
って遊ぶ室内ゲーム。もともと中国で行なわれたゲームが1920年  
代にアメリカで大ブームになり、これが日本に輸入された。一枚  
ずつパイを引き、不用なパイを捨てることによって手持ちのパイ  
を3枚ないし4枚のグループにして役（いろいろな組み合わせ）



## 19時 夕食

じ ゆうしょく

佐藤さんの帰宅が遅い場合は、奥さんと子供だけで夕食をとる。この時間帯はテレビもそういう家庭のための番組をやっているの、テレビを見ながら夕食をとる家庭が多い。

もし佐藤さんが帰ってきている場合は一家そろっての夕食になり、佐藤さんは日本酒やビールで晩酌をする。学校のできごとや、近所のうわさなどがテレビを見ながら語られ、一日で唯一の一家団らんのひとつになる。



作りをしていくゲーム。

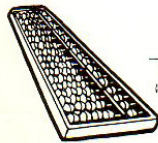
学生やサラリーマンに人気があり、会社の交際ではゴルフとともに普及しているが、最近では以前ほどの人気はない。





- 佐藤さんの家は会社まで1時間で通勤できる距離にあるが、東京  
 などの大都会では通勤に平均1時間半ぐらいかかり、2時間近くか  
 かる人も少なくない。そういう家庭では、父親が子供の寝ているう  
 ちに出かけ、子供が寝てから帰るという生活パターンになり、父親  
 と子供がめったに顔を合わせないで過ごすことになる。現在、日本  
 では、こうしたことから起こる父親不在が社会問題となっている。  
 一般に家計の管理は、大型支出を除いては、主婦によって行なわ  
 れ、毎月会社から自宅の近くの銀行の口座に振り込まれる夫の給与  
 は主婦が管理し、夫の小遣いは主婦から手渡される。佐藤さんの奥  
 さんは毎晩食後の時間の一部を家計簿つけに当てている。

### そろばん

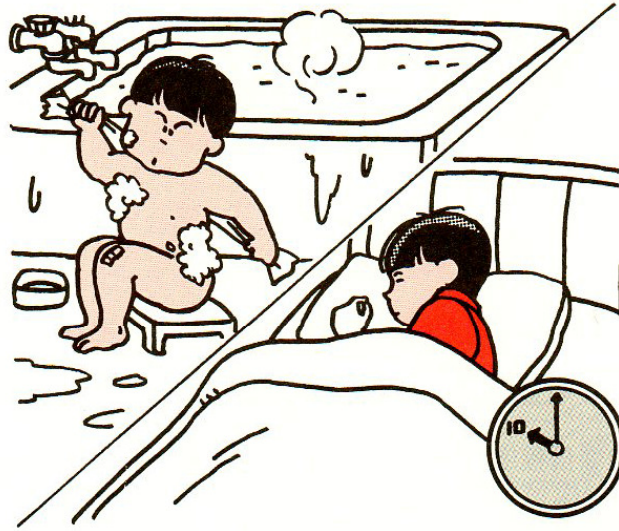


そろばんは、計算に用いられる伝統的な道具で、指先で珠を上  
 下しながら加減乗除を行なう。  
 中国から13世紀ごろに伝わって来たもので、江戸時代には「読  
 み・書き・そろばん」といって、帳簿や手紙などを読んだり書い  
 たりする訓練とそろばんが町人階級の教育の基本になっていた。

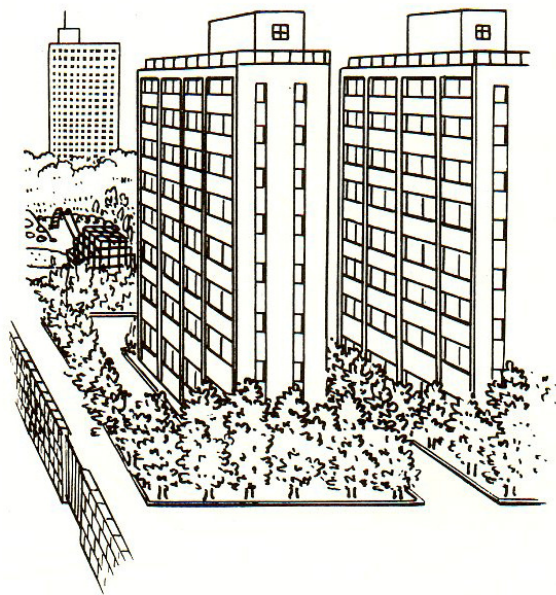
## 22時 就寝

じ しゅうしん

子供たちは勉強が終わってから風呂に入り、床に就く。親は22時  
 こども べんきょう お ふろ はい ところ おや じ  
 過ぎに入浴し、テレビのスポーツ番組などを見てから就寝というの  
 す にゅうよく ばんぐみ み しゅうしん  
 が普通になっている。  
 ふつう



この30年の間に電子計算機がかなり普及してきたが、単純な加算なら、  
 ねん あいだ でん し けい さん き ふ きゅう たんじゅん か さん  
 そろばんのほうがスピードが速く便利なので、今でもかなり広範囲に使  
 はや べん り いま こうはん い つか  
 われている。そろばん塾や検定試験制度などもあり、そろばん日本一を  
 じゅく けんてい し けんせい ど にほんいち  
 決めるコンテストも毎年行なわれている。  
 き まいとしおこ



佐藤さんの家は、3LDK の分譲集合住宅で、住宅ローンで購入したものだ。住宅ローンの返済は毎月月給の25%くらいで、ボーナス時にはその3倍程度払う人が多いが、佐藤家では月々の支出の中でいちばん大きな支出になっている。佐藤夫妻と子供二人がそれぞれ一部屋ずつ占めていて、それほど広くもなければ狭くもない。

5

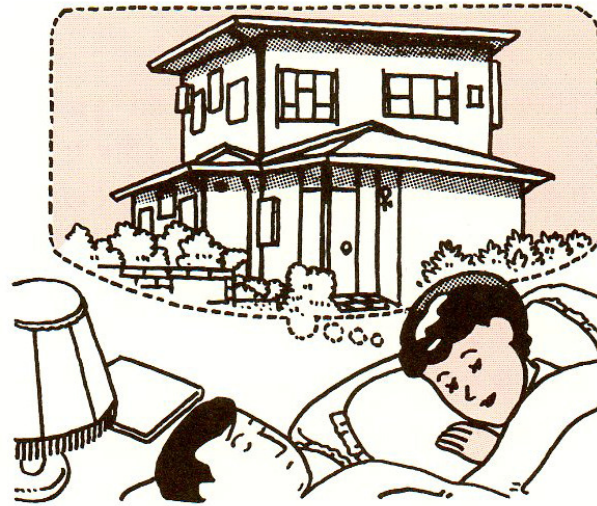
## 盆栽

ぼんさい

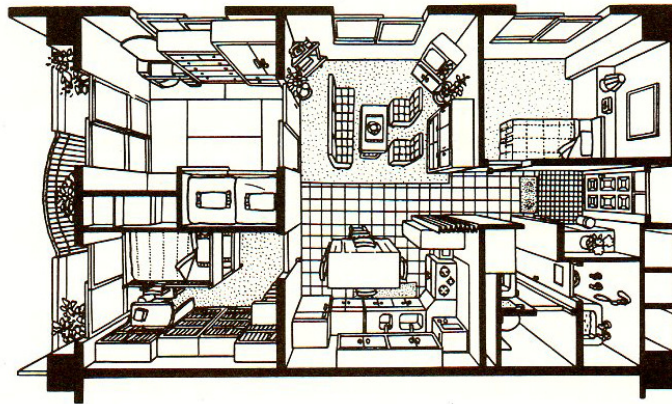


松や梅など本来は高木になる植物をミニチュアにして小さな鉢に植えたもの。木の姿や枝ぶりは、山野に生えているままの形をしており、これが何十分の一かの縮小された格好になっている。これを作るためには、枝を曲げたり、伸びるのを防いだりする難しい技術があり、完成品は何千万円という高価なものになること





日本人の多くは、こういう団地生活から、いつか庭つきの家に移  
にほんじん おお だんち せいかつ にお いえ うつ  
 りたいと夢見ている。<sup>25</sup> が、だんだん団地での社会生活が確立し、定  
ゆめ み だんち しゃかいせいかつ かくりつ てい  
 着する人が多くなっている。  
ちやく ひと おお



3LDK の分譲住宅の間取り  
ぶんじょうじゅうたく まど

もある。

この趣味は10世紀ごろから始まり、狭いスペースの中で自然の美を鑑  
しゅ み せい き はじ せま なか しぜん び かん  
 賞する方法として発達した。部屋の中に置く点では観葉植物と同じだが、  
しょう ほうほう ぱったつ へ や なか お でん かんようしよくぶつ おな  
 人工的に縮小されたものである点、盆栽は日本的な自然美鑑賞術という  
じんこうでき しゅくしょう でん ぼんさい にほんてき しぜん び かんしやうじゆつ  
 ことができる。



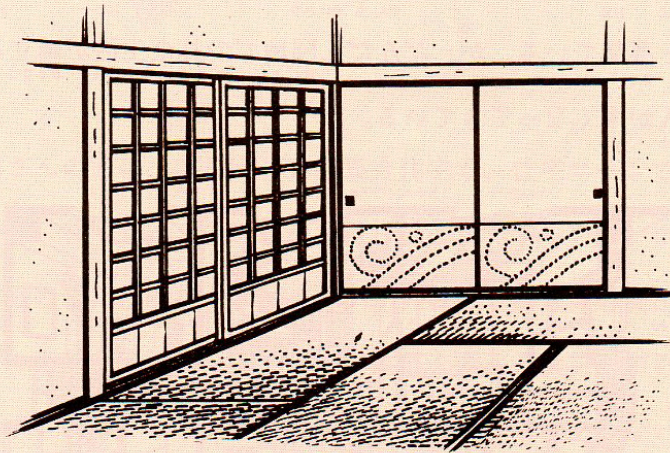
## 障子

しょうじ

日本式の部屋の仕切りに使われる紙張りの引き戸。細い木が格子に組まれていてそれに白い和紙を張ったもので、左右に引いて開けたり閉めたりする。

平安時代以来、日本の家屋は中に仕切りがなく、人々はその中に障子を立てて小さな部屋に分けて使っていた。障子には、ふすま障子と明かり障子の二種類があり、これが略されてふすま障子になった。障子は明かりを通すが、ふすまはそうではなく、閉めると部屋が暗くなる。

また、障子は日光を直接通さず、空気の流通にも都合がよく、今でも日本式家屋には不可欠のものになっている。



## 畳

たたみ

伝統的な家屋の床に敷きつめるわらを主体にしたマットレス。サイズは地域によって違うが、だいたい約90cm×180cmの長方形で、現在でも部屋の広さを6畳・8畳などと畳の数で数えることが多い。昔は、板の床に折りたたみのできる敷物を敷いたので、畳という名称が生まれた。これが15・16世紀ごろに厚さ7・8cmの台の上に畳表を縫いつける現代風のものになった。

日本の家屋にも欧米式の部屋が増加しているが、やはり畳敷きの部屋が圧倒的に多く、座布団を敷いて座ったり、布団を敷いて寝たりする生活様式が普通になっている。

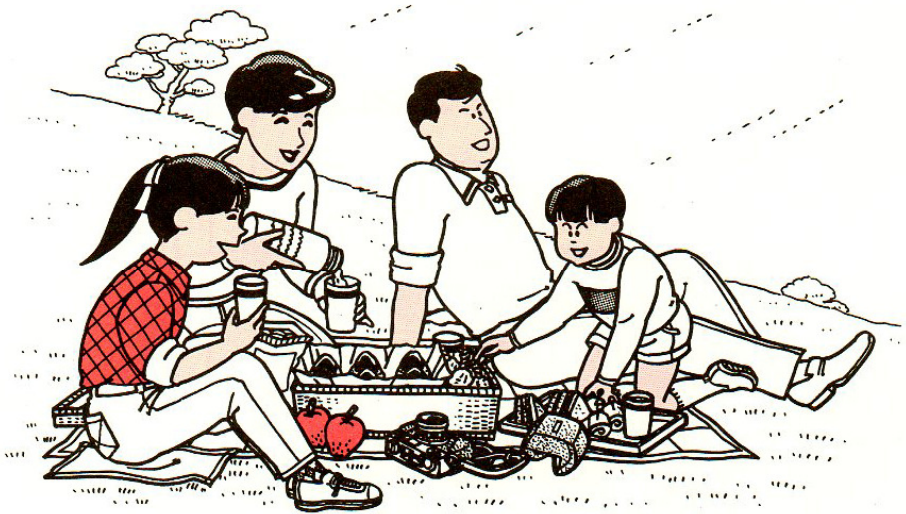


## 第2章

だい しょう

# 佐藤家の一年

さ とう け いち ねん



佐藤さんの家族は、都会に住んでいて近代的な生活を送っているが、

き とう か ぞく と かい す きん だいて き せい かつ おく

伝統と慣習にしたがってさまざまな年中行事に参加する。日本では、新

でん とう かん しゅう ねん じゅうぎょう じ さん か に ほん しん

聞やテレビ、町の商店なども、季節に応じた生活の変化を人々に感じさ

ぶん まち しょうてん き せつ おう せい かつ へん か ひとびと かん

せるようになっているので、知らず知らずのうちに、年中行事にしたが

し し ねん じゅうぎょう じ

って生活を送ることになるのだ。主な年中行事を月ごとに示すと、次の

せい かつ おく おも ねん じゅうぎょう じ つき しめ つぎ

ようになる。

## 4月

しがつ

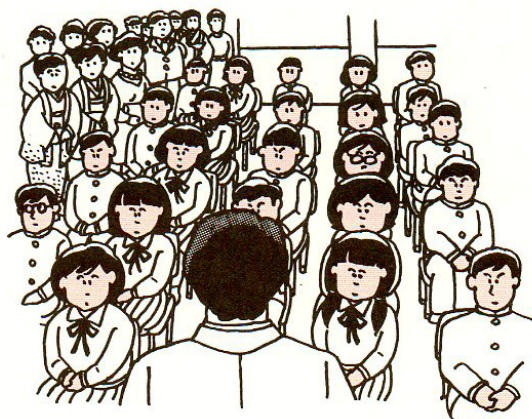
## ●入学式・入社式

にゅうがくしき にゅうしゃしき

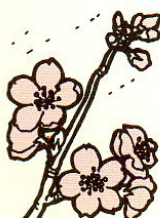
日本では会計年度は3月31日に終わり、4月1日から新会計年度  
 にほん かいけいねん ど さんがつ にち お しがつついたち しんかいけいねん ど  
 が始まる。新学期も4月に始まるため、4月はじめに日本中で入学  
 はじ しんがっ き はじ にほんじゅう にゅうがく  
 式と入社式が行なわれる。

学歴を重視する社会であり、サラリーマンも大部分が終身雇用で  
 がくれき じゅう し しゃかい だい ぶ ぶん しゅうしん こよう  
 あるため、入学式も入社式も人生の重要な節目として厳粛なセレモ  
 にゅうがくしき にゅうしゃしき じんせい じゅうよう ふし め げんしゆく  
 ニーとみなされている。

そのため、小学校、中・高校はもちろん、大学の入学式に<sup>28</sup>まで親(主  
 しょうがっこう ちゅう こうこう だいがく にゅうがくしき おや しゅ  
 として母親)が盛装してついて行くことも多い。  
 ははおや せいそう い おお



## さくら



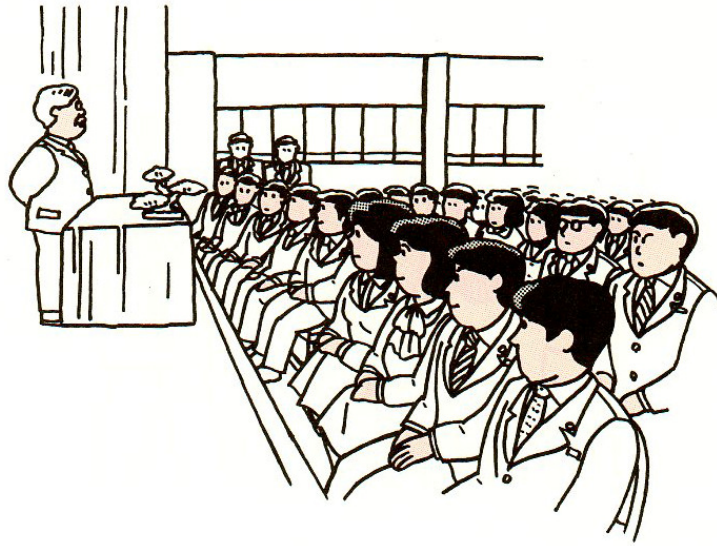
日本の天皇家の紋章は菊であり、桐の花も使われていたが、江  
 にほん てんのう け もんしょう きく きり はな つか  
 戸時代から桜が日本人の心を象徴するという考えが広まり、桜が  
 ど じだい さくら にほんじん こころ しょうぎょう かんが ひろ さくら  
 日本の国花と見なされるようになった。

日本の和歌や俳句では、月といえば八月(秋)の月、花と言え  
 にほん わ か はいく つき はちがつ あき つき はな い  
 ば桜の花を意味することになっている。それだけに桜の花の下で  
 さくら はな い み さくら はな した

日本経済にももちろん資本と労働という近代的な対立関係が存在  
 するが、それと並行して経営家族主義の伝統も強い。特に、中小企業  
 では、企業主は親、従業員は子という観念が強く、それだけに入社式  
 は通過儀礼としての意味を強く持っている。

入社式の後、新入社員は研修や実習により会社の仕事に慣れてい  
 くが、仕事と同様、恩情と忠誠といった精神的つながりも重視され  
 る。

5



宴会をする花見は、現代でも盛んに行なわれている。桜は散るときに、  
 いっせいに華やかに散ることから、武士の死に際にもたとえられ、日本  
 精神のシンボルとして尊ばれている。



## ●春闘

しゅんとう

日本にも100年くらい前から労働組合も労働運動も存在したが、その組織率は10%以下にすぎなかった。<sup>30</sup>これが、1945年の敗戦からその後<sup>31</sup>7年間の占領中に発達し、現在は20%程度になっている。<sup>32</sup>ただ、

- 5 労組の大部分は官公労や大企業の組合で、中小零細企業では、未組織の<sup>33</sup>ままになっているところが多い。また、大企業の場合、企業別組合になっており、この点、欧米と違っている。



毎年、春になると賃上げを中心とする労働条件改善のための交渉  
まいとし はる ちん あ ちゅうしん ろうどうじょうけんかいぜん こうしょう  
 が行なわれる。これは春闘（春季闘争）と呼ばれているが、ストラ  
おこ しゅんとう しゅん き とうそう よ  
 イキまで行なうことはまれで、企業と労組の間には、それほど厳し  
おこ きぎょう ろう そ あいだ きび  
 い対立はない。  
たいりつ

日本では、毎年4月に定期昇給が行なわれる。夏（6月または7  
に ほん まいとし し がつ てい き しょうきゅう おこ なつ ろくがつ しち  
 月）と冬（12月）には賞与が支給され、この賞与も賃金体系に組み  
がつ ふゆ じゅうにがつ しょう よ し きゅう しょう よ ちんぎんたいけい く  
 込まれている。  
こ

最近では能率給制を採用している企業も少しずつ増えてきているが、  
さいきん のうりつきゅうせい さいよう きぎょう すこ ふ  
 ほとんどの企業で基本的にはまだ年功賃金制が採られている。この  
きぎょう き ほんてき ねんこうちんぎんせい と  
 年功賃金制は1920年ごろに始まり、現在まで続いている。  
ねんこうちんぎんせい ねん はじ げんざい つづ

5

10

## 5月

ごがつ



## ●ゴールデンウィーク

4月29日のみどりの日に始まり、5月3日の憲法記念日、5日の

こどもの日、それに日曜も含めると、この時期は休日が多い。普通

5 この時期をゴールデンウィークと呼んで、休暇を楽しむ人が多い。

会社によっては従業員のために、休日にはさまれた週日を休業にし

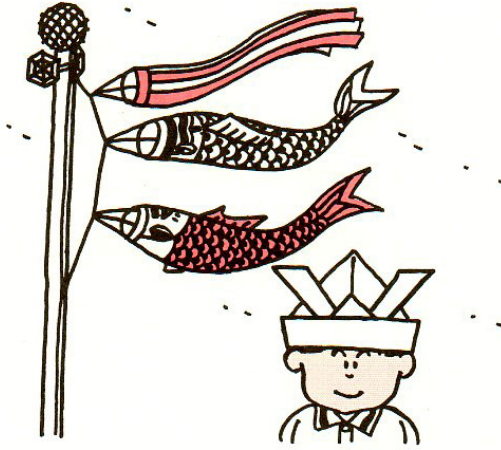
てしまうので、この週は動物園や遊園地をはじめ行楽地は人でいっ

ぱいになる。

## こいのぼり

5月5日の端午の節句に戸外に長い竿を立てて掲げる鯉の形をした紙  
または布製ののぼり。普通、吹き流しとともに揚げられる。

鯉は、強い魚で高い滝を下から水流に逆行して昇ることから、男性の  
力強さの象徴として端午の節句、つまり男の子の節句に飾られる。長さ  
が10mに達するものもあり、日本の5月の空を飾る風物になっている。



また、このゴールデンウィークに海外旅行に行く人も多い。一年  
かいがいりょこう い ひと おお いちねん  
 中でいちばん気候が良い時期なので、車や電車で旅行に行く人も多  
じゅう きこう よ じ き くろま でんしゃ りょこう い ひと おお  
 い。そのため、道路も公共交通機関も混雑し、高速道路では自動車  
どう ろ こうきょうこうつう き かん こんざつ こうそくどう ろ じ どうしゃ  
 の渋滞が数十キロに及ぶこともある。列車の乗客数が定員の200%に  
じゅうたい すうじゅう およ れっしゃ じょうきやくすう ていいん  
 達することも珍しくない。  
たっ めずら

5

5月5日はこどもの日で、昔から3月3日の女の子の節句雛祭り  
ごがついつ か ひ むかし さんがつみつ か おんな こ せつ く ひなまつ  
 とともに、<sup>34</sup>子供のすこやかな成長を祝い、幸福を願う日である。こ  
こ ども せいちょう いわ こうふく ねが ひ  
 の日は男の子の節句として武者人形や武具を飾ったり、屋外にこい  
ひ おとこ こ せつ く む しゃにんぎょう ぶ ぐ かざ おくがい  
 のぼりを揚げたりする。また、柏餅やちまきを食べたり菖蒲湯に入  
あ かしもち た しょう ぶ ゆ はい  
 ったりしてこの日を祝う。  
ひ いわ

10



# ●憲法記念日

けんぽう き ねん び

5月3日は、1947年5月3日に施行された日本国憲法を記念する  
 ごがつみつ か ねん しこう に ほんこくけんぽう き ねん

祝日で、民主主義と主権在民、そして基本的人権の尊重と平和主義  
 しゅくじつ みんしゅしゅぎ しゅけんざいみん きほんてきじんけん せんちよう へい わしゅぎ

を原則とした憲法を祝う行事がこの日に方々で行なわれる。戦争を  
 げんそく けんぽう いわ ぎょうじ ひ ほうほう おこ せんそう

5 放棄した憲法第九条は世界に類のないものである。また、政府は核  
 ほうき けんぽうだいきゅうじょう せ かい るい せいふ かく

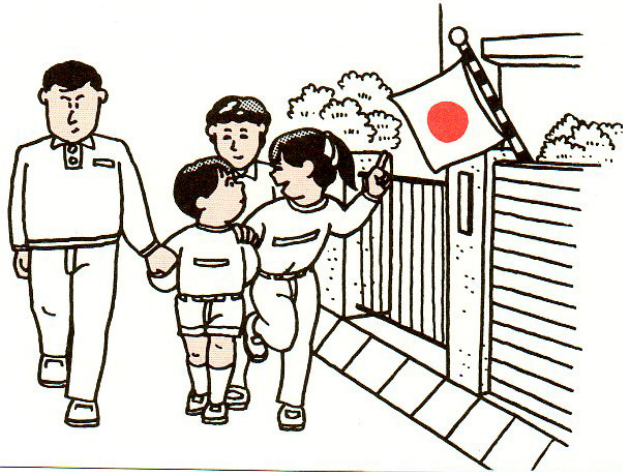
兵器を「作らず持たず持ち込ませず」という非核三原則を宣言して  
 へいき つく も も こ ひ かくさんげんそく せんげん

いるが、これも憲法の戦力不保持の原則によるものである。  
 けんぽう せんりよくふ ぼ じ げんそく

現在、戦争放棄の第九条を改めたり、天皇を元首とする憲法に書  
 げんざい せんそうほう き だいきゅうじょう あらた てんのう げんしゅ けんぽう か

き換えようとする<sup>35</sup>運動も一部で行なわれているが、憲法を改正する  
 か うんどう いちぶ おこ けんぽう かいせい

10 ためには国会の総議員の3分の2以上の賛成が必要である。  
 こっかい そうぎ いん さんぶん に いじょう さんせい ひつよう



## ニッポンかニホンか

ニッポン、ニホンの読みは少なくとも500年くらい前から両方とも使わ  
 れていた。二つのうちニッポンの方が使われる率が高かったが、公式に  
 ふた ほう つか りつ たか こうしき  
 どちらを使うかは現在も決まっていない。ただ国際スポーツでは、ほと  
 つか げんざい き こくさい  
 んどの場合ニッポンを使っている。Nipponの方がデザインとしても美し  
 ば あい つか ほう うつく  
 く、かつ発音が強く響くからだろう。  
 はつおん つよ ひび

日本人は伝統的に法律に従順で、交通規則をはじめ法律で定められたことは忠実に守る傾向が強い。昔から「泣く子と地頭には勝てぬ」ということわざがあり、行政も司法も、為政者に依存する意識が根強く残っている。だから、法律を制定するのは国民であるという考えは今でも薄く、お上から与えられ守られると信じている人が圧倒的に多い。面白いことに、日本の大学では法学部で法律を学んで卒業した学生の大部分は、法律の知識をあまり必要としない民間企業に就職する。

離婚や交通事故などの際、法廷外での協議や示談で解決したがるのも日本人の法意識を反映するものだろう。法は冷たく恐ろしく、できるなら近づかないようにしたがる心理がその背景にはたらいっている。「法に触れる」という日本語は、法に違反した行為をすることなのだ。つまり、法に近づいたり触れたりすることを避けたがる意識がはたらいっていることになる。日本のテレビドラマや映画で法廷場面が少ないのも、日本人の裁判所敬遠の心理の現れて、視聴者には法廷でのやりとりに興味がないのだろう。

なお、ニッポン、ニホンのほかにもジッポンと発音した例も昔から存在し、これがJapanの語源になったものと思われる。



## 銀座

ぎんざ

東京でもっとも洗練された地域で、高級店やデパート、レストラン、バーなどが集中している街。新宿・原宿などとともに流行の中心地になっている。

昔、徳川幕府の銀貨を造る役所があったので銀座という名になったのだが、現在、地方都市でも何々銀座というふうに中心街に銀座の名をつけているところが多い。

## 新宿

しんじゅく

渋谷・池袋などとともに東京の副都心となっている地区。郊外からの電車が副都心に集中するが、新宿は小田急線・京王線といった重要な路線の終点になっている。

また、JRの山手線と中央線の交差するところでもあり、毎日数百万の人が新宿で乗り降りする。新宿駅の西側には東京都庁があり、オフィスやホテルなどの高層ビルも林立し、東京の経済・文化の中心部の一つとなっている。それに対して、東側の方は、歌舞伎町を中心とする歓楽街、デパートの並んでいる新宿通りをはじめとして若者の集まるにぎやかな商店街になっている。

## 原宿

はらじゅく

東京の明治神宮近くの原宿は昔からあった町だが、この20年くらいの間に若者のファッション街として発達し、若者で常ににぎわうようになった。衣料品やアクセサリーの店が軒を並べ、若者向きの新しいファッションが毎週のように発表され、国際的にも注目されている。



## 浅草

あさくさ

東京の浅草寺（普通“浅草観音”と呼ぶ）を中心にして江戸時代から発達した地域。土産物や伝統的な工芸品や玩具を売る商店、食べ物屋などが集中しているため、庶民に親しまれている。東京の中でもっとも江戸時代の雰囲気が残っている地区といえよう。

かつては、映画館や小劇場が多く、川端康成や高見順をはじめ、浅草の庶民生活と軽演劇を愛好する若いインテリがこの地域を訪れ、作品にも描いたため繁華を極めたが、今はむしろ庶民の街として観光客が訪れる名所になっている。

## 秋葉原

あきはばら

電気製品を割引する店が多数集まっている東京の下町の商店街。冷蔵庫・テレビからコンピューターやその部品などまで、あらゆる電気・電子機器関係の商品がほかより安く売られており、日本人はもちろん海外からの旅行者も訪れる名所になっている。

製造会社からの大量仕入れで、仕入値を下げ、より安い値段で提供できるために顧客が多く、東京のもっともにぎやかな商店街の一つになっている。

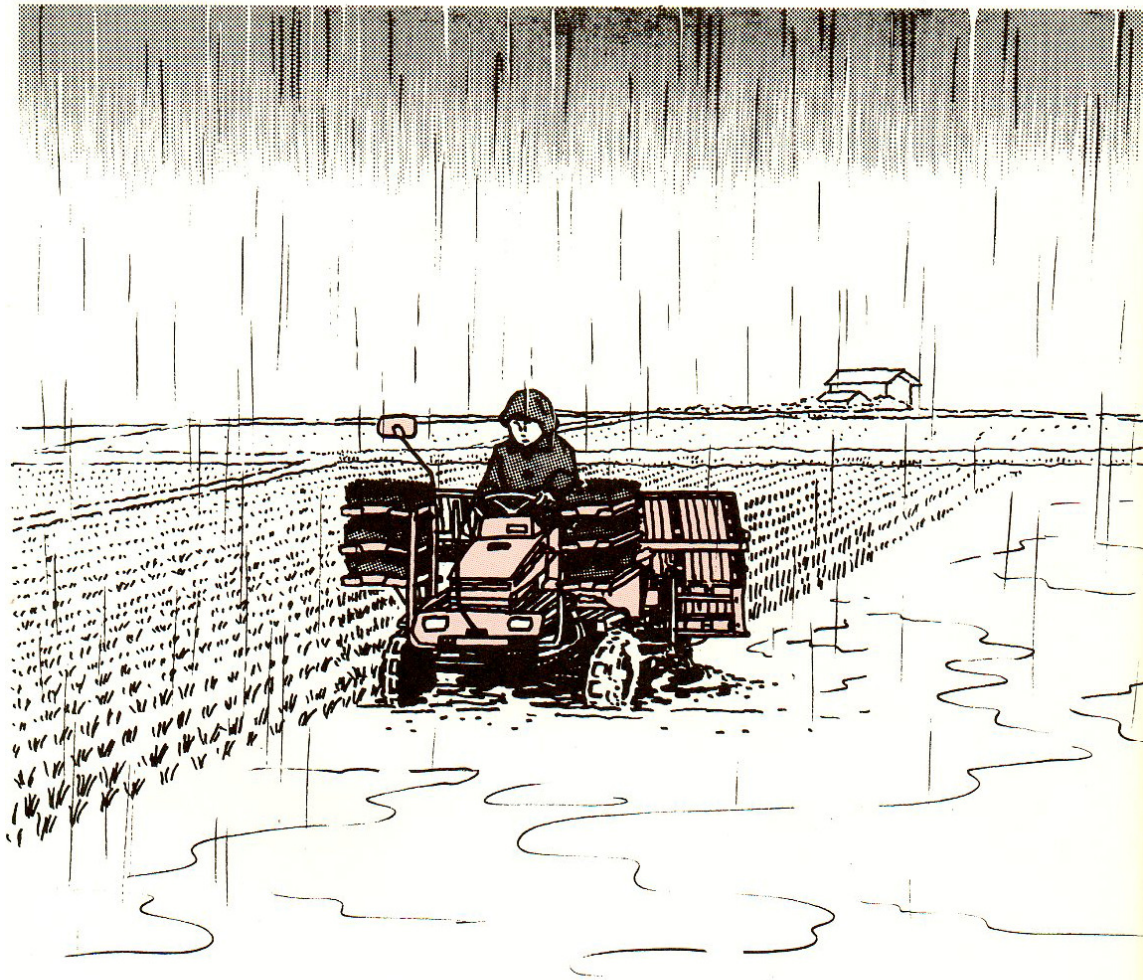
## 下町と山の手

したまち やま て

東京が明治維新の前に江戸と呼ばれていた時代には、将軍の居城（現在の皇居）を中心にして、大名や武士の居住する地区と商人が居住する地区に分かれていた。そして、前者を山の手、後者を下町と呼んだ。東京が近代化しても、この区別はまだ残っていて、現在も下町は商人や労働者の住宅が多く、神田や浅草、日本橋などは商業地区が多い。

これに対して山の手は住宅街が多く、文化・教育などの中心といったイメージが強い。ただし、日本では居住する地域によって階級差のイメージが伴うことはほとんどなく、ごく一部の高級住宅地以外は、地価も町のイメージも中流的になっている。また、下町にもスラム街はない。





## 6月

ろくがつ

### ●梅雨

つ ゆ

6月上旬から7月中旬にかけて、北海道を除いて、日本は高温多  
 ろくがつじょうはん しちがつちゅうはん ほっかいどう のぞ にほん こうおん た

湿の梅雨の季節を迎える。快適なシーズンではないが、千年以上も  
 しつ つ ゆ き せつ むか かいてき せんねん い じょう

5 日本の基幹産業になっている米作りには大切な田植えの時期であり、  
 にほん きかんさんぎょう こめづく たいせつ た う じ き

日本人は今でも多かれ少なかれ親しみを抱いている。  
 にほんじん いま おお すく した いだ



米作農業を中心として生まれた伝統は、日本人の生活や文化に今  
べいさくのうきよう ちゅうしん う でんとう にほんじん せいかつ ぶん か いま  
 も広範囲にわたって根づいており、季節の変化に対応しているもの  
こうはん い ね き せつ へん か たいおう  
 が多い。  
おお

たとえば、現代でも数百万人もの作者があるといわれる和歌や俳  
げんだい すうひゃくまんにん さくしや わ か はい  
 句は、作品が春夏秋冬に分類されることになっており、俳句の場合  
く さくひん しゅん か しゅうとう ぶんるい はいく ばあい  
 は句の中にならず季語を入れるという規則が守られている。  
く なか き ご い き そく まも

数千万人のファンを持つ流行歌でも、歌詞に風・雨・雪をはじめ  
すうせんまんにん も りゅうこう か か し かぜ あめ ゆき

花々や月など季節を感じさせる語句が人間の喜怒哀楽と結びついて  
はなばな つき き せつ かん ご く にんげん き ど あいらく むす

現れる。源氏物語のような11世紀の小説でも、人間社会のできごとと、  
あらわ げん じ ものがたり じゅういっせい き しょうせつ にんげん しゃかい

それに見合う自然の風物が描かれている。また、現代の映画やテレ  
み あ し ぜん ふうぶつ えが げんだい えい が

5 ビッドラマでも、人間のさまざまな行動を見せる場面の前後に、自然  
にんげん こうどう み ば めん ぜん ご し ぜん

の風物を見せて人間心理と自然の融和を試みているものが多い。  
ふうぶつ み にんげんしん り し ぜん ゆう わ ころ おお

手紙の始めや人に対する挨拶でも、本題に入るまえに時候の挨拶  
て がみ はじ ひと たい あいさつ ほんだい はい じ こう あいさつ

が述べられる。これも、季節感を大事にする伝統から来ている。団  
の き せつかん だい じ でんとう き だん

地やマンションなど近代建築に住む人たちの中でも、機会があれば  
ち きんだいけんちく す ひと なか き かい

10 庭つきの家に住むことを夢見ている人が多いのもやはり、草花を身  
にわ いえ す ゆめ み ひと おお くさばな み

近にして暮らしたいという伝統心理の現れだ。  
ぢか く でんとうしん り あらわ

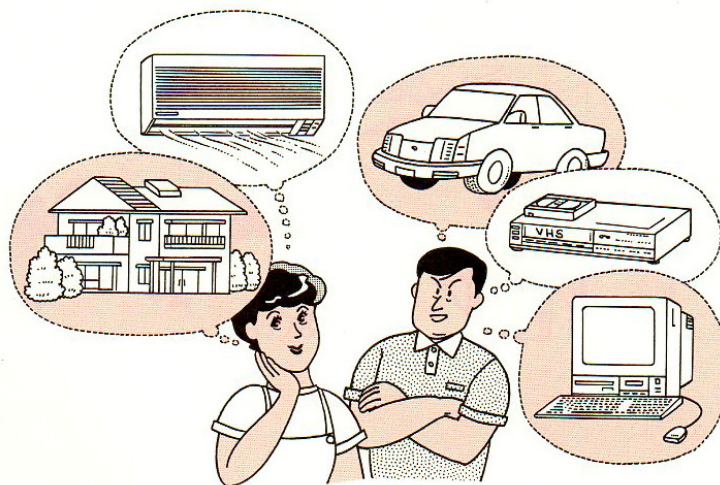


# 日本の四季

月 つき	季節 きせつ	
1月	冬 ふゆ	
2月		
3月	春 はる	
4月		
5月	初夏 しよか	
6月	梅雨 つゆ	
7月		
8月	真夏 まなつ	
9月	秋雨 あきさめ	
10月		
11月	秋 あき	
12月		
	初冬 しよとう	

## ●ボーナス

- 日本では、夏（6月または7月）と冬（12月）にボーナスが支給  
に ほん なつ ろくがつ しちがつ ふゆ じゅうがつ しきゅう  
 される。会社の経営状態により金額は若干変動するが、かならず支  
かいしゃ けいえいじょうたい きんがく じやっかんへんどう し  
 給されるのが慣行になっている。また、利潤を目的としない学校や  
きゅう かんこう かんこう り じゆん もくてき がっこう  
 5 官公庁でも支給されるのが普通になっている。もともと、本俸の額を  
かん こうちやう しきゅう ふつう ほんばう がく  
 低くしておいて、臨時にボーナスを支給することで恩恵感を高める  
ひく りん じ しきゅう おんけいかん たか  
 のが目的なのだが、日本人の給与所得者にとっては消費生活の行動  
もくてき に ほんじん きゅう よしょとくしゃ しょう ひ せいかつ こうどう  
 様式の中でボーナスシーズンの6・7月と12月が特別な月となっている  
ようしき なか ろく しちがつ とくべつ つき  
 る。たとえば、普通の月には買えない高価なビデオやエアコンとい  
ふつう つき か こう か  
 10 ったものに対する大型支出は、ボーナス月に予定される。  
たい おおがた し しゅつ づき よてい

心付け  
こころづ

日本にはチップ制がまったく存在しないが、伝統的な旅館や料  
に ほん せい ぞんざい でんとうでんき りょかん りょう  
 亭などでは、サービスに当たった従業員や板前に感謝の意味で現  
でい じやうきやういん いたまえ かんしゃ い み げん  
 金を渡すことがある。これを心付けという。文房具屋などに、そ  
きん わた こころづ ぶんぼうぐ や  
 れ用の小さな封筒が売られており、それにお金を入れて渡すのが  
よう ちい ふうとう う かね い わた  
 習慣になっていて、むきだしのまま渡すことはない。  
しゅうかん わた

デパートなどでは、それを目当てにして、ボーナス払いという形で売り出す。また、住宅や自動車などの長期ローンの支払い計画も、6月と12月（または7月と1月）には額を大きくするという方式をとっている。

また、お祭りやめでたい行事の際などに、お手伝いや運転手などに心付けを与えることもある。これは普通祝儀袋に入れて渡される。このほか、劇場や球場などでは客が大勢入ったり営業成績がよかったときに、大入り袋といって関係者全員にお金を贈ることがある。これは「大入り」と印刷した小型の封筒が使われる。ただし、ホテルや近代的レストラン、鉄道、空港など近代的な設備や機関では、心付けの習慣はまったくない。



## 7月

しちがつ

7月は夏の盛りで、小学校から大学まで夏休みが始まり、生活の  
しちがつ なつ さか しゅうがっこう だいがく なつやす はじ せいかつ  
 パターンも夏の様式に切りかえられる。  
なつ ようしき き

### ●中元

ちゅうげん

5

大昔の日本は一年が1月から6月までと、7月から12月までの二  
おおむかし に ほん いちねん いちがつ ろくがつ しちがつ じゅうにがつ ふた  
 つに分けられ、7月が正月になり1月から6月までの行事と同じよ  
わ しゅうがつ ぎょうじ おな  
 うなものが繰り返された。この名残はほとんど見られないが、7月  
く かえ なごり み  
 にお中元と称して日ごろ世話になっている人たちに贈り物をするの  
ちゅうげん しょう ひ せ わ ひと おく もの  
 は、年末のお歳暮に相当するのかもしれない。  
ねんまつ せいぼ そうとう



お中元には食べ物や日用品を贈るのが普通で、デパートその他で  
 ちゅうげん た もの にちようひん おく ふつう た  
 は、特別な売り場を設けたり、アルバイトを雇ったりして大セール  
 とくべつ う ば もう やと だい  
 を行なう。最近<sup>42</sup>は、先方に直接持参することをせず、デパートその  
 おこ さいきん せんぼう ちよくせつ じ さん  
 他から配達されることが多い。

お中元は、目上の人や世話になった人に感謝のつもりで贈られるも  
 ちゅうげん め うえ ひと せ わ ひと かんしゃ おく  
 のだが、一般に日本人の贈り物は、それに対してお返しをするのが礼  
 いっぱん に ほんじん おく もの たい 44 かい れい  
 儀になっている。葬式や結婚式などに贈られる金品に対しては、前者  
 ぎ そうしき けつこんしき おく きんぴん たい ぜんしゃ  
 のような弔事には50%程度、後者のような慶事では目下の人には同  
 ちよう じ てい ど こうしゃ けい じ め した ひと どう  
 額程度、目上の人や同等の人には50%程度といった基準が慣習によ  
 がく てい ど め うえ ひと どうとう ひと てい ど き じゆん かんしゅう  
 って決まっています、それを間違うと関係者から陰口をたたかれかね  
 き ま ちが かんけいしゃ かげぐち  
 ない。<sup>45</sup>欧米のチップの計算と同様に非常に難しい。

特に、慣習のきびしい農村地方では、病氣見舞いでも旅行の餞別  
 とく かんしゅう のうそん ち ほう びよう き み ま りょこう せんべつ  
 でも、金品を記録しておいて、贈り主に同様なことが生じた場合は  
 きんぴん き ろく おく ぬし どうよう しょう ば あい  
 かならず金品を贈ることになっている。こういう社会では大切な「義  
 きんぴん おく 46 しゃかい たいせつ ぎ  
 理」というのは、この「お返し」であると考えている人が多い。こ  
 り 46 かい かんが ひと おお  
 の贈り物とお返しは、相互扶助の保険の原初的な形態と考えている  
 おく もの かい そうご ふ じょ ほけん げんしよてき けいたい かんが  
 学者もいる。  
 がくしゃ

5

10

15



## ●夏休み

なつやす

大学は7月上旬、高校・中学・小学校は7月中旬から8月末まで  
 だいがく しちがつじゅうじゅん こうこう ちゅうがく しょうがっこう ちゅうじゅん はちがつすえ

長い夏休みに入る。都会でアパートや寮に入っている学生たちは帰  
 なが なつやす はい と かい りょう はい がくせい き

省したり、学期中に十分にできなかったクラブ活動を合宿して行な  
 せい がっ き ちゅう じゅうぶん かつどう がっしゅく おこ

5 ったりして楽しむ者も多い。最近では休み中に海外に行って語学の研  
 たの もの おお さいきん やす ちゅう かいがい い ご がく けん

修をする者も多くなってきた。

しゅう もの おお

## 漫画

まん が



漫画は、少年少女向けの軽い読みものと、政治・社会風刺のコミカル  
 まん が しょうねんしょうじょ む かる よ せい じ しゃかいふうし  
 な絵として長い歴史を持っているが、1960年代から長編ストーリーの劇  
 え が なが れき し も ねんだい ちようへん げき  
 画が発達し、テレビに馴染れた若い世代に圧倒的な支持を得て、100万部以  
 が はったつ な わか せ だい あつとうで き し じ え まん ぶ い  
 上の発行部数を持つ漫画雑誌が何種類も出現した。  
 じよう はっこう ぶすう も まん が ざっし なんしゅるい しゅつげん



また、夏休みはアルバイトをしてお金を貯め、海外旅行やレジャー  
なつやす かね た かいがい りよう  
 に使う学生も少なくない。昔の学生は、学資や生活費を稼ぐために  
つか がくせい すく むかし がくせい がくし せいかつ ひ かせ  
 働いたが、今の学生は旅行したりカメラを買ったり衣服をそろえた  
はたら いま がくせい りよう か い ふく  
 り、趣味・娯楽のためにアルバイトをする。

高校生・中学生は、受験勉強で忙しく、夏休みの間、塾や予備校な  
こうこうせい ちゅうがくせい じゅけん べんきょう いそが なつやす あいだ じゅく よ び こう  
 どで集中的に勉強する者が多い。それに対して、サラリーマンは夏  
しゅうちゅうてき べんきょう もの おお たい  
 季休暇や有給休暇を取って、旅行や避暑に出かける。日本の企業は、  
き きゅう か ゆうきゅうきゅう か と りよう ひしょ で にほん きぎょう  
 避暑地や避暑地などに社員用の寮を持っているところが多く、従業  
ひしょち ひかんち しゃいんよう りょう も おお じゅうぎょう  
 員は海や山や温泉地などで安上がりのレジャーを楽しむことができ  
いん うみ やま おんせんち やす あ たの  
 る。

5

10

月刊・週刊の雑誌が多く、現在、発行部数400万以上の雑誌も出ている  
げっかん しゅうかん ざっし おお げんざい はっこう ぶすう まん いじょう ざっし で  
 ほどで、読者層も若者だけでなく中年層にまで広がっている。また、少  
どくしゃそう わかもと ちゅうねんそう ひろ  
 女向けの漫画も数多く出ており、漫画に影響された丸文字を書く少女は  
じょむ まん が かずおお で まん が えいきょう まる も じ か しゅうじょ  
 500万人以上と推定されている。文字だけでなく、漫画から流行語が生ま  
まん にん いじょう すいでい も じ まん が りゅうごう ご う  
 れたり、歴史や思想などの参考書も漫画で描かれたものも多く読まれる  
れきし し ぞう さんこうしょ まん が えが おお よ  
 など、日本人の文化活動に欠かせないものになりつつある。  
にほんじん ぶん か かつどう か

日本では、年賀状のほかに暑中見舞いを出す習慣もある。既製の  
に ほん ねん が じょう しょう けん み ま だ しゅう かん き せい  
 はがきも多く売り出されているし、普通の手紙のはじめに書くこと  
お お う だ ふ つう て が み か  
 もある。また、立秋を過ぎるとこれが残暑見舞いという言葉に代わ  
り っ しゅう す ざん しょ み ま こと ば か  
 る。季節感が一年の生活の中に強く反映した興味深い例だ。  
き せつ かん いち ねん せい かつ なか つよ ほん えい きょう み ぶ か れい

5





## 挨拶

あいさつ

人に会ったときには、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」といった挨拶がかわされる。はじめて会う相手には「はじめまして」「よろしくお願いします」などを使う。別れるときには、「さようなら」「〇〇さんによろしく」といった表現がよく使われる。



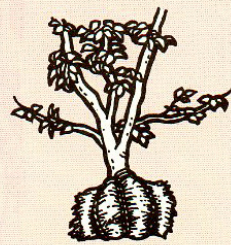
相手の許しを願ったり、相手の前を横切ったりするときには「失礼します」「ごめんなさい」「すみません」などを使う。

このほか、挨拶の慣用句はいろいろあるが、「どうも」「どうも、どうも」は「こんにちは」にも「すみません」「しばらくでした」にも使うことができ、「さようなら」の代わりにもなるので、まず第一に学ぶべき日本語だと外国人に教える人もいる。

## 根回し

ねまわ

会社や団体などで議決によって何かを決める場合、あらかじめ出席者に個人的に相談なり打ち合わせをしておいて、会合の席で意見が対立したり感情的に紛糾しないようにすることを根回しという。



衆議は、本来出席者が自由に意見を出し合って討議するのが目的だが、多数決よりも全会一致方式を好む日本の伝統では、議決の後の感情的な対立を避けるために、会議の始まる前に意見の調整を済ませておくのが賢明とされている。そのため、会議は形式的に決定を確認するといった場合が少なくない。

根回しという言葉は大木を移植するために木の周囲を掘り下げ、小さな根を切断し、藁縄で根の部分をくくって、移動しやすいようにする準備のことで、これが比喩的に会社などでの意見調整の意味に使われるようになった。



## 8月

はちがつ

一年中でいちばん暑い8月は、学校の夏休みと会社などの有給休  
 いちねんじゅう あつ はちがつ がっこう なつやす かいしゃ ゆうきゅうきゅう  
 暇を利用して家族そろって旅行をする人々が多く、一年のうちでも  
 か りよう かぞく りょこう ひとびと おお いちねん  
 っともリラックスする月にもなっている。しかし、企業に勤めるサ  
 つき きぎょう つと  
 5 ラリーマンは通常1週間程度の休暇しか取らず、欧米のように3週  
 つうじょういっしゅうかんてい ど きゅうか と おうべい しゅう  
 間も休暇を取る者は少ない。  
 かん きゅうか と もの すく

## ●盆

ぼん

8月13日から15日まで全国でお盆の行事が行なわれる。お盆は古  
 はちがつ にち にち ぜんこく ぼん ぎょうじ おこ ぼん ふる  
 い伝統のある仏教の行事で、この日、先祖の魂が戻ってくるとい  
 でんとう ぶつぎょう ぎょうじ ひ せんぞ たましい もど  
 10 ので花や食べ物を供えて祭る。  
 はな た もの そな まつ



## 京都

きょうと



江戸時代末まで日本の首都だった町。天皇の居住した御所や離  
 えど じだいまつ にほん しゅと まち てんのう きよじゅう ごしょり  
 宮があり、宗教各派の中心でもあったので、真宗・禅宗をはじめ  
 きゅう しゅうきょうかく は ちゅうしん しんしゅう ぜんしゅう  
 仏教の寺院も非常に多い。第二次大戦の際に奈良とともに米軍の  
 ぶつぎょう じいん ひじょう おお だいに じたいせん さい なら べいぐん  
 爆撃をまぬがれたため、歴史的に有名な場所が多く、観光地とし  
 ばくげき れきし てき ゆうめい ぼしよ かんこうち  
 ても日本でもっとも多く観光客が訪れる町でもある。  
 にほん おお かんこうきやく おとず まち

特に前年にだれかが亡くなった家では新盆といって盛大に行なう。  
とく ぜんねん な いえ にいぼん せいだい おこ  
 お盆が終わって魂がふたたび帰るとき、草や紙で舟を作りこれを海  
ぼん お たましい かえ くさ かみ ふね つく うみ  
 に流す精霊流しも多くの地方で行なわれる。また、魂を慰めるため  
なが しょうりょうなが おお ち ほう おこ たましい なぐさ  
 の盆踊りも盛大に行なわれる。  
ぼんおど せいだい おこ

お盆には都会生活をしている家族も郷里（主として夫の郷里）に  
ぼん と かいせいかつ かぞく きょうり しゅ おつと きょうり  
 帰るので、交通機関は航空機も列車も超満員になり、逆に大都市の  
かえ こうつう き かん こうくう き れっしゃ ちょうまんいん ぎゃく だい と し  
 交通の渋滞は緩和される。  
こうつう じゅうたい かん わ

お盆は宗教的な意味だけでなく、帰省によって家族や親戚、友人  
ぼん しゅうきょうてき い み 48 き せい かぞく しんせき ゆうじん  
 などと旧交をあたためる点でも、日本人の精神生活に重要なはたら  
きゅうこう てん に ほんじん せいしんせいかつ じゅうよう  
 きを果たしている。  
は

5

10

京都は、明治になるまで文化の中心地だったので、今も京都大学をは  
きょうと めいじ ぶん か ちゅうしん ち いま きょうと だいがく  
 じめ教育機関が東京に次いで多く、西陣織・京焼など生活文化の面でも  
きょういく き かん とうきょう つ おお にしじんおり きょうやき せいかつぶん か めん  
 日本の指導的役割を果たしている。  
に ほん し どうてきやくわり は

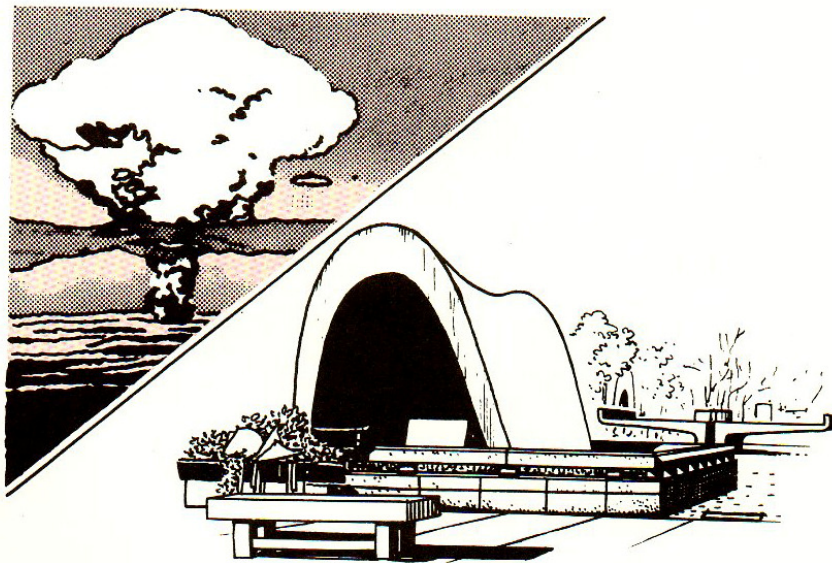
現在は、鉄道の時刻表は東京に向かう列車が上り、東京から離れる列  
げんざい てつどう じこくひょう とうきょう む れっしゃ のぼ とうきょう はな れつ  
 車が下りとなるが、京都が首都の時代は、すべて京都に向かって進むの  
しゃ くだ きょうと しゅと じだい きょうと む すす  
 が上りで、京都から離れるのが下りだった。  
のぼ きょうと はな くだ

## ●終戦記念日

しゅうせん きねん び

1945年8月15日、日本は連合国に無条件降伏をした。その日を記念して8月15日にはいろいろな催しが行なわれる。マスメディアでは、戦争の悲惨な状況についての記事や回想が多く報道され、戦争で死んだ人たちの慰霊祭も方々で行なわれる。

これより前、8月6日は広島で、8月9日は長崎で、1945年に原子爆弾が投下された日をしのび、平和を祈り核戦争を絶対に起こさないことを願う集会が盛大に行なわれる。8月は国民が反戦反核の思いを新たにす月でもある。



## 広島

ひろしま

大阪から約350 km 西にある町。1945年8月に米国の原子爆弾が投下され、世界で初めて被爆した町として有名である。原爆慰霊碑をはじめ、原子爆弾を記念する施設が中心部に多く、観光のスポットになっている。

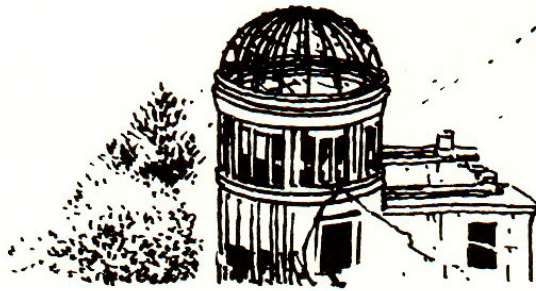
広島は、明治時代に日清戦争・日露戦争と2回の戦争に際し大本営が設けられたところで、広島市の近くの呉にあった軍港とともに、軍事都市



ただ、すでに「戦争を知らない」世代が日本の人口の半分以上を  
せんそう し      せ だい      に ほん      じんこう      はんぶん い じょう  
 占めている今日、戦争の悲惨さに対する記憶はだんだん薄れてきて  
し      こんにち      せんそう      ひ さん      たい      き おく      うす  
 おり、一部では戦争についての教科書の記述を書き換えようという  
いち ぶ      せんそう      きょう か しょ      き じゆつ      か      か  
 動きも出てきた。

しかし、日本の憲法をはじめ教育・司法・行政など、すべて1945  
し      ほん      けんぽう      きょういく      し ほう      ぎょうせい  
 年を境にして大変革を遂げていることは明らかで、新しい世代の行  
ねん      さいかい      だいへんかく      と      あき      あたら      せ だい      こう  
 動を含めて、戦争前の国家主義的な日本に立ち戻ることは想像もで  
どう      ふく      せんそうまえ      こっ か しゅ ぎ      でき      に      ほん      た      もど      そうぞう  
 きない。

5



として発達した。

はったつ  
 広島に近い宮島には厳島神社が<sup>あ</sup>って、京都の天の橋立・仙台の松島  
ひろしま      ちか      みやじま      いづくしまじんじや      きょう と      あま      はしだて      せん だい      まつしま  
 とともに日本三景の一つとして知られている。  
に      ほんさんけい      ひと      し

## ●高校野球

こうこう や きゅう

日本のスポーツでは、年6回、15日ずつ行なわれる相撲が国技として歴史ももっとも古く、ファンの数も多いが、相撲人口は非常に少ない。それに比べてプレーするスポーツとしては、野球人口が圧倒的に多く、プロ野球も相撲以上のファンを持っている。

5

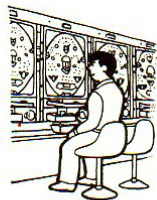
どうてき おお や きゅう すもう い じょう も

そういう中で、アマチュア野球としては年2回春と夏に行なわれる甲子園の高校野球大会がもっとも盛んで、国民的行事としても重要な位置を占めている。

よう い ち し



## パチンコ



ピンボールマシンをたて型にしたもので、直径1cmくらいの鉄の玉を右下についているハンドルを使ってはじき上げ、うまく穴の一つに入れば10数個の玉が戻ってくる。玉が多数になれば、景品と交換できる。

けいひん こうかん

最近、玉をはじき出す装置がモーター仕掛けになっていて、

さいきん たま だ そうち じか

現在、野球チームを持っている高校は約4,000校あり、春はその中  
 から32校が選抜されて、甲子園球場でトーナメントで優勝校を決め  
 る。夏は全国の予選トーナメントを勝ち抜いたチームが約50校で最  
 終トーナメントを行ない、全日本の優勝校を決める。人々は、それ  
 ぞれ自分の郷土チームを声援し、特に準決勝・決勝の日には日本全  
 国とってよいほど国民は熱狂する。

5

日本のスポーツとしては、柔道・剣道・空手などの伝統的なもの  
 と、テニス・ゴルフ・バレー・サッカー・ラグビーなど西洋から輸  
 入されたものがある。それぞれ参加人口もファン人口も多いが、  
 野球はプレーする人口とファンの人口ともに他に比べて圧倒的に数  
 が多く、世界でもっとも購読者数の多い各種スポーツ新聞でも、記  
 事は野球が中心になっている。

10

モーターの調節によって上手下手の差が出る。景品も文庫本や雑誌・日  
 用品・食料品など多種多様だ。  
 パチンコは、第二次大戦後に麻雀とともに流行し、現在でもパチンコ  
 に興じる人口は非常に多く大衆の娯楽として定着している。



## 敬語

けいご

日本の敬語には三種類ある。話し手の聞き手に対する敬語と、話の主題の中の人物に対して敬意を表わす敬語と、自分がへり下ることによって聞き手に対して敬意を示す敬語の三つだ。たとえば、「雨が降る」という表現を「雨が降ります」とすれば、聞き手に対して話し手が敬意を払うことになる。この敬語法では「先生が来る」という文は、「先生が来ます」となるが、先生に対する敬意は込められていない。これを「先生が来られる(いらっしゃる)」とすれば、先生に対する敬意は示されるが、聞き手に対する敬意は込められない。「先生が来られます(いらっしゃいます)」とすれば、両者に対する敬意が示されるわけだ。



三番目のへりくだる敬語は、自分の妻を愚妻といったり、人に贈る物を「つまらない物」と呼んだりすることにより、相手を高める方法だ。

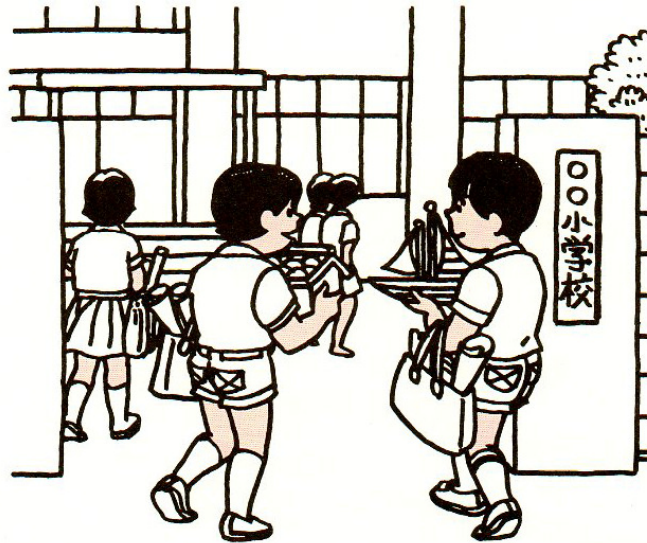
日本語の敬語でいちばん面倒なものは、人称代名詞を含めた呼び方だ。「わたし」を「僕」といい、「あなた」を「君」「おまえ」というように、何十種類もの人称代名詞がある。また、自分より上位者を呼ぶときは地位や役職名を使い、下位者を呼ぶときは、代名詞やその人の名前を呼ぶという約束も厳しく守られている。「社長・お父さん・先生」は、それぞれその人を呼ぶときに使うけれども、社長が部長を「社員」と呼んだり、父親が子供を「息子」と呼ぶことはない。

ただ、最近は次第に敬語が簡略化されてきており、昔のような厳しい用法は少なくなっている。

## 9月

く がつ

9月に入ると学校の休暇が<sup>あつ</sup>終わり、新しい学期が<sup>はじ</sup>始まる。まだ暑<sup>あつ</sup>  
 さは残<sup>のこ</sup>っているが、心理<sup>しん</sup>的<sup>り</sup>には夏<sup>なつ</sup>ではなく、秋<sup>あき</sup>の到来<sup>とうらい</sup>を感じ<sup>かん</sup>させる  
 言葉<sup>ことば</sup>やイメー<sup>ぎ</sup>ジが<sup>ざっ</sup>テレビや雑誌・新聞<sup>しんぶん</sup>に数多<sup>かず</sup>く現<sup>あらわ</sup>れる。





## ●台風

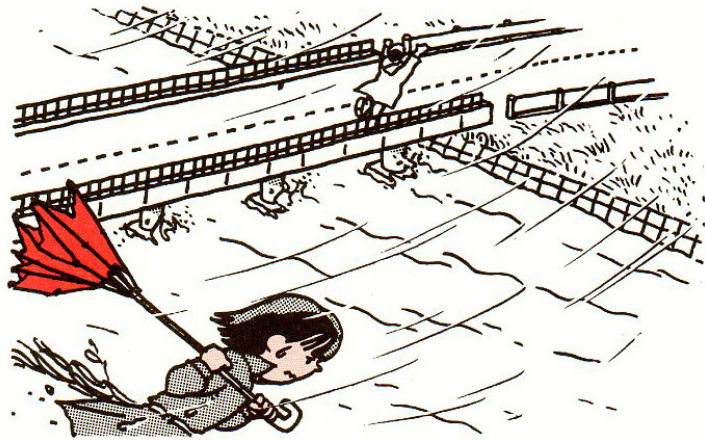
たいふう

7月ごろから何回も台風が日本を襲うが、9月に入ってからのが  
しちがつ なんかい たいふう にほん おそ くがつ はい たいふう  
 いちばん話題になる。米作を中心とした伝統が千年以上も続いた日  
わ だい べいさく ちゅうしん でんとう せんねん い じょう つづ に  
 本では、稲の花の咲く時期に来る台風がもっとも大きな関心事だっ  
ほん いね はな さ じ き く たいふう おお かんしん じ  
 たからだ。

5

防災設備や対策の完備した近代とちがい、昔は台風は恐ろしいも  
ぼうさいせつ び たいさく かん び きんだい むかし たいふう おそ  
 のであり、逆らうことのできないものだった。日本人の心に宿る無  
さか にほんじん こころ やど む  
 常感じょうかんは、もちろん仏教の影響を強く受けたものだが、その底には自  
ぶつぎょう えいきょう つよ う そこ し  
 然の猛威ぜん もう い たいに対して抵抗することのできない人間の無力感にんげん むりよくかんが流れてい  
なが  
 た。それは、自分の運命を天から与えられたものと観ずる心情にも  
じ ぶん うんめい てん あた かん しんじょう  
 通じる。  
つう

10





また、日本の家屋が木や紙で作られたもろい構造であるのも、自然の力に対する人為の無力さを諦観した人々が、家屋を仮の住まいとみなす心情を反映したものだだった。

一方、台風は米作農業（水田耕作）に必要な大量の雨をもたらし、ものとして自然の慈愛の現れでもあった。日本の古い格言に「待てば海路の日和あり」とか「果報は寝て待て」といったものが多いのも、人為よりも自然の恵みの大きさを意識した人々の英知を示すものだった。

## 能

能は狂言とともに14世紀半ばごろから伝わる歌舞劇で、16世紀に完成し、現在まで上演されている。もともとは、寺社に奉納された歌舞や、農作物の豊穡を祈る舞踊だったのが、次第に文学的に洗練され、思想的な深まりを持つようになり、江戸時代には武士をはじめ知識人の教養として愛好されるようになった。

現在では240種ほどの演目がある。仏教思想を背景とし、源氏物語、伊勢物語をはじめ、仏典、漢詩文などの言葉を駆使した美しい文章は、日本人の教養のよりどころとなっている。

死んだ歴史的人物が現れて過去を語るもの、現在の人間が喜怒哀楽を物語るものなど筋は様々だが、華やかな衣裳で主人公たちが静かに語り謡う姿は、日本的な美を十分にたたえていて、知的な古典劇として、もっとも高い位置にある。

江戸時代の歌舞伎や浄瑠璃も、能の上演法の影響を強く受けて発達したもので、日本文化の理解には不可欠なものといってよからう。また、松尾芭蕉や井原西鶴の文学にも、能の言葉が多く出てくるのは、江戸時代の教養として能が重要な役割を果たしたことを示すものだ。



# ●彼岸

ひ がん

9月23日は秋分の日で、3月21日の春分の日とともに祝日になっ  
く がつ にち しゅうぶん ひ さんがつ にち しゅんぶん ひ しゅくじつ

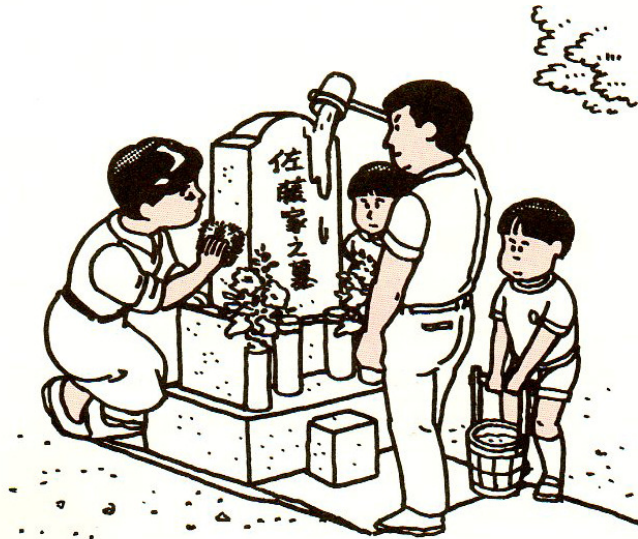
ている。伝統的には彼岸と呼ばれ、仏教思想にもとづいたものだ。  
でんとうてき ひ がん よ ぶつぎょう し そう

彼岸とは向こうの岸の意味で、此岸つまり現世に対して「あの世」  
ひ がん む きし い み し がん げん せ たい よ

5 を指す。秋分の日をはさんだ7日間が彼岸で、この間に先祖の霊を  
さ しゅうぶん ひ なの か かん ひ がん あいだ せん ぞ れい

祭り、お墓参りをする。  
まつ はかまい

ただ、現在では宗教的な意識は薄れ、単なる休日になっている。  
げんざい しゅうきょうてき い しき うす たん きゅうじつ



## ふろしき

四角い絹・木綿・麻などの布で、物を包んで持ち運ぶのに使う。  
しかく きぬ もめん あさ のの もの つつ も はこ つか

新聞紙の一边の長さを正方形にしたいものが多い。使わな  
しんぶん し いっぺん なが せいほうけい おお つか  
いときは小さく折り畳むことができるので、今でも愛用する人が  
ちい お たた いま あいよう ひと  
多い。  
おお



もともとは、風呂屋に行く際に用具を包んで持ち運び、入浴を  
ふ ろ や い さい ようぐ つつ も はこ にゅうよく

そして「暑さ寒さも彼岸まで」という昔からの言葉にあるように、  
あつ さむ ひ がん むかし こと ば  
 このころに季節の変わり目を感じる人が多い。秋分の日が過ぎると、  
き せつ か め かん ひと おお しゅうぶん ひ す  
 柿・栗・芋・松茸など秋の果物や野菜が出回り、人々の話題にもよ  
かき くり いも まつたけ あき くだもの や さい で まわ ひとびと わ だい  
 く上るようになる。そして、北の方から紅葉のニュースが日々南下  
のぼ きた ほう もみ じ ひ び なん か  
 する。

5

するとき衣類を包んでおいたり、入浴後に足ふきとして敷いたりしたた  
いるい つつ にゅうよく ご あし  
 めに風呂敷という名称が生まれた。

30年ぐらいいまでは、高級な材料で美しいデザインの風呂敷は贈り物  
ふ ろ しき めいしやう う  
ねん まえ こうきゆう ざいりやう うつく ふ ろ しき おく もの  
 にも使われ、着物のアクセサリー的な役割も果たしていた。  
つか き ものすけ てき やくわり は



## 10月

じゅうがつ

10月は一年中で好天気がいちばん多い月で、スポーツや行楽が盛  
 じゅうがつ いちねんじゅう こうてん き おお つき こうらく さか  
 んに行なわれる。秋祭りもこの月にもっとも多く行なわれる。  
 おこ あきまつ つき おお おこ

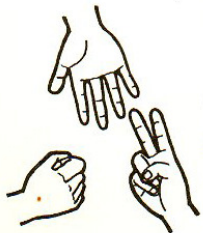
## ●スポーツ

5

10月には小学校から高校まで運動会が催される。運動会には家族  
 じゅうがつ しょうがっこう こうこう うんどうかい もよお うんどうかい かぞく  
 も出かけて、子供たちのゲームや競争を声援する。紅白に分かれて  
 で こども きょうそう せいえん こうはく わ  
 勝負を争うゲームも多く、子供たちの喜びは大きい。  
 しょうぶ あらせ おお こども よろこ おお



## じゃんけん



順番を決めたり、小さな勝負事の勝敗を決めるときに、日本人  
 じゅんばん き ちい しょうぶ しょうはい き にほんじん  
 はよくじゃんけんをする。手を握りしめたのを石、手を開いたの  
 かみ ゆび にほん の いし て ひら  
 を紙、指を二本だけ伸ばしたのをはさみと呼び、はさみは紙に勝  
 かみ いし か いし か  
 ち、紙は石に勝ち、石ははさみに勝つというルールだ。じゃんけ  
 た になずう さい ま ひと ぬ か

会社などでも運動会が行なわれ、従業員だけでなくその家族まで  
かいしゃ うんどうかい おこ じゅうぎょういん かぞく  
 参加する場合もあり、会社の団結にとって重要な催しとされている。<sup>54</sup>  
さん か ば あい かいしゃ だんけつ じゅうよう もよお

10月の第二月曜日は体育の日として国民の祝日の一つになってい  
じゅうがつ だい に げつよう び たいいく ひ こくみん しゅくじつ ひと  
 る。1964年の東京オリンピックの開会の日を記念したのが始まりで、  
ねん とうきょう かいかい ひ き ねん はじ  
 この日に各種の体育の催しが行なわれる。  
ひ かくしゅ たいいく もよお おこ

5

日本人は、レジャーに家計の約15%を使っており、スポーツに対  
に ほんじん か けい やく つか たい  
 する支出も増加してきている。健康だけが目的でなく、スポーツに  
し しゅつ ぞう か けんこう もくてき  
 ともなう社交やファッションといった面を重視する傾向が強くなっ  
しゃこう めん じゅうし けいこう つよ  
 てきている。

ち残った者が再びじゃんけんをするという方法で、最後の勝者を決める。  
のこ もの ふた ほうほう さい ご しょうしや き

じゃんけんは本来は中国から日本に入ってきたものだが、江戸時代に  
ほんらい ちゅうごく に ほん はい え ど じ だい  
 は藤八拳(とうはちけん)をはじめいろいろな遊びがあった。藤八拳は、  
あそ とうはちけん  
 庄屋・狐・狸師がそれぞれ庄屋は狸師に勝ち、狸師は狐に勝ち、狐は庄  
しょう や きつね りょうし しょう や りょうし か りょうし きつね か きつね しょう  
 屋に勝つというルールで、じゃんけんのルールと変わらないが、トーナ  
や か  
 メントまであって大人の遊びとして流行した。  
おと な あそ りゅうこう

## ●秋祭り

あきまつ

10月はお祭りの月でもある。米の収穫を神に感謝する農耕儀礼が

じゅうがつ まつ つき こめ しゅうかく かみ かんしゃ のうこう ぎ れい

まだ全国いたるところに残っているため、10月にお祭りが集中する。

ぜんこく のこ まつ しゅうちゅう

日本の食料自給率は年々低くなってきており、食生活も米食中心

に ほん しょくりょう じきゅうりつ ねんねん ひく しょくせい かつ べいしょくちゅうしん

5 からパン食その他に移りはじめている。それを反映して、農業人口

しよく た うつ はんえい のうぎょうじんこう

も耕地面積も昔に比べて非常に少なくなっている。一方、遺伝子工

こう ち めんせき むかし くら ひじょう すく いっぽう い でん し こう

学をはじめとする高度技術を利用した多種多様な集約性の高い農業

がく こうど ぎじゅつ りよう たしゅ たよう しゅうやくせい たか のうぎょう

が生み出されている。

う だ



## 銭湯

せんとう

料金を取って入浴させる所。40年くらい前までは、日本では自分の家に浴室を持たない家が多く、人々は石鹸とタオルをもって銭湯に行った。

りょうきん と にゅうよく ところ ねん まえ に ほん じ ぶん いえ

よくしつ も いえ おお ひとびと せっけん せんとう い

大きな浴槽と広い洗い場があり、人々は入浴を楽しんだ。江戸時代には、入浴した後にお茶を飲んだり世間話をしたり将棋をさしたりして、長時間ここで過ごす人も多く、庶民の社交の場でもあった。

おお よくそう ひろ あら ば ひとびと にゅうよく たの え ど じ だい

にゅうよく あと ちや の せ けんばなし しやう ぎ ちやう じ

かん す ひと おお しょみん しゃこう ば





しかし、秋祭りは昔ながらに、あるいは昔以上に盛大に行なわれ、  
 その年にとれた米を神や先祖に供え、家族や親族が集まって食べ物  
 を共にする伝統は失われることなく<sup>55</sup>続いている。人口統計による農  
 業人口とは別に、正月やお盆などに農村に帰省する人たちを含める  
 と、農村につながっている人口は少なくなく、文化的、精神的には  
 日本はまだ農業国の面影を強く残している。

5

## 狂言

きょうげん

狂言は、能とともに14世紀以来発達し、現代まで伝わっている  
 歌舞劇で、能がシリアスな題材を中心としているのに対し、狂言  
 は笑いを中心とした滑稽なストーリーを特色としている。言葉も、  
 能が日本や中国の古典に出てくる言葉を使うのに対し、狂言は話  
 し言葉を使い、現代日本語の話し言葉に近い言葉づかいが多い。



登場人物も、能が天皇や英雄など、いわば上流階級の人々であるの  
 対し、狂言には農民や召使いなど庶民階級の人物が多く、現代人にも親  
 しみを感じさせる。

現在、作品は300ほど残っており、200種が今でも上演されている。も  
 ともと、狂言は幕間狂言として発達したので、舞台は能と同じものを使  
 う。現代の上演はやや形式化しているが、即興劇の持つユーモアは失わ  
 れておらず、洒落（言葉の）やコミカルなしぐさなどは現代の笑劇の原  
 型ともなっている。

# 11月

じゅういちがつ

11月3日は文化の日として祝日になっているが、この日を中心に  
 文化的な催しが多く行なわれる。晩秋は「灯火親しむ候」と昔から  
 呼ばれているとおり、読書や芸術鑑賞に強い関心を抱く季節だ。

5

## ●文化の日

ぶん か ひ

1946年11月3日の日本国憲法公布を記念し、「自由と平等を愛し、  
 文化をすすめる日」として制定された。



## 着物

き もの



日本では伝統的な衣装を着物と総称している。ただ、外国で有名なのは華やかな色彩とデザインで幅の広い帯を締めて着る女性の着物である。

着物は高価である上に活発な行動には向かないため、日常生活ではほとんど洋服を着るようになった。しかし、結婚式・葬式・

明治維新以来、富国強兵を国是として発展してきた日本は、1945  
めいじ いしん いらい ふこくきやうへい こくぜ はってん にほん  
 年の敗戦を機に、戦争を放棄し、自由と平等の民主主義にもとづく  
ねん はいせん き せんそう ほうき じゆう びやうどう みんしゆしゆぎ  
 文化国家の建設を理想に掲げる国に变身した。文化の日は、その思  
ぶん か こっ か けんせつ りそう かか くに へんしん ぶん か ひ おも  
 いを新たにするために設けられたものである。  
あら もう

各都道府県が選手団を派遣して選手権を争う国民体育大会や、音  
かく と どう ふ けん せんしゆだん は けん せんしゆけん あらそ こくみんたいいくたいかい おん  
 楽・演劇・美術などの優秀者を決める芸術祭もこの時期に開かれる。  
がく えんげき びじゆつ ゆうしゆうしゃ き げいじゆつさい じ き ひら

秋の果物や野菜が豊かな味を食卓にもたらすのもこの季節だ。昔  
あき くだもの や さい ゆた あじ しょくたく き せつ むかし  
 は「みかんの色が色づきはじめると、医者いしやの顔色が蒼あおくなる」とい  
いろ いろ いしや かおいろ あお  
 う言い伝えがあった。この季節は健康的で、みかんも緑から黄色に  
い つた き せつ けんこうてき みどり きいろ  
 変化していき、病人の数も少なくなると考えられていたからだ。  
へん か びやうにん かず すく かんが

卒業式・成人式などのフォーマルな場では、着物を着る人も多い。  
そつぎしき せいじんしき は きもの き ひと おお  
 そのほかは、芸者と日本に的な料亭で働く女性などが常用するくらいで、  
げいしや にほんてき りやうてい はたら じよせい じやうよう  
 普通、街ではほとんど見られない。  
ふつう まち み  
 なお、洋服というのは、西洋服を略した言い方から生まれた言葉だ。  
ようふく せいようふく りやく い かた う ことば



## ●結婚式

けっこんしき

11月は10月とともに結婚式が一年中でいちばん多い。古くから、  
じゅういちがつ じゅうがつ けっこんしき いちねんじゅう おお ふる

日本では見合い結婚が圧倒的に多かったが、現在では自分の配偶者  
に ほん み あ けっこん あっとうてき おお げんざい じ ぶん はいぐうしゃ

を自分で選ぶ割合が87% (1997年) になっている。  
じ ぶん えら わりあい ねん

5

しかし、その恋愛結婚の場合も、式や披露宴には仲人が両者を引  
れんあいけっこん ば あい しき ひ ろうえん なこうど りょうしゃ ひ  
 き合わせるという伝統的形式をとるのが普通だ。また、太陰暦の日  
あ でんとうてきけいしき ふ ふう たいいんれき ひ  
 の良し悪しにより、良い日を選ぶという伝統も昔のまま残っていて、  
よ あ よ ひ えら でんとう むかし のこ  
 キリスト教教会でも、日が悪いのに挙式をする人は少ない。  
きょうきょうかい ひ わる きよしき ひと すく



## お見合い

み あ

結婚を目的として、見知らぬ男女が仲介者の紹介によって食事  
けっこん もくてき み し だんじょ ちゅうかいしゃ しょうかい しょくじ  
 などを共にして、顔合わせをすること。明治時代以来、結婚は両  
とも かお あ めいじ じ だいいらい けっこん りょう  
 親など関係者が相談して決めるのが普通で、本人どうして結婚相手  
しん かんけいしゃ そうだん き ふ ふう ほんにん けっこんあいて  
 を決める恋愛結婚は少なかった。  
き れんあいけっこん すく



仲介者は、はじめに男女双方の親に相手の写真や履歴書を見せ、  
ちゅうかいしゃ だんじょそうほう おや あいて しゃしん りれきしょ み

披露宴も巨額の費用をかける例が少なくなく、これも昔の農村の  
ひ ろうえん きよがく ひ ょう れい すく むかし のうそん  
 結婚式で来会者に盛大な酒食を供した伝統の影響を強く受けている。  
けっこんしき らいかいしや せいだい しゅしょく きやう でんとう えいきやう つよ う  
 披露宴の途中で新郎と新婦が中座して衣装を変えるお色なおしの習  
ひ ろうえん と ちゆう しんろう しん ぶ ちゆう ぎ い しょう か いろ しゆう  
 慣も、数百年も前から存在したしきたりだ。  
かん すうひゃくねん まえ ぞんざい

現在、結婚年齢は男が28.8歳、女は27.0歳が平均（2000年）で、  
げんざい けっこんねんれい おとこ さい おんな さい へいきん ねん  
 恋愛結婚の相手は学校や職場での知り合いやその兄弟姉妹などの中  
れんあいけっこん あいて がっこう しょくば し あ きょうだい し まい なか  
 から選ばれることが多い。相手を選ぶ範囲は昔に比べればはるかに  
えら おお あいて えら はん い むかし くら  
 広くなっているが、相手選びにもまだ伝統的な行動様式の要素は色  
ひろ あいて えら でんとうてき こうどうようしき よう そ いろ  
 濃く残っている。  
こ のこ

結婚式が終わったカップルは、西洋式に新婚旅行に行くのが普通  
けっこんしき お せいようしき しんこんりょこう い ふつう  
 になっている。

双方の気持ち動いたら、本人どうしを引き合わせる。その際、両親も同  
そうほう き も うご ほんにん ひ あ きい りょうしん どう  
 席するのが普通だ。それでいたいよさそうということになると、当人  
せき ふ つう  
 どうしが交際をはじめ、数か月後に結婚式ということになる。そういう仲  
こうさい すう げつ こ けっこんしき  
 介をするのが仲人（なこうど）だが、結婚式の時だけ形式的な仲人役と  
かい けっこんしき と き けいしきてき なこうどやく  
 して知名の士などを頼む場合もあり、これを「頼まれ仲人」という。  
ち めい し たの ば あい たの なこうど

## 12月

じゅうにがつ

一年の終わりの12月は、昔から貸借の清算や大掃除など新しい年  
 いちねん お じゅうにがつ わかし たいしゃく せいさん おおそう じ あたら とし  
 を迎えるための準備であわただしい月だった。現在も、12月にボー  
 むか じん び つき げんざい  
 ナスが出て、お歳暮の贈答や忘年会など、年の終わりの行事であわ  
 で せい ぼ ぞうとう ぼうねんかい とし お ぎょう じ  
 5 ただしい生活を送る。  
 せいかつ おく



## ●忘年会

ぼうねんかい

会社・官庁・学校などの職場では12月に忘年会を催すところが多  
 かいしゃ かんちょう がっこう しょくば じゅうにがつ ぼうねんかい もよ おお  
 い。そのため温泉や観光地をはじめとして、料亭やレストランなど  
 おんせん かんこう ち りょうてい  
 は、忘年会の会場として大にぎわいとなる。  
 ぼうねんかい かいじょう おお

## カラオケ

カラオケは英語のミュージックマイナスイワンからアイディアを得たも  
 えいご ので、歌を伴わないオーケストラという意味だ。最近十数年、流行歌の  
 うた としな さいきんじゅうすうねん りゅうこう か  
 伴奏のみのカセットテープが大量に売り出され、宴会などで出席者が交  
 ばんそう たいりょう う だ えんかい しゅっせきしゃ こう  
 替でマイクを持って歌う習慣が成立した。農村地方や地方都市では、カ  
 たい も うた しゅうかん せいりつ のうそん ち ほう ち ほう と し  
 ラオケ同好会が生まれ、歌そのものを目的とした社交は一種の社会現象  
 どうこうかい う うた もくてき しゃこう いっしゅ しゃかいげんしょう





さらに、お歳暮<sup>せいぼ</sup>として贈り物<sup>おくもの</sup>をする伝統的な習慣も昔よりも盛ん<sup>でんとうき しゅうかん むかし さか</sup>になり、デパートなどでは臨時の従業員を大勢雇って、販売・配達<sup>はんぱい はいたつ</sup>などに対応する。個人も、年賀状<sup>ねんがじょう</sup>を書いて友人・親類<sup>ゆうじん しんるい</sup>をはじめ日頃<sup>ひごろ</sup>世話<sup>せわ</sup>になっている人や先輩<sup>せんぱい</sup>に送る。ある一定の日までに投函<sup>とうかん</sup>すれば、  
 1月1日にまとめて配達されるので、年末のあわただしい中<sup>なか</sup>で、会社<sup>かいしゃ</sup>などでも年賀状書きに励む人の姿を数多く見かける。

5

になっている。

歴史的には、江戸時代から酒宴の場で出席者がつぎつぎに歌や踊りを<sup>れきし てき え ど じ だい しゅえん ば しゅつせきしや うた おど</sup>演じる伝統<sup>えん でんとう</sup>があったが、これがカラオケの発生に影響しているものと想<sup>はっせい えいきょう そう</sup>像される。  
 ぞう



最近は、この年末の行事にクリスマスの行事も加わってきて、ク  
さいきん ねんまつ ぎょうじ ぎょうじ くわ  
 リスチャンでない人たちもクリスマスケーキを買い、街のいたるところでクリスマスキャロルの音楽が聞かれる。サンタクロースの人  
ひと か まち おんがく き にん  
 形が店のショーウィンドーの飾りに使われることも多い。また、12  
ぎょう みせ かざ つか おお じゅうに

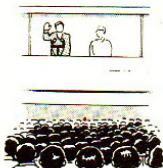
5 月23日は天皇誕生日で祝日になっている。

がつ にち てんのうたんじょうび しゅくじつ  
 昔はお金の持ち合わせがないときには「つけ」で買い、たまった  
むかし かね も あ か  
 「つけ」は大晦日までに清算しなければならなかった。今でも税金  
おおみそ か せいさん いま ぜいさん  
 は1月から12月までの収入で計算するので、日本人の意識には12月  
いちがつ しゅうにゅう けいさん にほんじん いしき  
 で生活のサイクルが一巡するというパターンができあがっている。  
せいかつ いちじゅん

## 天皇

天皇は日本国の象徴で、憲法に定められた国事、すなわち、内閣総理  
てんのう にほんこく しょうしやう けんぽう さだ こくじ ないかくそうり  
 大臣・最高裁判所長官の任命をすること、国会を召集すること、外国の  
だいじん さいこうさいばんしやうかん にんめい こっかい しやうしゅう がいこく  
 大・公使を接受することなどを行なう。外交儀礼上は元首とみなされる  
たい こうし せつじゅ おこ がいこうぎれいじやう げんしゅ  
 が、政治上の権限はまったく持っていない。  
せいじじゅう けんげん も

天皇の居住地は東京の都心にある皇居で、年2回、新年と天皇誕生日  
てんのう きょうしゅう ち とうきやう としん こうきよ ねん かい しんねん てんのうたんじょうび





昔から12月には、新しい年を迎えるための行事がいろいろとあつ  
 たが、今でも会社や官庁などでは12月の終わりの御用納めに大掃除  
 をするところがあり、多くの家庭では餅その他、正月用の食べ物の  
 準備をする。

には一般市民が皇居に入り天皇の顔を見ることができるよう。そのほか、国  
 体などの開会式に出席したり、相撲観覧の際などに国民の前に姿を現す  
 ことがあるが、機会は限られている。

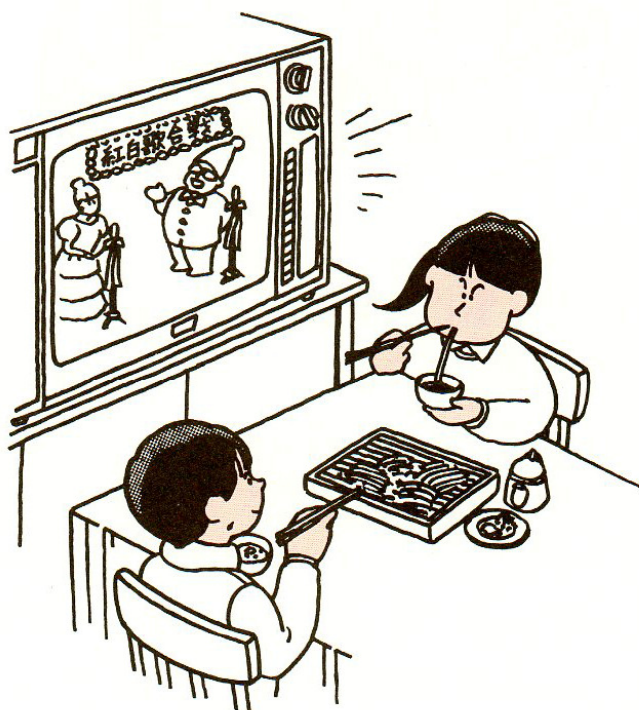
天皇制は4・5世紀ごろから史実に現れるが、天皇が全国を統一し日  
 本を統治したのは7世紀ごろのことである。9・10世紀ごろからは、実  
 権は藤原氏・源氏・足利氏・徳川氏などに移っていったが、天皇は宗教的・  
 精神的な象徴として存続し、明治時代に近代的天皇制ができあがった。



# ●年末

ねんまつ

12月の下旬には、学校も休暇に入り、12月28日前後に会社も官庁  
 じゅうがつ げじゆん がっこう きゅうか はい にちぜんご かいしや かんちよう  
 もすべて休みになる。この機会に帰省する人も多く、そのために交  
 やす きかい きせい ひと おお こう  
 通機関は一年中でもっとも混雑する。  
 つうきかん いちねんじゅう こんざつ



## 奈良

なら



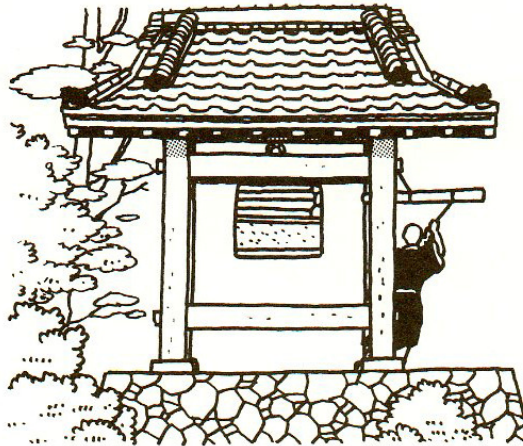
京都の前に日本の首都だった都市。奈良時代と呼ばれる時期の  
 きょうと まえ にほん しゅと とし なら じだい よ じき  
 平城京の跡は現在も発掘中だが、その平城京に隣接するように東  
 へいじようきよう あと げんざい はっくつちゆう へいじようきよう りんせつ とう  
 南部に発達した町で、東大寺をはじめ、近郊の法隆寺、薬師寺、  
 なんぶ はったつ まち とうだい じ きんこう ほうりゆう じ やくし じ  
 唐招提寺など、古い寺院が多い。

第二次大戦中、京都と奈良は戦災を受けなかったため、伝統的  
 だいに じたいせんちゆう きょうと なら せんさい う でんどうてき

大晦日の夜には、NHKの紅白歌合戦がテレビで放送される。これ  
おおみそ か よる こうはくうたがっせん ほうそう  
 を見ながら一年を回想し、新しい年に期待をかけるのが平均的日本  
み いちねん かいそう あたら とし きたい へいきんてきにほん  
 人の行動様式になっている。  
じん こうどうようしき

しかし、最近は、年末から年始の行事を避けて海外旅行に出かけ  
さいきん ねんまつ ねんし ぎょうじ さ かいがいりょこう で  
 る人も多くなり、空港の国際線は混雑を極める。また、海外に行か  
ひと おお くうこう こくさいせん こんざつ きわ かいがい い  
 ないまでも59都会から離れてスキーを楽しむ者や、都会に残っていて  
と かい はな たの もの と かい のこ  
 も、大晦日にホテルに泊って正月を迎える人も多くなってきた。  
おおみそ か とま しょうがつ むか ひと おお

12月31日の夜12時になると、全国の寺々では108回の除夜の鐘を打  
じゅうにがつ にち よる じ ぜんこく てらでら かい じょや かね う  
 ち鳴らし、人々は神社に初もうでに出かける。また、12月31日の夜  
な ひとびと じんじゃ はつ で よる  
 に年越しそばを食べる習慣も昔ながらに残っている。  
とし こ た しゅうかん わかし のこ



な市街地も昔の面影を残しており、観光客が京都とともに日本でもっと  
しがいち むかし おもかげ のこ かんこうきゃく きょうと にほん  
 も多い町になっている。  
おお まち

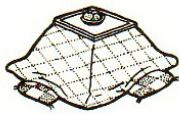
古代、一日のはじまりは日没からだった。西洋のクリスマスイブも、  
こ だい いちにち にちぼつ せいよう  
 聖書に書かれているように、神が一日を夜から先につくった名残だ。  
せいしょ か かみ いちにち よる さき な ごり

日本でも、年越しそばをはじめとして、12月31日の夜になると正  
に ほん とし こ じゅうがつ にち よる しょう  
 月料理を食べる習慣の残っている地方があるのは、古来の伝統の名  
がつりよう り た しゅうかん のこ ち ほう こ らい でんとう な

5 残で、紅白歌合戦なども、すでに正月の催しの一つのような心理効  
ごり こうはくたがっせん 60 しょうがつ もよ ひと しん り こう  
 果を持っているとも言えよう。  
か も い

なお、12月には日本の各地でベートーベンの第九交響曲「合唱」  
に ほん かく ち だい く こうきやうきよく がっしょう  
 が演奏される。クリスマスとともに最近数十年の間に定着した新し  
えんそう さいきんすうじゅうねん あいだ ていちゃく あたら  
 い年中行事だ。  
ねんじゅうぎよう じ

## こたつ



伝統的な暖房器具。昔は小さな容器に炭火を入れ、その上に木  
でんとうてき だんぼう き ぐ かし ちい よう き すみ び い うえ き  
 で作った枠を置き、ふとんをかけたが、現在では炭火の代わりに  
つく わく お げんざい すみ び か  
 電気を使う。ふとんの下に足を入れて暖まる方法なので、わずか  
でん き つか した あし い あた ほうほう  
 な熱源で保温の機能を果たすから、たいへん経済的だ。木の枠は  
ねつげん ほん きのう は けいざいてき き わく  
 やぐらといい、ふとんの上に四角い板を置いてテーブル代わりに  
うえ し かく いた お が

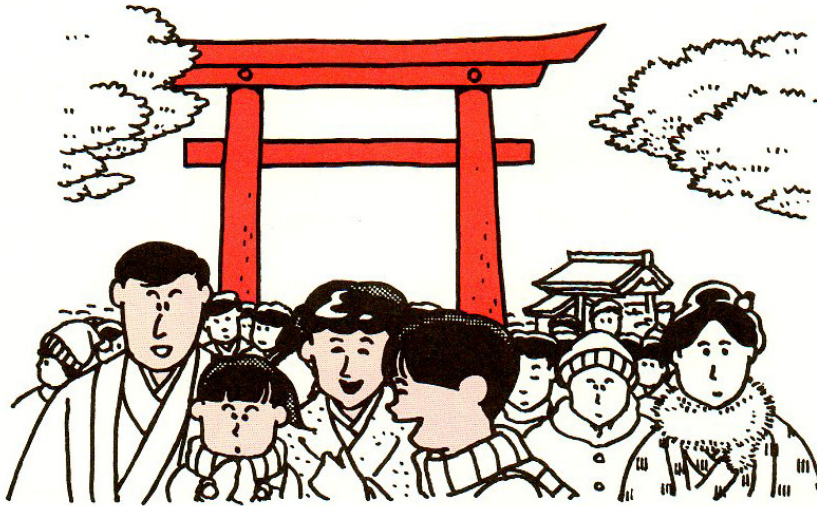


## 1月

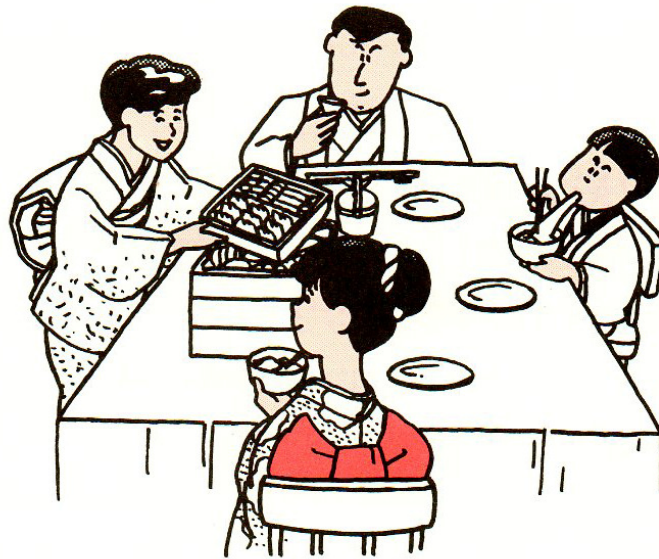
いちがつ

年が明けると生活はがらりと変わる。昔は年齢の数が1月1  
 とし あ せいかつ か かし ねんれい かぞ かた いちがつつ  
 日に1歳加算されることになっていたので、12月31日に生まれた人  
 たち いっさい か さん じゅうにがつ にち う ひと  
 は生まれて2日目で2歳になった。それもあって、1月1日は祝日  
 う ふつ か め さい しゅくじつ  
 になっており、だいたい1月はじめの1週間は日本中が正月気分  
 しゅうかん に ほんじゅう しょうがつ き ぶん  
 満ちている。  
 み

5



食事をしたり、勉強したりする。現在では、昔は使う人のいなかった九  
 しょくじ べんきょう げんざい かし つか ひと きゅう  
 州地方にまで普及している。  
 しゅうちほう ふきゅう



## ●正月

しょうがつ

正月は初もうでや年始回りから始まる。昔の日本には、どの村にも産土（うぶすな）の神社があり、村の人を守ってくれるという信仰があったが、その神に一年の平安と繁盛を祈りに行くのが初もうでだった。今は有名な神社や神宮に参詣する人が多く、特に大都市ではこの傾向が強い。

大人も子供も、そういう場合には盛装する人も多く、女性には和服を着る人もいる。また、家々では雑煮を作って、他のお節料理とともに食べる。

## すきやき



薄くスライスした牛肉を、ネギ・豆腐などとともに砂糖・醤油・みりんなどで味付けした料理。普通、数人がテーブルの上に置いた鍋で調理しながら食べる。

日本では、獣肉を食べない習慣が千年近くも続いていたが、明治維新後、欧米の肉食の習慣が取り入れられ、急速に全国に広ま

日本では古代から生活をハレとケとに分けており、年中行事や通  
にほん こだい せいかつ わ ねんじゅうぎょうじ つう  
 過儀礼はハレ、それ以外の普通の生活はケとみなされる。ハレとケ  
か ぎれい い がい ふ つう せいかつ  
 では、着る物から食べる物、言葉、行動様式まで違っている。正月  
き もの た もの ことば こうどうようしき ちが しょうがつ  
 の1月1日から3日まではハレの時だから、盛装して、お節料理を  
いちがつついたち みつ か とき せいそう せちりょうり  
 食べ、礼儀正しい態度で「おめでとう」とあいさつするなど、特別  
た れいぎただ たい ど とくべつ  
 な過ごしかたをするわけだ。<sup>62</sup>子供たちは、両親、祖父母、親戚など  
す こども りょうしん そ ふ ぼ しんせき  
 からお年玉をもらう。お年玉はもともと新年を祝ってする贈り物だ  
としだま としだま しんねん いわ おく もの  
 ったが、近年はほとんど現金になっている。  
きんねん げんきん

5



った。そして、現在では日本料理の代表的なものとなっている。

一つ鍋を囲んで食べる習慣は、ちり鍋などをはじめとして、日本に昔  
ひと なべ かこ た しゅうかん なべ にほん むかし  
 からあった。農家でいろうりに掛けた鍋に魚肉や野菜を入れて煮立て、こ  
のう か か なべ ぎょにく やさい い に た  
 れをみんなで一緒に食べていた。この様式がすきやきにも取り入れられ  
いっしょ た ようしき と い  
 たわけだ。

すきやき用に特別に和牛を飼育して、柔らかく箸で裂くことができる  
よう とくべつ わぎゅう し いく やわ はし き





会社でも官庁でも普通1月3日まで正月休みになるが、この間は  
かいしゃ かんちょう ふ つう いちがつ みつ か しやうがつ やす かん  
 仕事の話とか取引といった世俗的なケの行動は避けられる。上司の  
しごと はなし とりひき せ ぞくてき こうどう さ じやうし  
 家に年始のあいさつに行っても「今年もどうぞよろしく」といった  
いえ ねんし い ことし  
 言葉だけで、仕事の話はしないのがエチケットだ。  
ことば しごと はなし



肉が開發され、神戸牛・松坂牛など美味で高価なものが国際的に有名に  
にく かいはつ こう べ ぎゅう まつざかぎゅう び み こう か こくさいてき ゆうめい  
 なっている。

元日（1月1日）には、年賀状がたくさん届くが、これも普段の  
 通信文とは違ってハレの日の便りになる。

そういうふうにして過ごすのは、現代では1月3日までで、1月4  
 日は、御用始めといって、普通の仕事が始まる。

多くの勤め先では、お互いどうしのあいさつと乾杯を行なう年賀の  
 会がある。若い女性は最初の日には和服を着て出勤する人もいる。  
 なお、着物には晴着と普段着があって、ハレとケの区別が今でもは  
 っきりしている。

## 歌舞伎

能・狂言とともに現存する古典演劇。歌舞伎は江戸時代初期に  
 生まれ、江戸時代中期に完成した。女優を使わず、女形と称する  
 男優が女性の役割をつとめる。舞台に、回り舞台を使ったりせり  
 上げを使ったりする劇場の発達とともに、すぐれた台本と演技が  
 完成し、江戸・大阪・京都の三都を中心に都市と生活に不可欠な文化と  
 して庶民の娯楽となった。



題材は古典や伝説などに基づいた時代物、生活に取材した世話物、舞  
 踊を主とした所作事など、多方面にわたっている。理念には、忠孝・義  
 理人情など道義が中心となっており、一般市民には勧善懲悪の道德教育  
 の役割も果たしている。また、有名役者の衣装や持ち物などは流行の源  
 にもなった。

古代からの伝統で、役者は被差別階級の扱いを受けていたが、江戸時  
 代には経済的にも社会的にも有名名人としての扱いを受けていた。役者の  
 家は世襲制で、現在も市川家・尾上家・市村家など、親子代々歌舞伎役  
 者が続いている。

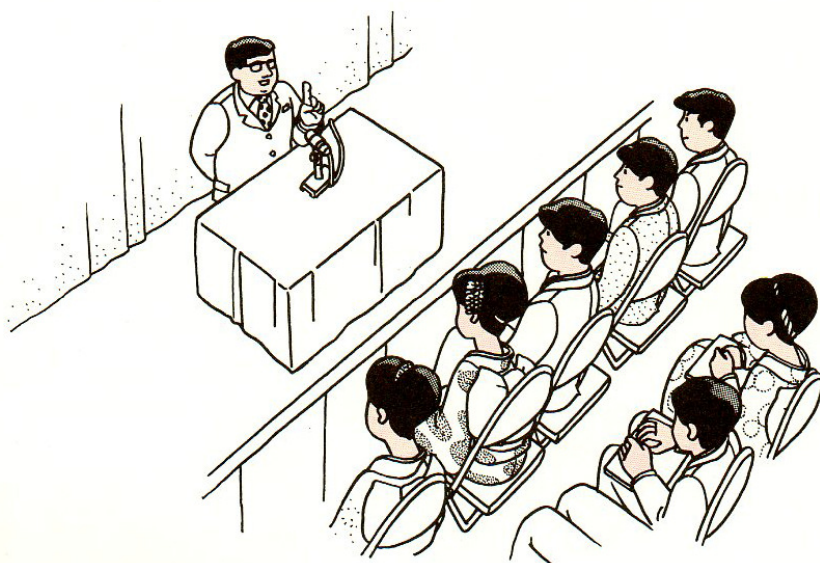
歌舞伎という字は当て字で、本来の意味は「傾き」で、発生当初に風  
 変わりな舞踊劇だったことから、「邪」とか「曲」とかいう意味で「傾い  
 ている」（傾く）と形容されたものだった。

歌舞伎と並行して発達した人形劇である浄瑠璃は、筋や構成が歌舞伎  
 に近いとき、同一の台本が両者に用いられることも多く、江戸時代の二  
 大演劇として、隆盛を極めた。

# ●成人の日

せいじん ひ

1月の第二月曜日は、20歳になった男女が大人になったことを祝  
 いちがつ だいに げつようび はたち だんじょ おとな いわ  
 う日として祝日になっている。この日は市町村など自治体では成年  
 ひ しゅくじつ ひ しちょうそん じちたい せいねん  
 になった男女を集めて祝賀式を行なう。  
 だんじょ あつ しゅくがしき おこ



## 万歳

ばんざい



祝賀会や人を見送ったりするとき、日本では3回両手を上に挙  
 しゅくがかい ひと みおく にほん かいりょうて うえ あ  
 げて万歳を叫ぶ習慣がある。これは、明治時代に欧米のスリーチ  
 ばんざい きけ しゅうかん めいじ じだい いうべい  
 アーズに真似て始められたもので、19世紀末に国粋主義が盛ん  
 まね はじ せい きまつ こくすいしゅぎ しか  
 になったとき以来、多く行なわれるようになった。  
 いらい おお おこ

普通は、会の終わりにだれか重要な人物が音頭をとって、全員  
 ふつう かい お じゅうよう じんぶつ おん ど ぜんいん



はたち(20歳)になると、選挙権が与えられ、法的に飲酒が許されるし、親の承諾なしに結婚できる。また、犯罪を犯すと、少年犯ではなく、大人として処罰されるなど、社会的に大人として扱われる。

現代の若者は、物質的生活に恵まれているため、かつての勤勉・節約・忍耐・忠誠などの美德についての意識が薄い。また、政治的にも無関心で、古い世代からは自己中心的に物を考えるという批判を受けやすい。特に、大学生は高校生までの受験勉強の反動であるかのよう<sup>64</sup>に、生活をエンジョイする傾向が強い。アルバイトをする者も、本来学資を稼ぐために働いたものが、今は海外旅行のためとか自動車学校に行くため、欲しい服を買うためといったレジャーを目的として働くようになってきた。

5

10

が唱和する。たとえば、音頭をとる人が「何々会社万歳」「何々君万歳」などと叫ぶと、参加者は万歳だけを唱和する。

なお、スリーチアーズの「ヒップ・ヒップ・フレイ」は、スポーツの応援で「フレイ、フレイ、ニッポン」という風に、声援するときに今でも使われている。



## すし



豆腐やすきやきなどとともに、すしは日本食の代表的なものとして欧米に知られている。普通のご飯に酢・砂糖・塩などで味付けし、このすし飯を小さく握った上に魚や卵などをのせて「にぎりずし」にしたり、醤油と砂糖で煮た油揚げの中に入れて「いなりずし」を作ったり、種々の野菜を刻んで煮たものをすし飯に混ぜ「五目ずし」にしたり、仕上げ方はいろいろだが、酢で味付けした「すし飯」が土台になることだけは変わらない。

中世までは、炊いたご飯と生魚をサンドイッチのようにして漬け込み、長時間保存して発酵させたものが「すし」で、今も彦根（滋賀県）など一部にこの方法が残っている。この方法は、ベトナム・カンボジア・ラオス・タイなどで行なわれている保存食と共通したもので、生魚を保存するために発酵させる方法だった。現在の日本のすしは、この発酵を、酢を使うことにより簡略化した「一夜ずし」の方法で、江戸時代に発達したものだ。

## てんぷら

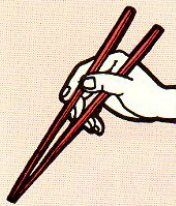


魚や野菜に、小麦粉を水に溶かしたころもをつけて油で揚げた料理。16世紀にイエズス会の宣教師が日本に紹介した料理法で、てんぷらという語は、カトリック教のテンポラル（肉を食べない期間）から来たものといわれている。その期間に野菜を揚げて食べるのを見て、日本人もまねて食べるようになった。

醤油をもとにしてつくった「つゆ」をつけて食べる。

ころもをつけないで揚げた方法もあって、これは「からあげ」と呼んでいる。

## 箸



箸は8世紀の文献にも出ており、日本の食器としては非常に古い。古代では竹を二つに曲げてピンセット状にしたものが使われていた証となる発掘物もあるので、これが二本に分かれて箸になったものと思われる。欧米のフォークも、古代は二またに分かれていたから、これが一方では箸になり一方ではフォークになったのだろう。

古代の箸は白木で、表面に何も塗っていなかったが、現在は木に漆を塗ったもの、竹製のもの、プラスチック製のものなどが用いられている。中国で使われているような象牙を材料とするものや、韓国で見られる銀製のものは日本にはほとんどない。



## 2月 に がつ

2月は、暦の上では春で、春の到来を祝う節分の行事も行なわれ  
に がつ こよみ うえ はる はる とうらい いわ せつぶん ぎょうじ おこ  
 るが、気温も低く雪の降る日も一年中でいちばん多い。ビジネスで  
き おん ひく ゆき ふ ひ いちねんじゅう おお  
 は「二八のブタ」といって、2月と8月は一年中でもっとも低調な  
にっばち はちがつ いちねんじゅう ていちょう  
 月となっている。  
つき

5





## ●入学試験

にゅうがく し けん

2月には、大学・高校をはじめ、中学まで入学試験が行なわれる  
に がつ だいがく こうこう ちゅうがく にゅうがく し けん おこ

ため、若い人たちには人生のもっとも大事な節目のシーズンになる。  
わか ひと じんせい だい じ ふし め

日本では、階級意識が薄く、人種・宗教・家系などによる差別が  
に ほん かいきゅう い しき うす じんしゅ しゅうきょう か けい さ べつ

5 ほとんどなく、学歴が個人の出世や成功のカギになる。そのため、  
がくれき こ じん しゅっ せ せいこう

いい大学に入れるかどうかで、その人の人生が左右されることにも  
だいがく はい ひと じんせい さ ゆう

なりかねないので、受験競争が激しく行なわれる。いい大学への進  
じゅけんきょうそう はげ おこ だいがく しん

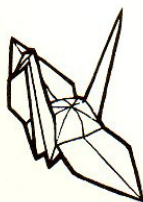
学率の高い高校の入学試験が難しくなるのもそのためで、さらに競  
がくりつ たか こうこう にゅうがく し けん むずか きょう

争は中学校・小学校・幼稚園にまで及んでいる。  
そう ちゅうがっこう しょうがっこう 幼稚園 におよ



## 折り紙

お がみ



1枚の紙を折り畳んで鳥や動物・花・舟などを作る伝統芸術。  
いちまい かみ お たた とり どうぶつ はな ふね つく せんとうげいじゆつ

もともと、神道などの儀式に使う道具の装飾のために作ったもの  
しんとう ぎしき つか どうぐ そうしよく

だが、明治時代から子供の遊びとして流行し、学校などでも図工  
めい じ じ だい こども あそ りゅうこう がっこう ずこう

の一部として教えるようになった。使う紙も色とりどりになり、  
いち ぶ おし つか かみ いろ

今でも広く愛好されている。  
いま ひろ あいこう

いい学校に合格するために、子供たちは放課後や休日に学習塾に  
がっこう ごうかく こども ぼう か ご きゅうじつ がくしゅうじゅく  
 通うのが普通になっており、休暇に予備校に通って受験勉強をする  
かよ ふ つう きゅう か よ び ころ かよ じゅけんべんきょう  
 高校生もいる。高校を出てすぐ希望大学に入れなかった者は、1年な  
こうこうせい こうこう で きぼうだいがく はい もの ねん  
<sup>65</sup>  
 り2年浪人して受験勉強をする。そういう浪人の通う予備校も名門  
ねんろうにん じゅけんべんきょう ろうにん かよ よ び ころ めいもん  
 校に進学できる率の高い予備校が高く評価されている。

5

受験生は、しばしば親といっしょに受験地に行くので、2月は都  
じゅけんせい おや じゅけん ち い に がつ と  
 市のホテルは入試のために宿泊する親子で満員になることもある。  
し にゅう し しゅくはく おや こ まんいん

---

折り紙の中でも鶴は、これをたくさん折って糸を通して長く带状にし、  
お がみ なか つる お いと とお なが おびじょう  
 千羽鶴にして、人の幸運や病気の回復を祈願するシンボルとして贈る習  
せん ぼ づる ひと こううん びょう き かいふく き がん おく しゅう  
 慣もある。  
かん

## ●スキー

日本海に面する地方の豪雪地帯では、しばしば雪のために交通が  
に ほんかい めん      ち ほう      ごうせつ ち たい      ゆき      こうつう  
 まひすることもある。が、スキーやスケートなどに興ずる人も非常  
きょう      ひと      ひ じょう  
 に多く、大都会から大挙してスキーに出かける人々の姿は2月の  
おお      だい と かい      たい きょ      で      ひと びと      すがた      に      がつ  
 5 風物になっている。伝統的な雪だるまを作ったり、かまくらを作  
ふう ぶつ      でん とう で き      ゆき      つく  
 ったりする子供の遊びも北国には残っている。昔は、雪見という  
こ ども      あそ      きた くに      の こ      むかし      ゆき み  
 宴会もあって、俳句や和歌を作ったりしたが、今、その伝統は残っ  
えん かい      はい く      わ か      つく      いま      でん とう      の こ  
 ていない。



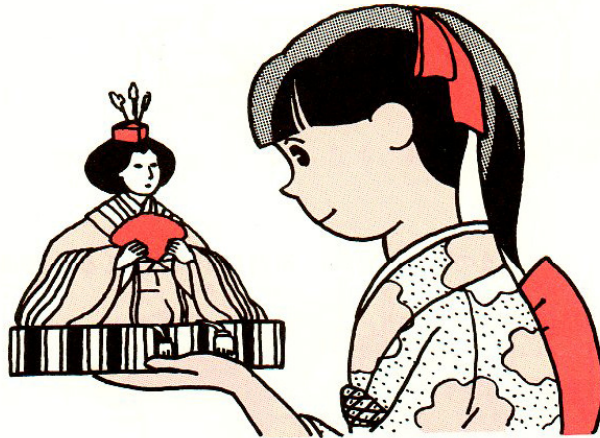


## 3月

さんがつ

3月さんがつは暖かい春あた はるというイメージの強い月で、小学校から大学までつよ つき 春休みの月でもある。また、官庁も会社も3月しょうがつこうが会計年度の終わりだいがくの月でもあり、3月15日はるやすが所得税の確定申告の締切の日でもあるのつきで、一種の年末気分が漂うことになる。  
いっしゅ ねんまつ き ぶん たは

5

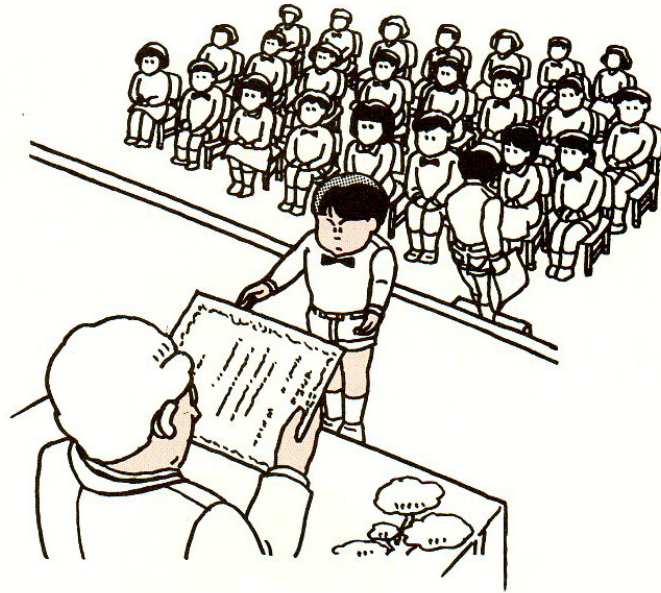


## 雛祭り

ひなまつ

毎年3月3日、雛人形まいとしさんがつみつ かを飾って女の子の幸福や健康を祈る祭り。典型ひなにんぎょう かざ おんな こ こうふく けんこう いの まつ てんけい的な雛人形は、内裏様てき ひなにんぎょう（天皇と皇后）と三人官女、五人ばやしなどを緋色ひの布を張った壇に並べるもので、数億円いろ めの は だん なら すうおくもする高価な物も売られて

この日には桃の花を飾る習慣があるので、「桃の節句」とも呼ばれる。  
ひ もも はな かざ しゅうかん もも せつく よ  
 5月5日の男の子の節句とともに、日本の少女少女には忘れ難い祭りだ。  
ご がついつ か おとこ こ せつく に ほん しょうねんしょうじょ わす がた まつ  
 古代は、紙で作った雛人形に過去の病気や災害などの悪霊を移して、  
こ だい かみ つく ひなにんぎょう か こ びょう き さいがい あくりょう うつ  
 これを川に流して災いを取り除く習慣があり、これが儀式化して現代の  
かわ なが と のぞ しゅうかん ぎしき か げんだい  
 雛祭りになった。人形は「ひとがた」とも読み、人の形をしたものとい  
ひなまつ ひなまつ にんぎょう よ ひと がた  
 う意味で人の身代わりとして使われた。  
い み ひと み が つか



### ●卒業式

そつぎょうしき

小学校から大学まで、卒業式は3月に行なわれる。卒業式にはス  
しょうがっこう だいがく そつぎょうしき さんがつ おこ そつぎょうしき

コットランド民謡のメロディーをとった『蛍の光』が歌われること  
みんよう ほたる ひかり うた

が多い。卒業式の中でも、大学の卒業式は、小学校からの長い学校  
おお そつぎょうしき なか だいがく そつぎょうしき しょうがっこう なが がっこう

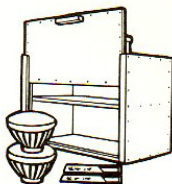
5 生活を終わって社会人になる機会なので、特に大事な儀式でもある。  
せいかつ お しゃかいじん き かい とく だい じ ぎ しき

もちろん、高校を出て就職する者にとっては、高校の卒業式が同じ  
こうこう で しゅうしよく もの こうこう そつぎょうしき おな

ような意味を持っている。  
い み も

### 出前

で まえ



すし・そば・ラーメンなどを、注文に応じて客の家に配達する  
サービス。昔は、岡持ちという木製の箱にどんぶりや皿などを入  
サービス ちゅうもん おう きやく いえ ぱいたつ  
れて配達していたが、現在は振動防止の Springs のついた特殊  
はいたつ げんざい しんどうぼう し もくせい はこ  
な入れ物を使ってオートバイで持ち運ぶのが普通になっている。  
い もの つか も はこ ふつう

配達料やチップなどは不要で、庶民に重宝がられている。  
ぱいたつりょう ふよう しょみん ちゅうぼう

## ●人事異動

じんじ いどう

会社や官庁では、3月が異動の月で、昇進や転勤があったりして

かいしゃ かんちょう さんがつ いどう つき しょうしん てんきん

変化の多い月だ。転勤の場合、主として子供の教育の問題で、父親

へんか おおつき てんきん ばあい しゅ こども きょういく もんだい ちちおや

だけが一人で赴任することが多い。

ひとり ふにん おお

日本の会社や官庁では、社宅・官舎の制度が発達しており、未婚

にほん かいしゃ かんちょう しゃたく かんしゃ せいど ほったつ みこん

者の独身寮から家族持ちの者の住宅まで、低額の家賃で借りられる。

しゃ どくしんりょう かぞく もの じゅうたく ていがく やちん か

このほか、通勤用の定期券などの交通費が支給されたり、会社の社

つうきんよう ていきけん こうつう ひ しきゅう かいしゃ しゃ

員食堂・スポーツ施設など福利厚生は欧米に比べて格段にすぐれて

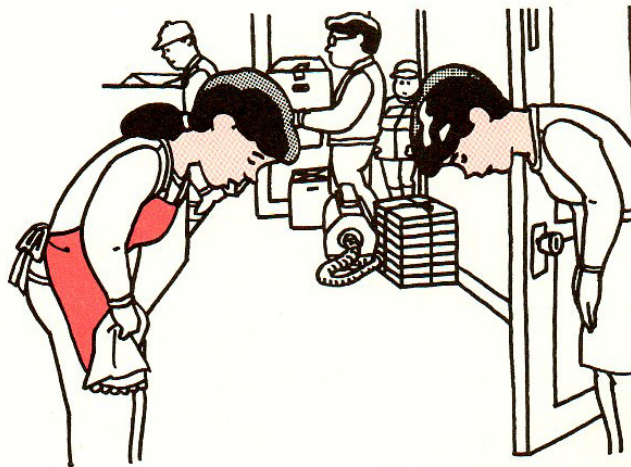
いんしょくどう しせつ ふくり こうせい おうべい くら かくだん

いる。一種の現物給与方式であるが、これによって従業員の恩恵感

いっしゅ げんぶつきゅう よ ほうしき じゅうぎょういん おんけいかん

が強まり、忠誠心を高めることにもなり、終身雇用制が維持される。

つよ ちゅうせいしん たか しゅうしん こようせい いじ





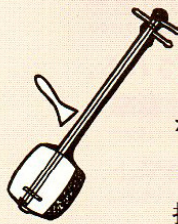
## 琴



8・9世紀ごろ中国からもたらされた弦楽器。長さ180cm、幅30cmくらいの本製の13本の弦を張った楽器。右手の三本につけた爪で、弦をはじいて音を出す。

琴は琵琶とともに三味線よりもずっと古い歴史を持った楽器である。現在、琵琶は廃れてしまったが、琴は今でも伝統的な楽器として根強く残っている。江戸時代には、三味線は町人の女子のもの、琴は武士の女子のものという区別があった。女性が和服を着て琴を演奏する姿は、祝い事などにはよく見られるし、大学のクラブ活動の一つとしても行なわれている。

## 三味線



三本の弦を張った日本の弦楽器。16世紀ごろに琉球から日本にもたらされた。琉球では蛇の皮を共鳴箱に張ったことから、蛇皮線と呼ぶが、日本では猫の皮を使い三味線と呼ぶようになった。歌謡・舞踊などの伴奏や、歌舞伎や文楽のバックグラウンド音楽として使われる。指で弾くこともあるが、普通はべっこうなどで作った「ばち」と呼ばれる道具を使う。

## 芸者



西洋では、日本を代表するものとして、フジヤマ、ゲイシャガールという固定観念が19世紀にできていた。

ただ、ゲイシャという語は、売春を目的としたエンタテイナーというイメージがあって、日本人の抱いているイメージとはだいぶ違う。

17世紀以来、芸者は芸、つまり踊りや歌を見せて客を楽しませる職業で、男の仕事だった。それが18世紀に入って女芸者が現れ、やはり酒食の席で、客にサービスをしたり踊りや歌で楽しませたりする役を引き受けていた。現在の芸者は、この後者の伝統を受け継いだもので、日本式の料亭に呼ばれていて、客でなくてもなす。日本人のイメージでは、芸者は売春とはほど遠い。



### 第3章

だい しょう

## 日本人の一生

に ほん じん いっ しょう



日本人の一生は、千差万別であるが、通過儀礼をはじめとして、最大  
に ほん じん いっ しょう せん さ ばん べつ つう か ぎ れい さい だい  
公約数としてのパターンが存在する。生まれてから死ぬまで、佐藤さん  
こう やく すう せん ざい う し ざとう  
の一家も、このパターンにしたがって生きていくことになる。  
いっ か い

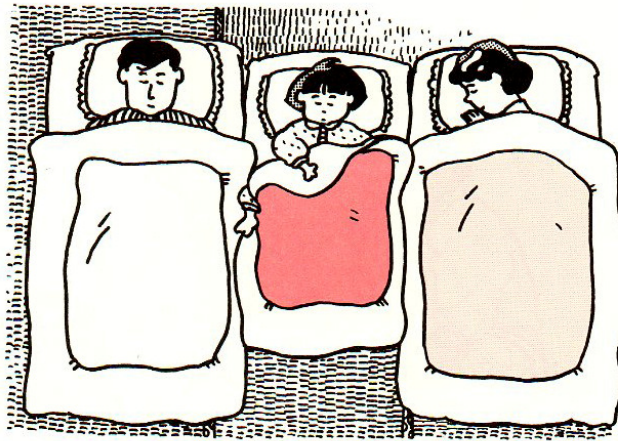
## 家庭教育

か てい ない きょうい く

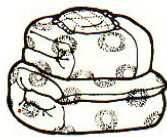
日本の子供は、非常に大切に育てられる。ベビーシッターに預けておいて親たちだけが外出することはほとんどなく、家庭内の話題もレクリエーションも主として子供中心に行なわれる。

- 5 子供は4・5歳まで親といっしょの部屋で寝ることが多い。畳の上に布団を敷いて、子供を真中にして、いわゆる川の字になって寝る。また、子供が10歳くらいになるまで親といっしょに入浴することもある。幼児を厳しく叱る習慣もあまりなく、どちらかというと日本の子供は甘やかされて育つと言ってもよかろう。

10



## ふとん



日本の寝具はベッドと違って、綿やテトロン綿の入った折り畳みのできる布団を畳の上に敷く。使わないときは折り畳んで押入れの中に収納するので、部屋は寝室以外の用途に利用できる。やや厚めの敷布団と薄めで軽い掛け布団があり、毛布も用いられる。掛け布団には羽毛など軽くて保温性の高いものが綿の代わり



父親が働きに出る家庭が大部分だから、子供のしつけや教育は母  
ちちおや はたら で か てい だい ぶ ぶん こども きょういく はは  
 親の仕事とみなされている。保育園や幼稚園の行き帰りに母親が付  
おや しごと ほ いくえん よう ち えん い かえ ははおや つ  
 き添う場面は町でよく見かけるし、子供が小学校に入ってから PTA  
そ ぼ めん まち み こども しょうがっこう はい  
 などの会合に出席するのはほとんどが母親だ。  
かいごう しゅっせき ははおや

5

特に、学歴社会の日本では、良い大学に子供を進学させるには、  
とく がくれきしゃかい にほん よ だいがく こども しんがく  
 幼児のときから子供の学力を向上させる必要があると信じられてい  
ようじ こども がくりょく こうじょう ひつよう しん  
 るため、母親たちは子供の教育に熱中しすぎる傾向がある。  
ははおや こども きょういく ねっちゅう けいこう



りに使われる例もある。また、敷布団の下にクッション用にフォームラ  
つか れい しき ぶ とん した よう  
 ーのマットレスを敷くのも一般化している。  
し いっぱん か

## 学歴偏重社会

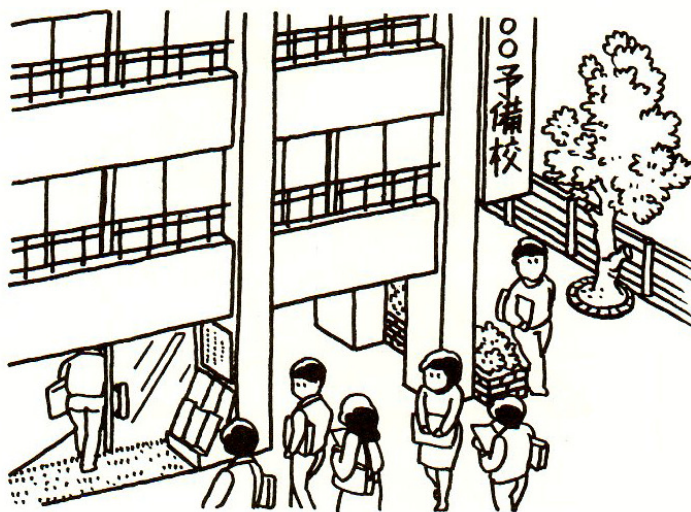
がくれき へんちようしゃかい

日本では最終学歴が一生その人の経歴に強く影響するため、小学  
 に ほん きようがくれき いっしょう ひと けいれき つよ えいきよう しょうがっ  
 校から良い学校に入れて、子供を良い中学・高校に入学しやすいよ  
 こう よ がっこう い こども よ ちゅうがく こうこう にゅうがく  
 うにするのが、親の務めのようにになっている。

おや つと

- 5 日本の教育制度は、中学までの9年間で義務教育になっているが、  
 に ほん きよういくせい ど ちゅうがく ねんかん ぎ むきょういく  
 中学から高校に進学する者は95%以上になっており、有名大学に入  
 ちゅうがく こうこう しんがく もの い じょう ゆうめい だいがく はい  
 るための競争率も高い。

きょうそうりつ たか



## はちまき



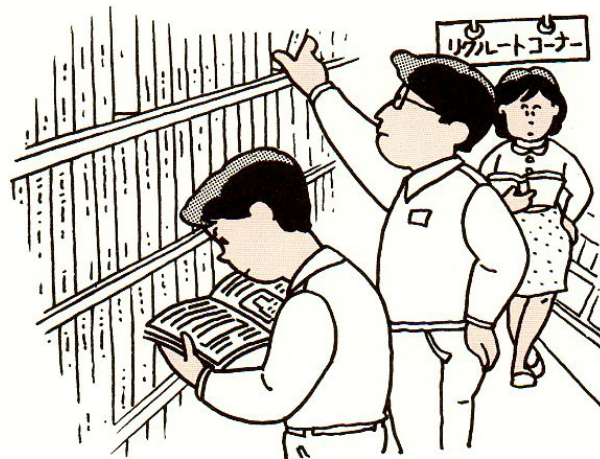
細長い带状の布で頭に巻くもの。大昔は宗教的な意味があつて  
 ほそなが おひじょう ぬの あたま ま おおむかし しゅうきようてき い み  
 儀式に使われていたが、労働の際の汗止めや、精神的高揚のために  
 ぎ しき つか ろうどう さい あせ ど せいしんてきこうよう  
 使われるようになった。額のところに日の丸を印刷した日の丸鉢  
 つか ひたい ひ まる いんさつ ひ まる はち  
 巻きは第二次大戦中に広範囲に使われたため有名になった。また、  
 ま だいに じたいせんちゅう こうはん い つか ゆうめい  
 作家の三島由紀夫が切腹をした際に日の丸鉢巻きをしていたため  
 さつか みしま ゆき お せっぽく さい ひ まるはち ま

そのため、塾に通って受験勉強をする者や、高校を出てすぐ希望  
じゅく かよ じゅけんべんきょう もの こうこう で きぼう  
 の大学に入らずに浪人をして、2年も3年も予備校に通う者もいる。  
だいがく はい ろうにん ねん ねん よ び こう かよ もの

入試のシーズンになると、週刊誌は有名大学の合格者の名前と出  
にゅう し しゅうかん し ゆうめいだいがく ごうかくしゃ な まえ しゅう  
 身高校を掲載するし、東京大学に合格者を多く出した高校のベスト  
しんこうこう けいさい とうきょうだいがく ごうかくしゃ おお だ こうこう  
 テンを発表したりして、受験戦争をさらにあおり立てている。  
はっぴょう じゅけんせんそう た

5

そういう激しい競争を経て入ったせいか、大学に入ってもあまり  
はげ きょうそう へ はい だいがく はい  
 勉強しなくなる学生もいるし、授業に出ずに、もっぱらアルバイト  
べんきょう がくせい じゅぎょう で  
 に精を出す者もいる。だが、そのアルバイトも、昔は学資を作るた  
せい だ もの かし がく し つく  
 めのものだったけれども、今はレジャーのための資金稼ぎに変わっ  
いま し きんかせ か  
 ている。



国際的にも知れわたった。

こくさいてき し  
 何か特別に緊張して頑張ろうとするときに鉢巻きをしめる習慣は今で  
なに とくべつ きんちよう がんば はち ま しゅうかん いま  
 もある。1932年のロサンゼルスオリンピックで、100メートル走者の吉岡  
ねん とうさん 100メートル 走者 吉岡  
 隆徳選手が鉢巻きをして笑いものになったが、今は、スポーツではヘッ  
たかのりせんしゅ はち ま わら いま  
 ドバンドとして国際的に使われている。  
こくさいてき つか



しかし、大学は4年で卒業するので、3年になると学生たちの関  
だいがく ねん そつぎょう ねん がくせい かん

心は就職に集中する。少しずつ変化しているとはいっても、日本は  
しん しゅうしょく しゅうちゅう すこ へん か に ほん

まだ伝統的に終身雇用制の会社が多いので、良い会社に入ることは  
でんとうてき しゅうしん こ ようせい かいしゃ おお よ かいしゃ はい

人生行路の上できわめて重要なことと考えられている。そのため、  
じんせいこう ろ うえ じゅうよう かんが

5 書店には就職のための参考書が大量に積まれる。また、入社試験や  
しよてん しゅうしょく さんこうしょ たいりょう つ にゅうしゃ し けん

面接には服装が大事なため、デパートなどでは「リクルートファッ  
めんせつ ふくそう だい じ

ション」のための売り場も設けられる。  
う ば もう

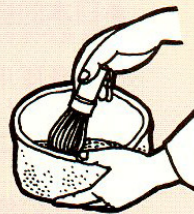
男女雇用機会均等法が存在するけれども、まだ男性のほうが重要  
だんじょ こ よう き かいきんとうほう そんざい だんせい じゅうよう

な地位につくことが多く、高級管理職のほとんどは男性によって占  
ち い おお こうきゅうかん り しよく だんせい し

められている。

## お茶

お茶は中世に中国から日本にもたらされた飲み物だが、喫茶の習慣は日本で独特な発展を遂げた。日常の食事の時に飲むのは酒類を除けばお茶であり、食後のコーヒーや紅茶の代わりに日本では緑茶が飲まれることが多い。中国などのウーロン茶は紅茶同様発酵したものだが、日本のお茶はそのまま乾燥させたもので、発酵させないのが特徴だ。



粉末にしたお茶をいろいろな作法で飲む方法は室町時代から流行し、茶室や茶碗をはじめお茶を飲むための施設や道具は芸術的に洗練され、茶道として生け花とともに日本人の大事な教養の一つとなっている。

## 生け花

16世紀に始まった、花を生ける芸術。中世、僧侶が仏に花を供えた儀式が庶民の生活に採り入れられたもので、茶の湯とともに日本独自の伝統文化として普及している。



お茶でもお花でも、日本では技能的なものに次第に精神的価値が与えられ、華道・茶道と名前に「道」が使われるようになった。武術の方でも柔術・剣術・弓術などが、柔道・剣道・弓道というふうには技術よりも精神的な面が強調されるが、生け花も華道として一種の人生教育とみなされるようになった。

昭和に入ってから、花だけでなく鉄線やガラス・石なども使う前衛的な芸術として近代化している。いろいろな流派があって、それぞれ家元・師範・弟子というヒエラルキーが確立しており、もっとも古い伝統的な社会モデルを形成している。



## 企業社会

き ぎょうしゃ かい

### ●日本の経営の特質

に ほんで きけい えい とくしつ

終身雇用制の会社では、従業員は刑法上の罪を犯さないかぎり解<sup>68</sup>

しゅうしん こようせい かいしゃ じゅうぎょういん けいほうじょう つみ おか かい

雇されることはめったにない。年をとって能力が落ちた者も比較的

こ とし のうりよく お もの ひかくてき

5 重要性の低い仕事を与えられ、定年まで働きつづける。また、不況

じゅうようせい ひく しごと あた ていねん はたら ふきょう

のため経営が困難になったとき、社長以下全員の報酬をカットする

けいえい こんなん しやちょう い かぜんいん ほうしゅう

ことによって、レイオフを避ける会社は少なくない。労働組合も企

さ かいしゃ すく ろうどうくみあい き

業内労組であるため経営側と協調して不況を切りぬけようと努力す

ぎょうないろう そ けいえいがわ きょうちよう ふきょう き どりよく

る。会社が倒産したとき、社長が従業員の再就職先を必死になって

かいしゃ とうさん しやちょう じゅうぎょういん さいしゅうしよくさき ひっし

10 探すという例も珍しくない。それだけに、従業員の企業に対する忠

さが れい めづら じゅうぎょういん きぎょう たい ちゅう

誠心や帰属意識も強い。

せいしん きぞく いしき つよ

なお、日本では大手企業は資本と経営が分離しているが、中小企

にほん おおて きぎょう しほん けいえい ぶんに ちゅうしやうき

業では分離していないところが多く、これも企業の家族主義的傾向

ぎやう ぶんに おお きぎょう かぞくしゆ ぎてきけいこう

を強める役割を果たしている。

つよ やくわり は

### 名刺

めいし

日本では、初対面の人に対しては自分の名刺を取り出して相手

にほん しょたいめん ひと たい じぶん めいし と だ あいて

に渡して挨拶するのが普通になっている。名刺には所属する会社

わた あいさつ ふつう めいし しょぞく かいしゃ

や役所の名前と、役職名、住所、電話番号、ファックスの番号な

やくしょ なまえ やくしよくめい じゅうしょ てんわばんごう ばんごう

どが印刷される。会社によってはロゴ（図案化された会社名）を

いんさつ かいしゃ ずあんか かいしやめい

入れることもある。

い



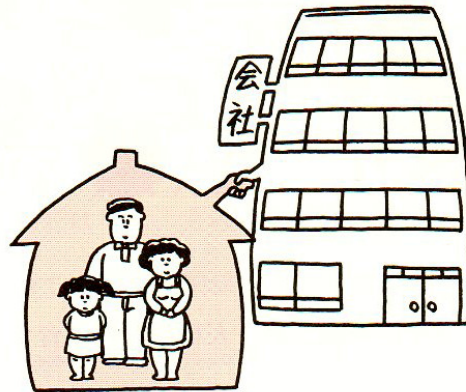


## ●初入社・定期採用・就業規則

はつしゅつしゃ てい き さいよう しゅうぎよう き そく

日本の企業では中途入社する者は少なく、ほとんどが毎年定期採用で入社する。それだけに4月のはじめの入社式は大事なものとみなされ、通過儀礼のようにになっている。

つう か ぎれい



入社した従業員は数週間、社員としての研修を受ける。会社の歴史や性質、あるいは従業員としての心得からマナーまで教え込まれる。人材育成のための企業内訓練は、語学・技術研修施設で行なわれたり、海外留学などの方法により長期にわたって行なわれる。また、職場の配置転換もよく行なわれる。いろいろな職種を体験させることによって、管理職に必要な知識を持たせるのが配置転換の一つのねらいだ。

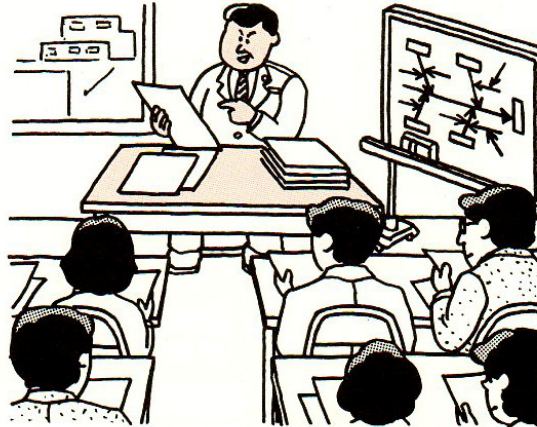
5

10

普通は、白か薄いクリーム色の紙に黒インキで印刷する。最近では、その裏に英文で同じ内容を印刷している人も少なくない。

名刺は、欧米に19世紀以来あるコーリングカードとビジネスカードのような区別がなく、フォーマルな訪問にもビジネスにも同じものが使われる。

名刺は、簡単なコメントを書きこんで紹介状の代わりにも使われることがあり、その際メッセージのあとにはんこを押す人もいる。



このように、日本の企業では、人材を社内で育てて登用するのが  
にほん きぎょう じんざい しゃない そだ どうよう  
 普通になっている。  
ふつう

常時10人以上の労働者を使う雇用者は、就業規則を作って労働基  
じょうじ にん いじょう ろうどうしゃ つか こようしゃ しゅうぎょう きそく つく ろうどうき

準監督署へ届け出る義務がある。就業規則では、賃金、労働時間、  
じゆんかんとくしょ とど で きむ しゅうぎょう きそく ちんぎん ろうどうじかん

5 休憩、休暇、安全衛生などの労働条件や職場での規律などが定めら  
きゅうけい きゅうか あんぜんえいせい ろうどうじょうけん しよくば きりつ さだ

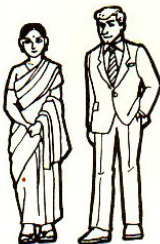
れている。雇用者とそれぞれの労働者との間の雇用契約の内容が就  
こようしゃ ろうどうしゃ あいだ こようけいやく ないよう しゅう

業規則や労働基準法の定める基準に達しない場合には、その部分は  
ぎょうきそく ろうどうきじゆんほう さだ きじゆん たつ ばあい ぶぶん

無効となり、就業規則や労働基準法の定める基準が適用される。  
むこう しゅうぎょうきそく ろうどうきじゆんほう さだ きじゆん てきよう

## 外人

がいじん



以前は、普通日本人がガイジンという場合には、白人について  
いぜん ふつう にほんじん ばあい ばくじん  
 言うことが多く、中国人、韓国人、インド人などはガイジンに含  
い おお ちゅうごくじん かんこくじん じん  
 めないといった限定的な使われ方をしていた。おそらく、明治時  
げんていでき つか かた  
 代に指導者が「外つ国」と言った場合に欧米のみを指した習慣が  
だい しどうしゃ とくに い ばあい おうべい き しゅうかん  
 考え方として残っていたものだろう。  
かんがえかた のこ

## ●昇給・昇進・企業内福祉

しょうきゅう しょうしん きぎょうないふくし

社員の給与は年功序列制によって毎年定期昇給を行なっているところが多いが、最近はこの制度が見直されてきている。昇進や昇格も、だいたい勤務年数に応じて行なわれる。管理職になると能力や功績によって昇進の差が生まれるが、30歳ぐらまでは、優秀な社員が抜てきされて上位職につく例は少ない。

企業の中には社宅、住宅融資、企業年金など従業員の生活設計まで援助しているところもあり、保養所があれば家族も利用できるで、社員個人だけではなく、その人の家族も会社に属しているような気になる。かつての国鉄が国鉄一家と呼ばれたことがあるが、日本の企業は疑似家族といった性格を持っている。

ほん きぎょう ぎ じ かぞく

せいかく も



しかし、現在では次第に外国人全般について使われるようになってきている。

げんざい し だい がいこくじんぜんぱん

つか



● 労組・ベア交渉

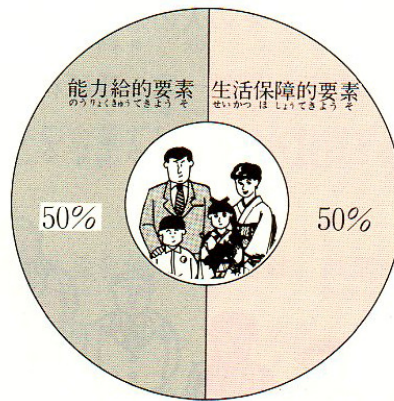
ろう そ こうしょう

日本の賃金は、職務・能力・学歴など能力給的な要素と、年齢・  
にほん ちんぎん しよくむ のうりよく がくれき のうりよくきゅうてき ようそ ねんれい

勤続年数・家族構成などに対する生活保障的な要素とがあり、その  
きんぞくねんすう かぞくこうせい たい せいかつ ほしょうてき ようそ

比率はだいたい半々くらいが普通になっている。したがって<sup>70</sup>、個人<sup>70</sup>  
ひりつ はんはん ふつう したがって こじん

5 が上司と賃上げ交渉をすることはない。  
じょうし ちんあ こうしょう



はら



日本では、人間の心は頭や胸に宿っているが、本当の魂は腹の  
にほん にんげん こころ あたま むね やど ほんとう たましい はら  
中にあると信じられていた。「はらが坐っている(大胆で落ち着い  
なか しん ずわ だいたん おつ  
ている)」「はらを割って話す(本当に思っていることを相手に語  
わ はな ほんとう おも あいて かな  
って聞かせる)」といった慣用句が多いのはそのためだ。表面は尊  
き かんようく おお ひょうめん せん  
敬したように見せておいて「はらの中で軽蔑する」こともできる  
けい み なか けいべつ

労働組合が企業相手にベースアップ交渉を行なって、その結果、  
ろうどうくみあい きぎょうあいて こうしょう おこ けっか  
 昇給が決まるのだから、個人が交渉する必要はないのだ。また、一  
しょうきゅう き こじん こうしょう ひつよう いち  
 企業一組合が普通なので、一部門がストライキをすることもない。  
きぎょういちくみあい ふうつう いちぶもん  
 春闘という言葉は毎年マスコミに現れるが、労使間の闘争といった  
しゅんとう ことば まいとし あらわ ろうしかん とうそう  
 イメージはほとんどない。しかし、日本の労働組合の最大の活動は  
にほん ろうどうくみあい さいだい かつどう  
 賃金引き上げ交渉で、組合大会・職場大会を通して全組合員の意見  
ちんぎん ひ あ こうしょう くみあいたいかい しょくばたいかい とお ぜんくみあいいん いけん  
 が吸いあげられ、組合の代表が交渉に臨む。毎年、ほとんどの労使  
す くみあい だいいょう こうしょう のぞ まいとし ろうし  
 の交渉が3月・4月に集中するので、年中行事のようにニュースと  
こうしょう さんがつ しがつ しゅうちゅう ねんじゅうぎょうじ  
 して報道される。  
ほうどう

5

し、ちゃんと決心がついているときには「私のはらは決まっている」と  
けっしん かくし き  
 も言う。  
い

腹切りも、自分の誠心誠意を腹を切って内部を見せることによって証  
はら き じぶん せいしんせい い はら き ない ぶ み しょう  
 明するという意味だった。  
めい い み

## ●意思決定

い し けってい

日本の企業の意思決定は、集団意思決定の性格が強い。営業でも  
 に ほん き ぎょう い し けってい しゅうだん い し けってい せいかく つよ えいぎょう

研究開発でも、しばしば下位者の意見が採りあげられることがある。  
 けんきゅうかい はつ か い しゃ い けん と

また、企業の重要決定は、逆に現場にまで諮問が行なわれるので、  
 き ぎょう じゅうようけってい ぎゃく げん ば し もん おこ

5

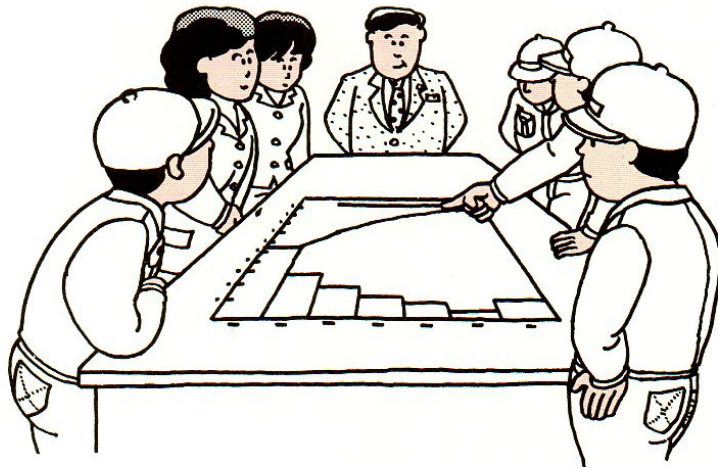
採決時には全員が決定の内容を知っているといた例も珍しくない。  
 さいけつ じ ぜんいん けってい ないよう し れい めずら

もちろん、企業の政策的な重要事項は役員会で決められるが、職場  
 き ぎょう せいさくてき じゅうよう じ ごう やくいんかい き しょく ば

での問題解決、たとえば、品質やサービスの向上、職場環境の改善  
 もんだいかいけつ ひんしつ こうじょう しょく ば かんきょう かいぜん

といった問題は職場の小集団による討議を通して、上部に吸いあげ  
 もん だい しょく ば しょうしゅうだん どう き とお じょう ぶ す

られる。



## 心中

しんじゅう



もともとは、結婚できない男女がいっしょに死ぬのを心中と呼  
 けっこん だんじょ し しんじゅう よ  
 び、伝統演劇の歌舞伎や浄瑠璃では大事な主題とされている。こ  
 でんどうえんげき か ぶ き じゅう り だい じ しゅだい  
 れが近代になって拡大解釈されて貧苦や病苦などのために、親子  
 きんだい かくだいかいしやく ひんく ひょうく おや こ  
 がいっしょに死んだり、恋する相手が愛を受け容れてくれないと  
 し こい あいて あい う い  
 き、その相手を殺して自分も自殺する場合も心中と呼ぶようにな  
 あいて ころ じ ぶん じ かつ ば あい しんじゅう よ



QC (品質管理) はアメリカで開発されたものだが、職場の小集団  
ひんしつかん り かいはつ しょく ば しょうしゅうだん  
 による QC は QCC (Quality Control Circles) として日本で発達し  
に ほん はったつ  
 た方式だ。  
ほうしき

った。

本来、心中は「心の中」の意味で、遊廓の遊女などが客に対して自ら  
ほんらい しんじゅう ごころ なか い み ゆうかく ゆうじょ きやく たい みずか  
 誠実を示すために髪を切ったり指の爪をはがして贈ったりした「心中立  
せいじつ しめ かみ き ゆび つめ おく しんじゅう だ  
 て」から来たもので、死んで自分たちの純愛を示すということから、心  
き し じぶん じゅんあい しめ しん  
 中という語が使われるようになった。  
じゅう ご つか

## 社会保障と医療

しゃかい ほしょう いりよう

- 日本の定年は60歳から65歳が多いが、平均寿命が81.4歳(2001年)  
 にほん ていねん さい さい おお へいきんじゆみよう さい ねん  
 と長くなっているので、定年退職した後に、再就職する人も少なく  
 なが ていねんたいしよく のち さいしゅうしよく ひと すく  
 ない。官僚は、関連の団体や企業に天下りすることがあるが、高齢  
 かんりよう かんれん だんたい きぎょう あまくだ こうれい  
 5 化社会が進み、定年になっても十分に働くことのできる人が大部分  
 かしゃかい すす ていねん じゅうぶん はたら ひと だいぶぶん  
 なので、一般的にも今後ますます再就職の傾向は強まるものと予想  
 いっぱんでき こんご さいしゅうしよく けいこう つよ よそう  
 72  
される。

また、2000年の時点で65歳以上の人口が17.3%に達しており、今  
 ねん じてん さいいじょう じんこう たつ こん  
 後も増えることが予想され、社会保障はますます重要になってきて  
 ご ふ よそう しゃかい ほしょう じゅうよう  
 いる。



## 遠慮

えんりょ



他人の迷惑や苦痛を前もって予想し、自分の方から辞退すると  
 たにん めいわく くつう まえ よそう じぶん ほう じたい  
 きの心理や行動を遠慮という。たとえば、相手に食事に呼ばれた  
 しんり こうどう えんりょ あいて しょくじ よ  
 ときに、相手の家の金銭や労力の負担の大きさを思っ断るのが  
 あいて いえ きんせん ろうりよく ふたん おお おも ことわ  
 遠慮で、一種の礼儀になっている。「煙草を遠慮する」は、人に迷  
 えんりょ いっしゅ れいぎ たばこ えんりょ ひと めい  
 惑をかけないために煙草を吸わないことになる。一方、エチケット  
 わく たばこ す いっぱう

な<sup>73</sup>かでも、医療<sup>い りょう</sup>は、もっとも重視<sup>じゅう し</sup>され、現在<sup>げん ざい</sup>、国民健康保険<sup>こく じん けん こう ほ けん</sup>をは

じめ共済組合<sup>きょう さい く み あい</sup>など、いずれかの健康保険<sup>けん こう ほ けん</sup>に全国民<sup>ぜん こく じん</sup>が加入<sup>か にゅう</sup>している。

また、共済組合<sup>きょう さい く み あい</sup>の多くは年金業務<sup>ねん きん ぎ ゅ う</sup>も行<sup>お こ</sup>なっている。

核家族社会<sup>かく か ぞく し ゃ か い</sup>では、子供<sup>こ ども</sup>が年<sup>とし</sup>とった親<sup>お や</sup>の世話<sup>せ わ</sup>をする習慣<sup>し ゅ う かん</sup>が薄<sup>う す</sup>れ、親<sup>お や</sup>

も老後<sup>ろう ご</sup>を子供<sup>こ ども</sup>の世話<sup>せ わ</sup>に期待<sup>き たい</sup>しなくなっている、老人問題<sup>ろう じん もん だい</sup>は

5

重要<sup>じゅう よう</sup>な社会問題<sup>し ゃ か い もん だい</sup>になっている。

おそらく、日本<sup>に ほん</sup>もアメリカ<sup>てい ね ん</sup>のように定年<sup>せい ねん</sup>を70歳<sup>さい</sup>まで延ば<sup>の</sup>して、高<sup>こう</sup>

齢者<sup>れい し ゃ</sup>の労働<sup>ろう どうかう</sup>を経済<sup>けい ざい</sup>の中<sup>なか</sup>に組み込む<sup>く こ</sup>といった方法<sup>ほう ほう</sup>によって、社会保<sup>し ゃ か い</sup>障<sup>しょう</sup>

制度<sup>せい ど</sup>を検討<sup>けん とう</sup>する必要がある<sup>ひつ よう</sup>だろう。

トとしての遠慮<sup>えん り ょ</sup>に対して「私は困<sup>わ た し</sup>りませんから、そんな心配<sup>しん ぱ い</sup>はしないで  
ください」という意味<sup>い み</sup>で、「どうぞご遠慮<sup>えん り ょ</sup>なく」と言<sup>い</sup>って相手<sup>あ い て</sup>にすすめる  
のもエチケットだ。

相手の気持ち<sup>あ い て き も</sup>を察<sup>さつ</sup>しないで、自分の思<sup>じ ぶ ん</sup>うま<sup>おも</sup>まに行動<sup>こう どうかう</sup>するのは「無遠慮<sup>ぶ えん り ょ</sup>」  
として人<sup>ひと</sup>に嫌<sup>きら</sup>われる。



## 落語

らくご



和服を着て扇子一本を持った芸人が、舞台に置いた座ぶとんに座って語る滑稽な話。この落語家が右を向くと上位者、左を向くと下位者という約束になっている、上位者と下位者の対話を一人で演じる。一人が経験があつて豊かな知識をもっており、もう一人が無知で粗野でばかな質問をし、そこから誤解や滑稽な連想などで笑いを生むという筋が基本になっている。扇子と手拭いを小道具にして、身ぶり手ぶりで二人の役を演じるが、顔の表情も加わって、観衆を楽しませる。

話の終わりの機知に富んだ話題や洒落で結ぶ部分を「落ち」と言い、昔は落語を「落とし話」と呼んでいた。これを熟語にして落語という語が生まれ、現在ではもっぱらこの語が使われている。

落語は、室町時代の末期に、武将のそばに仕える御伽衆が主人を楽しませるために笑い話をしたものが舞台芸にまで発達したもので、話題は、仏典、中国の笑話、狂言など雑多な分野から取りあげられたものと江戸時代の庶民生活の中から生まれた笑い話とがいっしょになってできあがった。

現在は、江戸時代以来の寄席は衰退気味だが、テレビやラジオなどで上演されていて、根強い支持層を得ている。



語 彙 表  
ご い ひょう

略 号  
りゃく ごう

Symbols Used

- P 本文のページを示す。  
ほんぶん しめ  
 P : the page number
- ⇒ 類義語、関連語を比較、参照せよ。  
るいぎご かんれんご ひかく さんしやう  
 ⇒ : synonyms or related words
- ↔ 反対語  
はんたいご  
 ↔ : antonyms
- 正  
せい  
 ○ : correct usage
- × 誤  
ご  
 × : wrong usage
- [ ~ ] 動詞には、主格の「が」以外のよく結びつく助詞を、次のように示す。  
どうし しゅかく いが いが い わす じょし つぎ しめ  
 [ ~ ] : the particle used with the verb
- 済ませる [ ~ を ]  
す
- たどり着く [ ~ に ]  
つ
- (な) な形容詞は、次のように示す。  
けいようし つぎ しめ  
 Na-adjectives are shown as in the following example:
- 重要 (な)  
じゅうよう
- い形容詞については特別にその語尾を示さない。  
けいようし とくべつ ご び しめ
- Endings of i-adjectives are not shown in parentheses
- (の) 「～の」の形をとる形容詞的名詞は、次のように示す。  
かたち けいようし てきめいし つぎ しめ
- Adjectival nouns which use *no* as shown in the following examples:
- 一種 (の)  
いっしゆ
- 昔ながら (の)  
むかし
- (する) 名詞でも、「する動詞」になるものは、次のように示す。  
めいし どうし つぎ しめ
- Nouns which can be changed into verbs using *suru* as shown in the following examples:
- 起床 (する)  
きしやう
- 接待 (する)  
せったい

## 【P11】

～家 <the ~ family, the ~s>

佐藤家  
さとうけ

家族構成 <family make-up>  
かぞくこうせい

～氏 <Mr. ~>  
し

大手 <major, large>  
おおて

製造会社 <manufacturing company>  
せいぞうがいしゃ

勤務 <service, working for>  
きんむ

海外事業部 <overseas division>  
かいがいじぎょうぶ

課長 <chief of the section>  
からちょう

⇒ 係長、部長、社長  
かかりちょう ぶちょう しゃちょう

～夫人 <Mrs. ~>  
ふじん

長女 <first daughter>  
ちやうじよ

⇒ 次女、三女、末っ子  
じじよ さんじよ すえこ

長男 <first son>  
ちやうなん

⇒ 次男、三男、末っ子  
じなん さんなん すえこ

住宅 <house>  
じゅうたく

分譲集合住宅 <condominium>  
ぶんじょうしゅうごうじゅうたく

3LDK <three bedrooms and a  
living-dining room plus kitchen>

⇒ 2DK

都心 <centre of Tokyo>  
としん

～程度 <about>  
ていど

1時間程度  
じかんていど

郊外 <suburb>  
こうがい

## 【P12】

起床 (する) <rising, to get up>  
きしょう

起床時間  
きしょうじかん

⇒ 起きる  
おきる

○ きみ、けさ何時に起きた?  
なんじ お

× きみ、けさ何時に起床した?  
なんじ きしょう

たいてい (の) <most>

水曜日はたいていの店は閉まっている。  
すいようび みせ し

⇒ 水曜日は店はたいてい閉まっている。  
すいようび みせ し

⇒ ほとんど

サラリーマン <company employee>

勤め先 <place of work>  
つと さき

～先、行き先、送り先、取引先 (P18)  
さき い さき おく さき とりひきさき

まず <at first>

⇒ 最初に、はじめに  
さいしよ

夫 <husband>  
おつと

⇒ 妻  
つま

朝食 <breakfast>  
ちやうしやく

⇒ あさごはん

## 【P13】

味噌汁 <miso soup>  
みそしる

煮しめ <vegetables boiled hard with  
soy>  
に

漬物 <pickles>  
つけもの

⇒ 御新香  
おしんこう

和食 <Japanese-style food>  
わしょく

↔ 洋食  
ようしょく

目玉焼き <sunny-side up>  
めだまや

ハム <ham>

サラダ <salad>

洋食 <western-style food>  
ようしょく

メニュー <menu>

⇒ 献立  
こんだて

○ メニューを見せてください。(レストラン)



ンで)

× 献立を見せてください。(レストランで)  
こんだて み

日本茶 <green tea>  
にほんちゃ

⇒ お茶、緑茶  
ちゃ りよくちゃ

一般的に <generally>  
いっばんてき

⇒ 一般的 (な)  
いっばんてき

手間 <trouble, time, labour>  
てま

～がかかる、～をかける

とる [～を] <to have (meals)>

⇒ 食べる  
た

○ 朝食をとる。  
ちようしよく

× あさごはんをとる。

できごと <occurrence, event>

知識 <knowledge>  
ちしき

仕入れる [～を] <to get, to stock>  
し い

知識を仕入れる。  
ちしき し い

材料を仕入れる。  
ざいりよう し い

天気予報 <weather forecast>  
てんき よほう

日課 <daily work>  
にっか

## 【P14】

ラッシュアワー <rush hour>

大都市 <major city>  
だいにとし

乗車率 <passenger rate against the  
じようしゃりつ capacity of the transportation>

⇒ 率 (P97)  
りつ

## 【P15】

ごみ <rubbish, trash>

⇒ ちり

○ 月曜日はごみ出し日です。  
げつようび だ び

× 土曜日はちり出し日です。  
どようび だ び

布団干し <airing thick bedquilts and  
ふとんほ mattresses>

家事 <housework>  
かじ

済ませる [～を] <to finish>  
す

⇒ 済ます、済む  
す す

ときには <sometimes>

⇒ たまには、ときどき

折込広告 <inserted advertisement, flier>  
おりこみこうこく

バーゲンセール <bargain sale>

⇒ 安売り、大安売り、特売  
やすう おおやすう とくばい

ちらし <leaflet>

丹念に <carefully>  
たんねん

開店 <opening a shop>  
かいてん

⇔ 閉店  
へいてん

見計らう [～を] <to time, to select a  
みはか thing according to one's own

judgement>

時間を見計らう。  
じかん みはか

適当なものを見計らって買う。  
てきとう みはか か

## 【P16】

部活動 <club activity>  
ぶかつどう

⇒ クラブ活動 (P56)  
かつどう

定刻 <appointed time>  
ていこく

全校 <whole school>  
ぜんこう

教職員 <staff of a school>  
きようしよくいん

朝礼 <morning assembly>  
ちようれい

校長先生 <headmaster, principal>  
こうちようせんせい

行事 <event>  
ぎょうじ

予定 <schedule>  
よてい

通達事項 <announcement>  
つうたつじこう

～事項、注意事項、協議事項、重要事項  
じこう ちゅういじこう ぎょうぎじこう じゅうようじこう

満員 (の) <overcrowded>  
まんいん

解放する [～を] <to release>  
かいほう

たどりつく [～に] <to arrive>

やっと頂上(ちようじやう)にたどりつく。

⇒ 着(き)く

### 【P17】

社歌 <company song>  
しゃか

⇒ 校歌(こうか)、国歌(こっか)

社訓 <company motto>  
しゃくん

スローガン <slogan>

いっせいに <in chorus, at the same time>

唱える [～を] <to chant>  
とな

体操 <physical exercise>  
たいそう

なお <further>

これで今日の授業(きよう じゅぎょう)を終わ(お)ります。なお、明

日の授業(じゅぎょう)は9時半(じはん)からです。

多く <many>  
おほ

サラリーマンの多く(おほ)は会社(かいしゃ)のバッジをつけている。

⇒ ほとんどのサラリーマンは会社(かいしゃ)のバッジをつけている。

× 多い(おほ)サラリーマンは……………

バッジ <badge>

背広 <(men's) business suit>  
せびろ

襟 <lapel>  
えり

左襟(ひだりえり)、右襟(みぎえり)

平均する [～を] <to average, on an average>  
へいきん

平均(へいきん)して一日五時間(いちにちごじかん)勉強(べんきよう)する。

会議 <meeting>  
かいぎ

書類 <document>  
しよるい

回る <to be sent around>  
まわ

判 <seal>  
はん

デスクワーク <desk work>

中心(ちゆうしん)になっている <to be the centre, to be the pivot>

⇒ 主(しゆ)になっている、主要(しゆよう)なものになって  
いる

⇒ 円(えん)の中心(ちゆうしん)、町(まち)の中心(ちゆうしん)

このほか <besides this>

⇒ 他(た)

○ このほか

○ そのほか

× この他(た)

○ その他(た)

来客(らいきやく) <visitor>

### 【P18】

属する [～に] <to belong>  
ぞく

田中(たなか)さんも同じグループ(おな)に属(ぞく)している。

⇒ 所属(しよぞく)する

ファックス <fax>

Eメール <E-mail>

連絡(れんらく) (する) <communication,

information, to communicate, to inform>

情報整理 <arrangement of information>  
じょうほうせいり

主に <mainly>  
おも

取引先 <business partner>  
とりひきさき

企業 <enterprise>  
きぎょう

役所 <government office>  
やくしよ

姓名 <full name>  
せいめい

名字 <family name>  
みょうじ

出典 <source>  
しゅってん

### 【P19】

主婦 <housewife>  
しゅふ

パート <part-time job>

教育費 <educational expenses>  
きょういくひ

～費、旅費、食費、交通費、会費  
ひ りょひ しょくひ こうつうひ かいひ

住宅ローン <housing loan>  
じゅうたく

返済 (する) [～を] <repayment, to repay>  
へんさい

当てる [～を～に] <to appropriate ～ for>  
あ

このお金を教育費に当てる。  
かね きょういくひ あ

難しい仕事を田中さんに当てる。  
むずか しごと たなか あ

### 【P20】

昼食 <lunch>  
ちゅうしょく

⇒ ひるごはん

昼食時 <lunchtime>  
ちゅうしょくじ

～時、非常時、ラッシュ時  
じ ひじょうじ

社員食堂 <company dining-hall>  
しやいんしょくどう

オフィス街 <office district>  
が

～街、商店街、住宅街、神田の古本屋街  
が しょうてんが じゅうたくが かん だ ふるほん や が

込む <to be crowded>  
こ

数百円 <several hundred yen>  
すうひゃくえん

⇒ 4・500円または5・600円  
し びゃくえん ご ろっぴゃくえん

数十キロ、数万円、数人、数個  
すうじゅう すうまんえん すうにん すうこ

日替わり <daily menu>  
ひが

定食 <set menu>  
ていしょく

### 【P21】

学校給食 <school lunch>  
がっこうきゅうしょく

母親 <mother>  
ははおや

⇒ 父親 (P32)  
ちちおや

弁当 <boxed lunch>  
べんとう

公立 <public>  
こうりつ

⇒ 国立、県立、市立、私立  
こくりつ けんりつ しりつ しりつ

売店 <tuckshop, stall, stand>  
ばいてん

サンドイッチ <sandwich>

### 【P22】

昼休み <lunch break>  
ひるやす

制服 <uniform>  
せいふく

背広姿 <appearance with a business suit>  
せびろすがた

～姿、着物姿、洋服姿、後ろ姿  
すがた きものすがた ようふくすがた うし すがた

支給する [～を] <to give, to supply>  
しきゅう

各社 <each company>  
かくしゃ

それぞれの <each>

風物 <things, life and nature>  
ふうぶつ

### 【P23】

外出着 <street clothes>  
がいしゅつぎ

⇔ 普段着 (P91)  
ふだんぎ

着かえる [～を～に] <to change>  
き



(clothes)〉

服を着かえる。  
ふく き着物を洋服に着かえる。  
き もの ようふく き着物から洋服に着かえる。  
き もの ようふく き

カルチャーセンター 〈culture centre; a  
centre where courses for adults,  
especially housewives and female  
office workers, are conducted to  
enable them to acquire artistic  
accomplishments or enrich their  
lives〉

古典 〈classical literature〉  
こてん講読 (する) [～を] 〈reading, to read〉  
こうどく⇒ 読む  
よ英会話 〈English conversation〉  
えいかい わ

エアロビクス 〈aerobics〉

ジャズダンス 〈jazz dance〉

講習 〈class, course〉  
こうしゅう⇒ 授業  
じゅぎょう○ 日本語の夏期講習を受ける。  
にほんご か き こうしゅう う× 日本語の夏期授業を受ける。  
にほんご か き じゅぎょう う教養 〈education, refinement〉  
きょうよう何十 〈tens〉  
なんじゅう何～、何百、何千、何万  
なん なんひゃく なんぜん なんまん⇒ 数十、数百、数千、数万  
すうじゅう すうひゃく すうせん すうまん茶道 〈tea ceremony〉  
さどう生花 〈flower arrangement〉  
いけはなおけいこ事 〈lesson, accomplishments〉  
ご

⇒ けいこ

限る 〈to limit〉  
かぎ

さまざま (な) 〈various〉

⇒ いろいろな

水泳 〈swimming〉  
すいえい

それぞれ 〈each one〉

ボランティア活動 〈volunteer activity〉  
かつどう

## 【P24】

夕食 〈dinner〉  
ゆうしょく支度 〈preparation〉  
しだく⇒ 準備  
じゅんび

すでに 〈already〉

○ もう、ごはん食べちゃった？  
た× すでに、ごはん食べちゃった？  
た温める [～を] 〈to warm up, to heat〉  
あた食品 〈foods〉  
しょくひん掃除機 〈vacuum cleaner〉  
そうじ き洗濯機 〈washing machine〉  
せんたく き電子レンジ 〈microwave oven〉  
でんし普及 (する) 〈popularization, spread, to  
popularize, to spread〉  
ふきゅう⇒ 広まる  
ひろ労働 〈labour〉  
ろうどうその分 〈the portion〉  
ぶん～分  
ぶん欲しければわたしの分をあげます。  
ほ ぶん残った分は貯金します。  
のこ ぶん ちぎん昼ごはんをいつもよりたくさん食べたので、  
ひる たその分晩ごはんを少なくした。  
ぶん ばん すく仕立てる [～を] 〈to make, to tailor〉  
した既製服 〈ready-made clothes〉  
き せいふく

オーダー 〈tailor-made〉

⇒ オーダーメイド

余暇 &lt;leisure time, free time&gt;

飛躍的に &lt;by leaps and bounds&gt;

⇒ 飛躍的 (な)

⇒ 急激に

○ 外国人の数が近年飛躍的に増えてきている。

○ 外国人の数が近年急激に増えてきている。

× 夜になって飛躍的に気温が下がった。

○ 夜になって急激に気温が下がった。

延びる &lt;to lengthen&gt;

## 【P25】

職場体操 &lt;exercise at work&gt;

職場 &lt;place of work&gt;

スピーカー &lt;loudspeaker&gt;

ラジオ体操 &lt;radio exercise programme&gt;

背筋 &lt;back, spine&gt;

伸ばす &lt;to stretch&gt;

## 【P26】

受験 (する) [～を] &lt;taking an examination, to take an examination&gt;

塾 &lt;cram school&gt;

通う &lt;to go&gt;

⇒ 行く

○ 地下鉄で会社に通っています。

○ 自転車で学校に行っています。

× ちょっとスーパーへ通ってきます。

○ ちょっとスーパーへ行ってきます。

競争 (する) [～と] &lt;competition, to compete&gt;

激しい &lt;intense, fierce&gt;

放課後 &lt;after regular school hours&gt;

## 【P28】

～以外 &lt;except for&gt;

家庭教師 &lt;private teacher, private tutor&gt;

個人的に &lt;individually, personally&gt;

⇒ 個人的 (な)

## 【P29】

終業 &lt;end of work, clocking-out&gt;

↔ 始業

きっかり &lt;exactly, just&gt;

⇒ ちょうど

帰宅する &lt;to go home&gt;

残業する &lt;to work overtime&gt;

つきあい &lt;socializing&gt;

⇒ つきあう

同僚 &lt;colleague&gt;

会社の同僚

⇒ 学校の同級生

⇒ 野球の仲間

一杯飲む &lt;to have a drink&gt;

⇒ お酒を飲む

⇒ コップで一杯ジュースを飲む。

機会 &lt;chance&gt;

⇒ 機

社用 <business of a company>  
しゃよう

⇒ 公用、私用  
こうよう しよう

居酒屋 <Japanese traditional pub>  
いざかや

スナック <bar>

酒の席 <drinking occasion, drinking place>  
さけ せき

お祝いの席、お見合の席  
いわ せき みあい せき

⇒ あの席にすわる。  
せき

話題 <topic>  
わだい

人事 <personnel transfer>  
じんじ

～に関する <concerning to>  
かん

情報 <information>  
じょうほう

交換 (する) [～を～と] <exchange, to exchange>  
こうかん

団結力 <power of combination>  
だんけつりき

養う [～を] <to foster, to develop>  
やしな

スポーツによって体力が養われる。  
たいりよく やしな

親が子を養う。  
おや こ やしな

### 【P30】

勤務外 <off duty>  
きんむ がい

～外  
がい

⇒ わたしの責任外のことです。  
せきにんがい

⇒ 時間外の入場はできません。  
じかんがい にゅうじょう

⇒ 予想外のお金がかかってしまった。  
よそうがい かね

マージャン <mah-jongg>

ゴルフ <golf>

接待 (する) [～を] <business entertainment, to entertain>  
せつたい

会社内 <intra-company>  
かいしゃない

～内、学校内、教室内、時間内、予算内  
ない がっこうない きょうしつない じ かんない よ ざんない

⇒ ～内  
ない

野球チーム <baseball team>  
やきゅう

草野球 <sandlot baseball>  
くさ やきゅう

週休2日制 <five-day working system>  
しゅうきゅうふつ か せい

採用する [～を] <to adopt>  
さいよう

休日 <day off, holiday>  
きゅうじつ

自主的に <voluntarily>  
じしゅてき

⇒ 自主的 (な)  
じしゅてき

出勤する <to go to work>  
しゅつぎん

費やす [～を] <to spend>  
つい

すべての財産を費やす。  
ざいさん つい

多くの時間を費やす。  
おお じ かん つい

妻 <wife>  
つま

遊園地 <amusement park>  
ゆうえん ち

家庭サービス <having a good time with the family>  
かてい

### 【P31】

時間帯 <period of time>  
じ かんたい

番組 <(television) programme>  
ばんぐみ

一家 <family>  
いっ か

⇒ 家族  
かぞく

日本酒 <sake>  
に ほんしゅ

晩酌 <evening alcoholic drinking at home>  
ばんしやく

うわさ <gossip, rumour>

うわさをする。

うわさを聞く。  
き

語る [～を] <to talk, to chat>  
かた



⇒ 話す  
はな○ 英語を話す。  
えいご はな× 英語を語る。  
えいご かた唯一 (の) <only>  
ゆいいつ一家団らん (の) <pleasure of a happy family>  
いっ か だん

ひととき &lt;time, moment&gt;

○ 楽しいひとときを過ごした。  
たの す× いやなひとときを過ごした。  
す

## 【P32】

通勤 (する) <commuting, to commute>  
つうきん⇒ 通学  
つうがく距離 <distance>  
きょり父親 <father>  
ちちおや⇒ 母親 (P21)  
ははおや生活パターン <life pattern, life style>  
せいかつ

めったに～ない &lt;rarely, seldom&gt;

顔を合わせる [～と] <to see>  
かお あ不在 <absence, being ignored>  
ふざい社会問題 <social problem>  
しゃかいもんだい一般に <usually>  
いっぱん家計 <family finances>  
かけい管理 (する) [～を] <management, to manage>  
かんり大型支出 <big expense>  
おおがたししつ自宅 <one's house>  
じたく口座 <bank account>  
こうぎ振り込む [～を～に] <to pay ~ into a bank account>  
ふりこ給与 <salary>  
きゅうよ⇒ 給料、月給  
きゅうりょう げつきゅう小遣い <pocket money>  
こづか手渡す [～を] <to hand over>  
てわた食後 <after a meal>  
しょくご～後、授業後、夏休み後、五分後  
ご じゅぎょうご なつやすご ごふんご一部 <part of>  
いちぶ家計簿 <housekeeping account book>  
かけいぼ家計簿をつける。  
かけいぼ⇒ 日記をつける。  
にっき

～つけ &lt;keeping, entering an item in a book&gt;

⇒ つける

## 【P33】

就寝 <going to bed>  
しゅうしん↔ 起床 (P12)  
きしやう⇒ 寝る  
ね○ もう寝ようか。  
ね× もう就寝しようか。  
しゅうしん床に就く <to go to bed>  
どこ⇒ 床を上げる、床をたたむ  
どこ あ どこ～過ぎ <a few minutes past ~>  
す入浴する <to take a bath>  
にゅうよく⇒ 風呂に入る  
ふろ はい○ 風呂に入りたいなあ。  
ふろ はい× 入浴したいなあ。  
にゅうよく

## 【P34】

ローン &lt;loan&gt;

購入する [～を] <to purchase>  
こうにゅう⇒ 買う  
かう

- 先月3LDKのマンションを購入した。  
せんげつ まんしゆん こうにゅう
- 先月3LDKのマンションを買った。  
せんげつ か
- × このケーキは近くの店で購入した。  
ちか みせ こうにゅう
- このケーキは近くの店で買った。  
ちか みせ か

ボーナス <bonus>

～時 <at the time of>  
じ

月々 <each month>  
つきつき

支出 <expense>  
ししゅつ

⇔ 収入 (P82)  
しゅうにゅう

夫妻 <husband and wife>  
ふうさい

⇒ 夫婦  
ふうふ

占める [～を] <to occupy>  
し

机が部屋の半分を占めている。  
つくえ へや はんぶん し

それほど～ない <not so ~>

### 【P35】

団地生活 <life in condominium  
だんち せいかつ

complexes>

庭つき <with garden>  
にわ

～つき、ガレージつき、サービスつき、保  
ほ

証つき  
しょう

移る <to move>  
うつ

夢見る [～を] <to dream of>  
ゆめ み

庭つきの家に住むのを夢見ている。  
にわ いえ す ゆめ み

⇒ 願う  
ねが

⇒ 夢を見る  
ゆめ み

きのうの夜、庭つきの家に住んでいる  
よる にわ いえ す

夢を見た。  
ゆめ み

社会生活 <life as a member of society>  
しゃかいせいかつ

確立する <to establish>  
かくりつ

定着する <to settle down>  
ていちやく

間取り <room arrangement in a house>  
まど

### 【P37】

近代的 (な) <modern>  
きんだいてき

伝統 <tradition>  
でんとう

慣習 <custom>  
かんしゅう

⇒ 習慣  
しゅうかん

○ 日本では年末にお歳暮を贈る慣習があ  
にほん ねんまつ せいぼ おく かんしゅう  
ります。

○ 日本では年末にお歳暮を贈る習慣があ  
にほん ねんまつ せいぼ おく しゅうかん  
ります。

○ 夕方公園を散歩するのがわたしの習慣  
ゆうがたこうえん さんぽ しゅうかん  
です。

× 夕方公園を散歩するのがわたしの慣習  
ゆうがたこうえん さんぽ かんしゅう  
です。

したがう [～に] <to follow>

年中行事 <annual event>  
ねんじゅうぎょうじ

参加する <to participate>  
さんか

商店 <shop>  
しょうてん

⇒ 店  
みせ

応じる [～に] <to suit, to accord with>  
おう

～に応じて (P113)  
おう

知らず知らずのうちに <unconsciously,  
し  
without knowing it>

月ごとに <every month>  
つき

示す <to show>  
しめ

### 【P38】

入学式 <school entrance ceremony>  
にゅうがくしき

⇒ 洋式、和式  
ようしき わしき

入社式 <company entrance ceremony>  
にゅうしゃしき

会計年度 <financial year>

かいけいねん ど

新学期 <new term, new semester>

しんがっ き

新〜、新時代、新工場、新計画

しん しん じ だい しん こう じょう しん けい かく

学歴 <academic career>

がくれき

重視する [〜を] <to think ~ important>

じゅう し

〜>

大部分 <most of, the greater part of>

だい ぶ ぶん

終身雇用 <life-time employment>

しゅうしん こ ぎょう

人生 <life>

じんせい

重要 (な) <important>

じゅうよう

⇒ 大切 (な)、大事 (な)

たいせつ だい じ

○ もう残りが二つしかないから、大切に

のこ ふた

たいせつ

使ってください。

つか

○ もう残りが二つしかないから、大事に

のこ ふた

だい じ

使ってください。

つか

× もう残りが二つしかないから、重要に

のこ ふた

じゅうよう

使ってください。

つか

節目 <milestone, point>

ふし め

厳肅 (な) <solemn, grave>

げんしゆく

セレモニー <ceremony>

みなす [〜を〜と] <to regard>

中学生以上を大人とみなす。

ちゅうがく せい い じょう おと な

中学生以上は大人とみなされる。

ちゅうがく せい い じょう おと な

主として <mainly>

しゅ

⇒ 主に

おも

盛装する <to dress up>

せいそう

ついて行く [〜に] <to go with, to

い

accompany>

⇒ 連れていく

つ

## 【P39】

日本経済 <Japanese economy>

に ほん けい ぎ

資本 <capital>

し ほん

対立関係 <opposition, confrontation>

たいりつ かんけい

存在する <to exist>

ぞんざい

⇒ ある、いる

並行する [〜と] <to keep pace with, to

へいこう

parallel>

経済の問題と並行して教育の問題について

けい ぎ もん だい へい こう きょう いく もん だい

も話し合われる。

はな あ

⇒ 二本の線が平行する。

に ほん せん へい こう

経営家族主義 <paternalism>

けい ざい か ぞく しゅ ぎ

中小企業 <small and medium-sized

ちゅうしょう き ぎょう

companies>

企業主 <company owner>

き ぎょう ぬし

従業員 <employee>

じゅうぎょういん

観念 <notion, idea>

かんねん

通過儀礼 <rite of passage>

つう か ぎ れい

同様 <similarly>

どうよう

東京と同様 (に)、大阪も人か多い。

とうきょう どうよう おおさか ひと おお

⇒ 同様 (な)

どうよう

恩情 <moral indebtedness, debt of

おんじょう

gratitude>

忠誠 <loyalty>

ちゅうせい

精神的 (な) <spiritual>

せいしんてき

つながり <relationship>

⇒ つながる

## 【P40】

春闘 <Spring Labour Offensive>

しゅんどう



⇒ 春季闘争  
しゅん き どうそう労働組合 <labour union, trade union>  
らう どうくみあい労働運動 <labour movement>  
らう どううんどう組織率 <union membership ratio>  
そ しきりつ～率、合格率、乗車率 (P14)  
りつ とうかくりつ じやうしゃりつ敗戦 <defeat in a war>  
はいせん⇒ 負ける、勝つ  
ま か占領中 <during occupation>  
せんりやうちゆう～中 (ちゆう)、食事中、使用中、授業中  
しよく じ ちゆう し しようちゆう じゆぎやうちゆう⇒ ～中 (じゆう)、日本中、世界中、一年  
に ほんじゆう せ かいじゆう いちねん中  
じゆう発達する <to develop>  
はったつ労組 <labour union, trade union>  
らう ぞ⇒ 労働組合  
らう どうくみあい官公労 <Government and Public  
かんこうらう

Workers' Union&gt;

⇒ 日本官公庁労働組合協議会  
に ほんかんこうちやうらう どうくみあいきやう ぎ かい大企業 <large company>  
だい きぎやう組合 <union>  
くみあい中小零細企業 <tiny, small and  
ちゆうしやうれいさい きぎやう  
medium-sized companies>未組織 <unorganized>  
み そしき未～、未完成、未発達  
み み かんせい み はったつ企業別組合 <company union>  
きぎやうべつ くみあい欧米 <Europe and America>  
おうべい

## 【P41】

賃上げ <wage increase>  
ちん あ労働条件 <working conditions>  
らう どうじやうけん改善 (する) [～を] <improvement, to  
かいぜん  
improve>交渉 (する) [～と] <negotiation, to  
こうしやう  
negotiate>

ストライキ &lt;strike&gt;

まれ (な) &lt;rare, uncommon&gt;

ストライキを行なうことはまれだ。  
おこ⇒ ストライキを行なうことはめったにな  
おこ  
い。厳しい <strict>  
きび対立 (する) [～と] <opposition, conflict,  
たいりつ  
to be opposed to>定期昇給 <periodic pay increase>  
てい き しょうきやう賞与 <bonus>  
しょう よ

⇒ ボーナス

賃金体系 <wage structure>  
ちんきんたいけい組み込む [～を～に] <to include>  
く こと能率給制 <efficiency wage system>  
のうりつきやうせい基本的に <basically>  
き ほんてき年功賃金制 <seniority-based wage  
ねんこうちんぎんせい  
system>

## 【P42】

ゴールデンウィーク <Goldenweek;  
succession of holidays from the end  
of April to the beginning of May>みどりの日 <Greenery Day>  
ひ憲法記念日 <Constitution Memorial  
けんぽう きねん び  
Day>こどもの日 <Children's Day>  
ひ含める [～を] <to include>  
ふく⇒ 除く [～を]  
のぞ時期 <time>  
じ き

⇒ 時代  
じだい休暇 <holiday>  
きゅうか⇒ 休み  
やすみ

はさむ &lt;to put ~ between ~&gt;

わたしの家は高いビルにはさまれている。  
いえ たか週日 <weekday>  
しゅうじつ

⇒ ウィークデイ

休業 (する) <shutdown, to be closed to  
business>  
きゅうぎょう本日休業  
ほんじつきゅうぎょう動物園 <zoo>  
どうぶつえん行楽地 <pleasure resort>  
こうらくち

## 【P43】

海外旅行 <overseas trip>  
かいがいりょこう気候 <climate>  
きこう⇒ 天気、天候  
てんき てんこう公共交通機関 <public transportation>  
こうきょうこうつうきかん～機関、交通機関、研究機関  
きかん こうつうきかん けんきゅうきかん混雑する <to be crowded>  
こんざつ高速道路 <expressway>  
こうそくどうろ渋滞 (する) <traffic congestion, to be  
congested>  
じゅうたい及ぶ [～に] <to extend to>  
およ事故で亡くなった人は100名に及んだ。  
じこ な ひと めい およ被害は全国に及んでいる。  
ひがい ぜんこく およ列車 <train>  
れっしや乗客数 <the number of passengers>  
じようきやくすう定員 <capacity, fixed number>  
ていいん達する [～に] <to reach>  
たつ⇒ 及ぶ  
およ○ 亡くなった人は300名に達した。  
な ひと めい たつ○ 亡くなった人は300名に及んだ。  
な ひと めい およ× 被害は全国に達した。  
ひがい ぜんこく たつ○ 被害は全国に及んだ。  
ひがい ぜんこく およ節句 <seasonal festival>  
せつく雛祭り <Doll's Festival>  
ひなまつ

すこやか (な) &lt;healthy&gt;

成長 (する) <growth, to grow up>  
せいちょう祝う [～を] <to celebrate>  
いわ⇒ お祝い  
いわい幸福 <happiness>  
こうふく願う <to desire, to wish>  
ねが武者人形 <Japanese warrior doll>  
むしゃにんぎょう武具 <armour, armory>  
ぶぐ飾る [～を] <to decorate>  
かざ屋外 <the outdoors>  
おくがいこいのぼり <Koinobori; carp-shaped  
streamer made of cloth>揚げる [～を] <to put up>  
あ↔ 降ろす  
お柏餅 <Kashiwamochi; special rice cake  
wrapped in an oak leaf>  
かしわもちちまき <Chimaki; special rice cake  
wrapped in a bamboo leaf>菖蒲湯 <Shōbuyu; bath with Japanese  
iris leaves floating on the water>  
しょうぶゆ

## 【P44】

施行する [～を] <to enforce>  
しこう日本国憲法 <Constitution of Japan>  
にほんこくけんぽう記念する [～を] <to commemorate>  
きねん

祝日 <national holiday>

しゅくじつ

⇒ 祭日・祝祭日  
さいじつ しゅくさいじつ

民主主義 <democracy>

みんしゆしゆぎ

～主義  
しゆぎ

⇒ 経営家族主義 (P39)、平和主義  
けいえい かぞくしゆぎ へい わしゆぎ

主権在民 <democratic sovereignty>

しゆけんざいみん

基本的人権 <fundamental human right>

きほんてきじんけん

尊重 (する) <respect, to respect>

そんちゆう

平和主義 <pacifism>

へい わしゆぎ

原則とする [～を] <to be based on a

げんそく

principle>

方々 <every direction, various places>

ほうほう

⇒ あちこち

放棄する [～を] <to renounce>

ほうき

戦争を放棄する。

せんそう ほうき

権利を放棄する。

けんり ほうき

第九条 <Article 9>

だいきゅうじゅう

類のない <incomparable, unique>

るい

⇒ 類がない、同じものがない  
るい おな

政府 <government>

せいふ

核兵器 <nuclear weapon>

かくへいき

持ち込む <to bring into>

もちこ

⇔ 持ち出す  
もちだ

非核三原則 <the three principles

ひかくさんげんそく

renouncing nuclear weapons>

宣言する <to declare>

せんげん

戦力不保持 <renouncement of war

せんりよく ふほじ

potential>

原則 <principle>

げんそく

改める [～を] <to revise>

あらた

天皇 <emperor>

てんのう

元首 <sovereign>

げんしゆ

運動 (する) <movement, to campaign>

うんどう

改正 (する) [～を] <revision, to revise>

かいせい

⇒ 改める  
あらた

○ 規則を改める  
きそく あらた

○ 規則を改正する。  
きそく かいせい

○ 考え方を改める。  
かんが かなた あらた

× 考え方を改正する。  
かんが かなた かいせい

国会 <National Diet>

こっかい

総議員 <all Diet members>

そうぎいん

総～、総人口、総面積、総額

そう

そうじんこう そうめんせき そうがく

賛成 (する) <approval, to approve>

さんせい

⇔ 反対 (する)  
はんたい

## 【P45】

伝統的に <traditionally>

でんとうてき

⇒ 伝統的 (な)  
でんとうてき

法律 <law>

ほうりつ

従順 (な) <obedient>

じゆうじゆん

交通規則 <traffic rule>

かうつうきそく

定める [～を] <to provide>

さだ

⇒ 決める  
き

○ これからの方針を定める。  
こうしん さだ

○ これからの方針を決める。  
こうしん き

× 旅行の計画を定める。  
りょこう けいかく さだ

○ 旅行の計画を決める。  
りょこう けいかく き

忠実に <faithfully>

ちゆうじつ

⇒ 忠実 (な)  
ちゆうじつ

守る [～を] <to obey>

まも

傾向 <tendency>

けいこう



泣く子と地頭には勝てぬ <Nakuko to Jitō  
な こ じとう か

niwa katenu; You may as well  
contend against the authorities as  
reason with a crying child.>

ことわざ <proverb>

行政 <political administration>

司法 <judicature>

為政者 <statesman, administrator>

依存する [～に] <to depend on>

⇒ 頼る [～に]  
たよ

意識 <consciousness>

根強い <deep-rooted>

制定する <to enact>

⇒ 定める  
さだ

国民 <people>

薄い <little>

お上 <authority>

与える [～を] <to give>

⇒ あげる

× 田中さんにプレゼントを与えた。

○ 田中さんにプレゼントをあげた。

○ 規則を守らない学生に注意を与えた。

× 規則を守らない学生に注意をあげた。

圧倒的に <overwhelmingly>

⇒ 圧倒的 (な)  
あつとうてき

法学部 <school of law>

～学部、文学部、経済学部、工学部  
がくぶ ぶんがくぶ けいざいがくぶ こうがくぶ

⇒ ～学科  
がっか

民間企業 <private company>

就職する [～に] <to get a job>

離婚 (する) [～と] <divorce, to  
りこん

divorce>

⇔ 結婚 (する) [～と]  
けっこん

交通事故 <traffic accident>

法廷外 <out of law court>

～外、場外、国外、県外  
がい じょうがい こくがい けんがい

協議 (する) [～を～と] <consultation, to  
ぎょうぎ consult>

示談 <out-of-court settlement>

解決する [～を] <to settle>

法意識 <sense of laws>

反映する [～を] <to reflect>

法 <law>

⇒ 法律  
ほうりつ

近づく [～に] <to get near, to  
ちか approach>

心理 <mentality, psychology>

⇒ 心理的  
しんりてき

背景 <background>

法に触れる <to break the law>

違反する [～に] <to offend, to be  
いはん against>

法律に違反する。

規則に違反する。

行為 <act, conduct>

避ける [～を] <to avoid>

テレビドラマ <television drama>

法廷場面 <courtroom scene>

裁判所 <court>

敬遠 (する) <shunning, to shun, to keep  
けいえん ~ at a distance>

現れ <manifestation, expression>

⇒ 現れる (P50)  
あらわ視聴者 <(TV) viewer>  
しちやうしゃ

やりとり &lt;exchange&gt;

ことばのやりとりをする。

手紙のやりとりをする。  
てがみ興味 <interest>  
きやうみ

わく &lt;to arise&gt;

興味がわく。  
きやうみ喜びがわく。  
よろこ自信がわく。  
じしん

## 【P48】

梅雨 <rainy season>  
つゆ上旬 <first ten days of a month>  
じやうじゆん⇒ 中旬、下旬  
ちゆうじゆん げじゆん中旬 <middle ten days of a month>  
ちゆうじゆん高温 <high temperature>  
こうおん⇒ 温度  
おんど多湿 <high humidity>  
たじつ⇒ 湿度  
しつど迎える [～を] <to welcome, to greet, to enter>  
むかお客を迎える。  
きやく むか季節を迎える。  
きせつ むか正月を迎える。  
しやうがつ むか快適 (な) <comfortable, pleasant>  
かいいてき

シーズン &lt;season&gt;

基幹産業 <key industry>  
きかんさんぎやう米作り <rice growing>  
こめづく田植え <rice-planting>  
たう親しみ <familiarity>  
した⇒ 親しむ→親しみ、悲しむ→悲しみ、楽  
した した かな かな なの  
しむ→楽しみ  
たの抱く [～を] <to hold, to have>  
いだ⇒ 抱く  
だ○ 親しみを抱いている。  
した いだ× 親しみを抱いている。  
した だ○ 赤ちゃんを抱いている。  
あか だ× 赤ちゃんを抱いている。  
あか いだ

## 【P49】

米作農業 <rice-producing agriculture>  
べいさくのうぎやう広範囲 <wide range>  
こうはん い根づく <to root>  
ね対応する [～に] <to correspond to>  
たいおう作者 <writer, author>  
さくしや⇒ 作家  
さっか和歌 <waka; a general term for classical  
わ かJapanese verse forms, especially  
referring to a 31-syllable Japanese  
poem>俳句 <haiku; a short poem of 17  
はいく  
syllables arranged in lines of a 5-7-5  
pattern>作品 <work>  
さくひん春夏秋冬 <the four seasons>  
しゆん か しゆうとう分類する <to classify>  
ぶんるい句 <short poem, haiku, phrase>  
く季語 <seasonal word, seasonal phrase>  
きご

## 【P50】

ファン &lt;fan&gt;

流行歌 <popular song>

りゅうこう か

歌詞 <song lyrics>

かし

花々 <flowers>

はなばな

⇒ 人々、家々、国々

ひとびと いえいえ くにくに

語句 <words and phrases>

ご ぐ

喜怒哀楽 <feeling, emotion>

き ど あいらく

結びつく [〜と] <to link>

むす

現れる <to appear>

あらわ

源氏物語 <Genjimonogatari; the Tale of

げん じ ものがたり

Genji>

世紀 <century>

せい き

小説 <novel>

しょうせつ

見合う [〜に、〜と] <to correspond

み あ

with>

収入に見合った生活をする。

しゅうにゅう み あ せいかつ

描く [〜を] <to describe>

えが

行動 (する) <behaviour, to behave>

こうどう

人間心理 <human psychology>

にんげんしん り

融和 (する) <harmony, to harmonize>

ゆう わ

試みる [〜を] <to try>

こころ

本題 <main topic>

ほんだい

時候 <season>

じ こう

述べる [〜を] <to express, to mention>

の

季節感 <sense of a season>

き せつかん

〜感、安心感、幸福感

かん あんしんかん こうふくかん

大事にする [〜を] <to treasure>

だい じ

⇒ 大切に

たいせつ

○ 恋人の写真を大事にしまっておく。

こいびと しゃしん だい じ

○ 恋人の写真を大切にしまっておく。

こいびと しゃしん たいせつ

○ お年寄りを大事にしよう。

とし じょ だい じ

× お年寄りを大切にしよう。

とし じょ たいせつ

来ている <to derive from, to come

き

from>

〜から来ている ⇒ 〜に原因がある

きん げん いん

この病気は疲労から来ている。

びょう き ひ ろう き

団地 <housing complex>

だん ち

マンション <flat, apartment>

近代建築 <modern building>

きん だい けん ちく

草花 <flowering plant>

くさばな

身近にする [〜を] <to keep ~ by one's

み ぢか

side>

伝統心理 <traditional mentality>

でん とう しん り

## 【P51】

四季 <four seasons>

し き

## 【P52】

経営状態 <management situation>

けい えい じょう たい

金額 <amount of money>

きん ぐ

若干 <slightly>

じゃう かん

若干、変動する。

じゃう かん へん だう

若干の変動がある。

じゃう かん へん だう

変動する <to change>

へん だう

慣行 <custom>

かん こう

利潤 <profit>

り じゆん

目的 <purpose>

もく てる

官公庁 <government and municipal

かん こう ちよう

offices>

本俸 <basic salary>

ほん ほう

額 <amount>

がく

低くする <to lower, to bring down>

ひく



臨時に < specially >  
りんじ

⇒ 臨時 (の)  
りんじ

恩恵感 < sense of gratitude >  
おんけいかん

高める [～を] < to increase >  
たか

⇒ 高まる  
たか

強める (P110) → 強まる (P118)、弱める  
つよ

→ 弱まる、広める → 広まる  
よわ ひろ ひろ

給与所得者 < wage earner >  
きゅうしょとくしゃ

消費生活 < consumer life >  
しょうひせいかつ

行動様式 < behavioural pattern >  
こうどうようしき

～様式、生活様式  
ようしき せいかつようしき

高価 (な) < expensive >  
こうか

ビデオ < video tape recorder >

エアコン < air-conditioner >

### 【P53】

目当てにする [～を] < to aim >  
めあ

⇒ ねらう、目標にする  
もくひょう

ボーナス払い < settling up at bonus  
time >  
ぼな

売り出す [～を] < to put ~ on sale >  
うだ

長期ローン < long-term loan >  
ちようき

↔ 短期ローン  
たんき

支払い < payment >  
しはら

⇒ 支払う  
しはら

方式 < system >  
ほうしき

### 【P54】

盛り < the height >  
さか

様式 < style >  
ようしき

切りかえる [～を～に] < to switch >  
き

中元 < Chūgen; a mid-summer gift >  
ちゅうげん

大昔 < ancient times >  
おおむかし

繰り返す < to repeat >  
くかえ

名残 < relic, traces >  
なごり

称する [～と] < to name, to call >  
しょう

日ごろ < always, for a long time >  
ひ

世話になる [～に] < to receive  
せわ

assistance, to be under the care of)

いろいろお世話になりました。  
せわ

⇒ 世話をする  
せわ

年末 < end of the year >  
ねんまつ

～末、週末、月末  
まつ しゅうまつ げつまつ

歳暮 < Seibo; a year-end gift >  
さいぼ

相当する [～に] < to correspond >  
そうとう

⇒ 当たる  
あ

### 【P55】

日用品 < daily necessities >  
にちようひん

売り場 < counter >  
うば

設ける [～を] < to set up, to establish >  
もう

アルバイト < part-timer >

雇う [～を] < to employ >  
やと

大セール < big bargain sale >  
だい

先方 < the other party >  
せんぽう

⇒ 相手、相手の人  
あいて あいて ひと

直接 < directly >  
ちよくせつ

↔ 間接  
かんせつ

持参する [～を] < to take, to bring >  
じさん

配達する [～を] < to deliver >  
はいたつ

目上 < senior, superior >  
めうえ

↔ 目下  
めした

感謝 (する) [～に] <gratitude, to  
かんしゃ

appreciate>

お返し <return>  
かえ

礼儀 <manner>  
れいぎ

葬式 <funeral>  
そうしき

結婚式 <wedding ceremony>  
けっこんしき

金品 <money or presents>  
きんぴん

前者 <the former>  
ぜんしや

↔ 後者  
こうしや

弔事 <unhappy event>  
ちようじ

↔ 慶事  
けいじ

後者 <the latter>  
こうしや

↔ 前者  
ぜんしや

慶事 <happy event>  
けいじ

↔ 弔事  
ちようじ

目下 <junior, inferior>  
めした

↔ 目上  
めうえ

同額 <same amount>  
どうがく

同等 (の) <equality, equal>  
どうとう

基準 <standard>  
きじゆん

関係者 <person concerned>  
かんけいしや

陰口をたたく <to speak ill of>  
かげぐち

チップ <tip>

計算 (する) <calculation, to calculate>  
けいさん

農村地方 <farm district>  
のうそんちほう

病氣見舞い <present to a sick person in  
びようきみまい  
token of one's sympathy>

餞別 <parting present>  
せんべつ

記録する [～を] <to record>  
きろく

贈り主 <sender (of a present)>  
おくぬし

生じる <to arise, to come about>  
しょうじ

義理 <*giri*; obligation, sense of duty>  
ぎり

相互扶助 <mutual assistance>  
そうごふじょ

保険 <insurance>  
ほけん

原初的 (な) <original>  
げんしよてき

形態 <form>  
けいたい

学者 <scholar>  
がくしゃ

### 【P56】

～月末 <the end of a month>  
がつすえ

寮 <dormitory>  
りよう

帰省する <to go home, to return to  
きせい  
one's home town>

学期中 <during a term, during a  
がっきちゆう  
semester>

～中、占領中 (P40)  
ちゆうせんりようちゆう

クラブ活動 <club activity>  
かつどう

⇒ 部活動 (P16)  
ぶかつどう

合宿する <to have a training camp>  
がっしゆく

語学 <language>  
ごがく

### 【P57】

貯める <to save>  
た

レジャー <leisure>

学資 <school expenses>  
がくし

生活費 <living expenses>  
せいかつひ

稼ぐ <to earn>  
かせ

衣服 <clothes>  
いふく

娯楽 <recreation, amusement>  
ごらく

受験勉強 <study to pass an entrance  
じゆけんべんきやう  
examination>

予備校 <private preparatory school>  
よびこう

集中的に <intensively>  
しゅうちゅうてき

⇒ 集中的 (な)  
しゅうちゅうてき

夏季休暇 <summer holidays>  
か き きゅう か

有給休暇 <paid holiday>  
ゆうきゅうきゅう か

避暑 <summering>  
ひ しょ

避暑地 <summer resort>  
ひ しょ ち

～地、観光地、行楽地 (P 42)  
ち かんこう ち こうらく ち

避寒地 <winter resort>  
ひ かん ち

社員用 <for employees of a company>  
しゃいんよう

～用、男性用、女性用、子供用  
よう だんせいよう じょせいよう こどもよう

温泉地 <hot-spring resort>  
おんせん ち

安上がり <inexpensiveness>  
やす あ

## 【P58】

年賀状 <nengajō; New Year's greeting card>  
ねん が じょう

～状、お礼状、案内状  
じょう れいじょう あんないじょう

暑中見舞い <shochūmimai; summer-time greeting card>  
しうちゅう み ま

既製 <ready-made>  
き せい

立秋 <first calendrical day of autumn>  
りっしゅう

残暑見舞い <zanshomimai;  
ざんしよ み ま

late-summer-time greeting card>

興味深い <interesting>  
きょうみ ぶか

～深い、考え深い、情け深い、意義深い  
ぶか かんが ぶか なき ぶか い ぎ ぶか

## 【P60】

リラックスする <to relax>

通常 <usually>  
つうじょう

盆 <Bon; the event which pays respects to the spirits of one's ancestors>  
ぼん

仏教 <Buddhism>  
ぶつぎょう

先祖 <ancestor>  
せん ぞ

⇒ 祖先  
そ せん

魂 <soul>  
たましい

供える [～を] <to offer>  
そな

祭る [～を] <to worship>  
まつ

⇒ 祭り  
まつ

## 【P61】

前年 <previous year>  
ぜんねん

新盆 <Niibon; first Bon>  
にいぼん

盛大に <magnificently>  
せいだい

⇒ 盛大 (な)  
せいだい

ふたたび <again>

⇒ もう一度  
いちど

○ もう一度言ってください。  
いちど い

× ふたたび言ってください。  
い

草 <grass, straw>  
くさ

精霊流し <Shōryōnagashi; floating a wooden or straw boat for one's ancestors' spirits>  
しやうりやうなが

地方 <district, area>  
ち ほう

慰める [～を] <to comfort>  
なぐさ

盆踊り <Bon folk dance>  
ぼんおど

都会生活 <urban life>  
と かいせいかつ

郷里 <home town>  
きやう り

交通機関 <transport>  
こうつう き かん

航空機 <airplane>  
こうくう き

超満員 <overcrowded>  
ちやうまんいん

超～、超特急、超音速  
ちやう ちやうとつぎやう ちやうおんそく

逆に <contrariwise>  
さか



緩和する [～を] <to ease, to relieve>  
かん わ

宗教的 (な) <religious>  
しゅうきょうてき

親戚 <relative>  
しんせき

友人 <friend>  
ゆうじん

旧交をあたためる <to renew an old  
friendship>  
きゅうこう

精神生活 <spiritual life>  
せいしんせいかつ

果たす [～を] <to carry out>  
は

責任を果たす。  
せきにん は

役割を果たす。  
やくわり は

## 【P62】

終戦記念日 <War-End Memorial Day>  
しゅうせん きねんび

連合国 <Allied Powers>  
れんごうこく

無条件降伏 <unconditional surrender>  
むじょうけんこうふく

催し <meeting, gathering>  
もよお

⇒ 催す (P72)  
もよお

マスメディア <mass media>

悲惨 (な) <tragic, terrible>  
ひさん

状況 <situation, circumstance>  
じょうきよう

記事 <article, news story>  
きじ

回想 (する) [～を] <recollection, to  
recollect>  
かいそう

報道する [～を] <to report>  
ほうどう

慰霊祭 <memorial service>  
いれいさい

原子爆弾 <atomic bomb>  
げんしばくだん

投下する [～を] <to drop>  
とうか

しのぶ [～を] <to recall, to recollect>

祈る [～を] <to wish, to pray>  
いの

平和を祈る。  
へいわ いの

成功を祈る。  
せいこう いの

無事に帰ってくるように祈る。  
ぶじ かえ いの

無事に帰ってくることを祈る。  
ぶじ かえ いの

核戦争 <nuclear war>  
かくせんそう

集会 <meeting, assembly>  
しゅうかい

反戦反核 <anti-war and anti-nuclear>  
はんせんはんかく

新たに作る [～を] <to renew>  
あら

思いを新たに作る。  
おも あら

悲しみを新たに作る。  
かな あら

## 【P63】

世代 <generation>  
せだい

今日 <today>  
こんにち

⇒ 現在  
げんざい

⇒ 今日  
きょう

記憶 (する) <memory, to memorize>  
きおく

薄れる <to fade>  
うす

記述 (する) [～を] <description, to  
describe>  
きじつ

書き換える <to rewrite>  
かか

境にして <with something as a turning  
point>  
さかい

1945年を境にして日本は大きく変わった。  
ねん さかい にほん おお か

田中さんは結婚を境にして、酒を飲まなくな  
った。  
た なか けっこん さかい さけ の

大変革 <revolution>  
だいへんかく

遂げる [～を] <to accomplish, to  
attain>  
と

明らか (な) <clear, obvious>  
あき

国家主義的 (な) <nationalistic>  
こっか しゅぎ てき

立ち戻る [～に] <to return>  
た もど

想像 (する) <imagination, to imagine>  
そうぞう

## 【P64】

高校野球 <senior high school students  
baseball tournament>

相撲 <sumō>  
すもう

国技 <national sport>  
こくぎ

プレーする <to play>

⇒ エンジョイする、オーバーする、サー  
ビスする

アマチュア <amateur>

甲子園 <name of the stadium>  
こうしえん

高校野球大会 <All-Japan Senior High  
School Baseball Tournament>

国民の行事 <national event>  
こくみんできぎ

位置を占める <to hold a position>  
いちを

## 【P65】

選抜する [～を] <to select, to single  
out>

⇒ 選ぶ  
えら

球場 <baseball stadium>  
きゅうじょう

トーナメント <tournament>

優勝校 <school which won the first  
prize>

⇒ 優勝チーム、優勝者  
ゆうしょう チーム ゆうしょうしゃ

予選 <preliminary>  
よせん

勝ち抜く [～を] <to win through, to  
attain a full victory>

最終 <last, final>  
さいしゅう

全日本 <all-Japan>  
ぜん にほん

全～、全国、全世界、全校 (P16)  
ぜん ぜんこく ぜんせ ぜんこう

郷土チーム <team from the area of a  
hometown>

声援する [～を] <to cheer>  
せいえん

準決勝 <semi-final game>  
じゆんけつしやう

準～、準優勝、準急  
じゆん じゆんゆうしやう じゆんきゆう

決勝 <final game>  
けつしやう

熱狂する [～に] <to be extremely  
excited>

柔道 <jūdō>  
じゆうどう

剣道 <kendō>  
けんどう

空手 <karate>  
からて

サッカー <football, soccer>

ラグビー <Rugby>

西洋 <the West>  
せいよう

↔ 東洋  
とうよう

輸入する [～を] <to import>  
ゆにゅう

↔ 輸出する  
ゆしゅつ

参加人口 <the number of participants>  
さんかじんこう

⇒ ファン人口  
じんこう

購読者 <subscriber>  
こうどくしや

⇒ 買って読む人  
か よ ひと

各種 <various>  
かくしゆ

⇒ 各～、各国、各人、各社  
かく かくこく かくじん かくしゃ

## 【P67】

学期 <term, semester>  
がっき

到来 (する) <arrival, to arrive>  
とうらい

⇒ やってくる

イメージ <image>

数多い <many, numerous>  
かずおほ

↔ 数少ない  
かずすく

## 【P68】

台風 &lt;typhoon&gt;

たいふう

襲う [～を] &lt;to attack, to hit&gt;

おそ

稲 &lt;rice plant&gt;

いね

⇒ 米

こめ

関心事 &lt;matter of concern&gt;

かんしんじ

防災設備 &lt;disaster-prevention device&gt;

ぼうさいせつび

対策 &lt;measure, full preparation&gt;

たいさく

完備する &lt;to be well equipped&gt;

かんび

逆らう [～に] &lt;to go against&gt;

さか

⇒ 抵抗する

ていこう

宿る [～に] &lt;to lodge, to dwell&gt;

やど

無常感 &lt;sense of impermanence&gt;

むじょうかん

影響 (する) &lt;influence, to influence&gt;

えいきょう

受ける [～を] &lt;to receive&gt;

う

影響を受ける。

えいきょう う

命令を受ける。

めいれい う

試験を受ける。

しけん う

手でボールを受ける。

て う

底 &lt;bottom&gt;

そこ

猛威 &lt;rage, rampancy&gt;

もうい

抵抗する [～に] &lt;to resist&gt;

ていこう

⇒ 逆らう

さか

無力感 &lt;feeling of ineffectualness&gt;

むりよくかん

運命 &lt;fate&gt;

うんめい

天 &lt;heaven&gt;

てん

観ずる [～と] &lt;to regard&gt;

かん

心情 &lt;feeling&gt;

しんじょう

通じる [～に] &lt;to relate, to extend&gt;

つう

## 【P69】

家屋 &lt;house, building&gt;

かおく

もろい &lt;weak, breakable&gt;

⇒ 弱い

よわ

構造 &lt;structure, construction&gt;

こうぞう

人為 &lt;human work, human power&gt;

じんい

無力さ &lt;powerlessness&gt;

むりよく

諦観する &lt;to resign&gt;

ていかん

⇒ あきらめる

仮 (の) &lt;temporary&gt;

かり

住まい &lt;house, dwelling&gt;

す

水田耕作 &lt;cultivation of rice fields&gt;

すいでんこうさく

大量 (の) &lt;large quantity&gt;

たいりょう

もたらす &lt;to bring&gt;

慈愛 &lt;affection, kindness&gt;

じあい

格言 &lt;proverb, maxim&gt;

かくげん

待てば海路の日和あり &lt;Mateba kairo no

ま かいろ ひより

hiyori ari; Everything comes to him

who waits.&gt;

果報は寝て待て &lt;Kahō wa nete mate; Lie

かほう ね ま

in bed till meat falls in your

mouth.&gt;

恵み &lt;blessing&gt;

めぐ

英知 &lt;wisdom&gt;

えいち

## 【P70】

彼岸 &lt;equinoctial week&gt;

ひがん

秋分の日 &lt;Autumnal Equinox Day&gt;

しゅうぶん ひ

春分の日 &lt;Vernal Equinox Day&gt;

しゅんぶん ひ

仏教思想 &lt;Buddhist philosophy&gt;

ぶつぎょう し そう



岸 <shore, bank>  
かし

此岸 <this world, mortal world>  
し かん

現世 <this world, mortal world>  
げん せ

あの世 <the other world, immortal world>  
よ

指す [～を] <to mean, to refer>  
さ

このことばの指す意味は何か。  
さ い み なに

⇒ 指で西の方を指す。  
ゆび にし ほう さ

霊 <spirit, soul>  
れい

墓参り <visiting an ancestor's grave for prayer>  
はかまい

単なる <mere, only>  
ただ

⇒ ただの

### 【P71】

暑さ寒さも彼岸まで <Atsusa samusa mo higan made; Mild weather comes with the equinox.>  
あつ さむ ひ がん

変わり目 <change, turn>  
か

⇒ 分かれ目、境目  
わ め ぎかい め

柿 <persimmon>  
かき

栗 <chestnut>  
くり

芋 <potato>  
いも

松茸 <matsutake; mushroom>  
まつたけ

出回る <to appear on the market>  
でまわ

上る [～に] <to come up>  
のぼ

話題に上る。  
わ たい のぼ

うわさに上る。  
のぼ

紅葉 <tinted autumnal leaves, autumn colours>  
もみじ

日々 <day by day>  
ひ び

⇒ 日ごとに  
ひ

南下する <to go south (down)>  
なん かく

⇔ 北上する  
ほく じやう

### 【P72】

好天気 <good weather>  
こうてん き

⇔ 悪天候  
あくてんこう

行楽 <outing, picnic>  
こうらく

秋祭り <autumn festival>  
あきまつ

運動会 <athletic meet>  
うんどうかい

催す <to hold>  
もよお

⇒ 催し (P 62)  
もよお

ゲーム <game>

紅白 <red and white teams>  
こうはく

勝負 <game, victory or defeat>  
しょうぶ

争う [～を～と] <to compete>  
あそ

⇒ 競争する  
きやうそう

### 【P73】

団結 (する) <union, to unite>  
だんけつ

体育の日 <Health and Sports Day>  
たいいく ひ

東京オリンピック <Tokyo Olympics>  
とうきやう

開会 (する) [～を] <opening a meeting, to open a meeting>  
かいかい

⇔ 閉会 (する)  
へいかい

増加する <to increase>  
ぞうか

⇔ 減少する  
げんしょう

⇒ 増える ⇔ 減る  
ふへ

健康 <good health>  
けんこう

～にともなう <accompanied with>

社交 <association>  
しやこう

ファッション <fashion>

【P74】

収穫 (する) [～を] <harvest, to  
しゅうかく  
harvest>

農耕儀礼 <agricultural ritual>  
のうこうぎれい

いたるところ <everywhere>

集中する <to be packed into>  
しゅうちゅう

食料自給率 <self-sufficiency rate in  
しょくりょうじきゅうりつ  
food>

年々 <year by year>  
ねんねん

⇒ 年ごとに  
とし

食生活 <eating habit>  
しょくせいかつ

米食 <rice-based diet>  
べいしよく

パン食 <diet based on bread>  
しよく

耕地面積 <cultivated area>  
こうちめんせき

遺伝子工学 <genetic engineering>  
いでんしこうがく

⇒ バイオテクノロジー、バイオ

高度技術 <advanced technology>  
こうどぎじゆつ

多種多様 (な) <various>  
たしゆたよう

集約性 <intensiveness>  
しゅうやくせい

生み出す [～を] <to produce, to bring  
うだ  
forth>

【P75】

昔ながらに <as it was before>  
むかし

⇒ 昔ながらの  
むかし

親族 <relative, kinsfolk>  
しんぞく

共にする [～を] <to do together, to  
とも  
share something>

失われる <to be lost>  
うしな

⇒ 失う  
うしな

人口統計 <vital statistics>  
じんこうとうけい

農業国 <agricultural country>  
のうぎょうこく

⇒ 工業国  
こうぎょうこく

面影 <trace, image>  
おもかげ

【P76】

文化の日 <Culture Day>  
ぶんかひ

晩秋 <late autumn>  
ばんしゅう

⇒ 秋の終わり  
あきお

↔ 初秋  
しよしゅう

灯火親しむ候 <tōka shitashimu kō; right  
とうかしたこう  
season for reading>

読書 <reading>  
どくしよ

芸術鑑賞 <art appreciation>  
げいじゆつかんしょう

公布 (する) <promulgation, to  
こうふ  
promulgate>

平等 <equality>  
ひょうどう

すすめる [～を] <to promote>

【P77】

明治維新 <Meiji Restoration>  
めいじいしん

富国強兵 <wealth and military strength  
ふこくきやうへい  
of a nation>

国是 <national policy>  
こくぜ

発展する <to develop>  
はってん

国家 <country, nation>  
こっか

建設 (する) <construction, to  
けんせつ  
construct>

理想 <ideal>  
りそう

掲げる [～を] <to hold up>  
かか

変身する <to transform>  
へんしん

各都道府県 <each metropolis, Hokkaido  
or prefecture>  
かくと どう ふ けん

選手団 <team>  
せんしゆだん

派遣する [～を] <to send, to dispatch>  
は けん

国民体育大会 <National Athletic Meet>  
こくみんたいいくたいかい

演劇 <play, drama>  
えんげき

美術 <art>  
び じゆつ

優秀者 <excellent people>  
ゆうしゆうしや

芸術祭 <art festival>  
げいじゆつさい

食卓 <dining table>  
しょくたく

色づく <to change colour>  
いろ

顔色 <complexion>  
かおいろ

蒼くなる <to turn pale>  
あお

言い伝え <adage, legend, tradition>  
い つた

健康的 (な) <healthy>  
けんこうてき

病人 <patient, sick person>  
びやうにん

## 【P78】

見合い結婚 <arranged marriage>  
み あい けっこん

⇒ 恋愛結婚  
れんあいけっこん

配偶者 <spouse>  
はいぐうしや

恋愛結婚 <love marriage>  
れんあいけっこん

披露宴 <wedding reception>  
ひ ろうえん

仲人 <matchmaker, go-between>  
なこうど

両者 <both parties>  
りやうしや

⇒ 両方  
りやうほう

引き合わせる [～を] <to introduce>  
ひ あ

⇒ 紹介する  
しょうかい

形式 <style>  
けいしき

太陰暦 <lunar calendar>  
たいいんれき

⇒ 太陽暦  
たいようれき

良し悪し <good or bad>  
よ あ

キリスト教 <Christianity>  
きりすと

教会 <church>  
きやうかい

挙式 <wedding ceremony>  
きよしき

## 【P79】

巨額 (の) <huge sum>  
きやうがく

費用 <expenses, cost>  
ひ よう

来会者 <guest>  
らいかいしや

酒食 <food and drink>  
しゆしょく

供する [～に～を] <to serve>  
きやう

新郎 <bridegroom>  
しんろう

新婦 <bride>  
しんぶ

中座する <to leave a room in the middle  
of a party>  
ちゆうざ

衣装 <costume>  
いしやう

お色なおし <bride's change of costume  
during a wedding party>  
いろ

しきたり <custom>

⇒ 慣習 (P37)  
かんしゆ

結婚年齢 <marriage age>  
けっこんねんれい

姉妹 <sisters>  
しまい

範囲 <range>  
はんい

はるかに <by far>

⇒ ずっと

要素 <element, factor>  
ようそ

色濃く <strongly>  
いろこ



カップル <couple>

西洋式 <western style>

せいようしき

⇒ 洋式  
ようしき

新婚旅行 <honeymoon>

しんこんりょこう

## 【P80】

貸借 <accounts>

たいしやく

⇒ 貸し借り  
か か

清算 (する) [～を] <clearing one's debt,

せいさん

to clear>

大掃除 <thorough cleaning>

おおそうじ

あわただしい <busy, bustling>

⇒ 忙しい  
いそが

○ 年末はあわただしい。

○ 年末は忙しい。

× 会社の仕事があわただしい。

○ 会社の仕事が忙しい。

贈答 <exchange of presents>

ぞうとう

忘年会 <Bōnenkai; a year-end party to

ぼうねんかい

reflect on the past year and forget

any unpleasant memories>

官庁 <government office>

かんちょう

⇒ 官公庁 (P52)  
かんこうちょう

温泉 <hot spring>

おんせん

観光地 <tourist resort>

かんこうち

料亭 <Japanese-style restaurant>

りょうてい

会場 <place of meeting>

かいじょう

大にぎわい <very crowded>

おお

## 【P81】

さらに <moreover, besides>

仕事上の問題があります。さらに、家族上

しごとじょう もんだい

の問題もあります。

もんだい

タンさんの日本語は前よりもさらにうまく

にほんご まえ

なった。

販売 (する) <sale, to sell>

はんばい

対応する (～に) <to cope with, to deal

たいおう

with>

季節の変化に対応する。

きせつ へんか たいおう

個人 <individual>

こじん

先輩 <senior, superior>

せんぱい

↔ 後輩  
こうはい

⇒ 同僚 (P29)

どうりょう

一定 (の) <fixed>

いってい

投函する [～を] <to post>

とうかん

励む [～に] <to work hard, to strive>

はげ

見かける [～を] <to catch a sight of>

み

○ 今朝リンさんを見かけました。

○ 今朝リンさんを見ました。

○ リンさんを見てください。

× リンさんを見かけてください。

## 【P82】

クリスマス <Christmas>

加わる [～に] <to be added>

くわ

⇒ 加える [～に～を]

くわ

クリスチャン <Christian>

クリスマスキャロル <Christmas carol>

サンタクロース <Santa Claus>

ショーウィンドー <show window>

飾り <decoration>

かざ

天皇誕生日 <Emperor's Birthday>

てんのうたんじゅうび

持ち合わせ &lt;things on hand&gt;

つけ &lt;credit account&gt;

たまる &lt;to accumulate&gt;

⇒ 貯める (P57)

大晦日 &lt;New Year's Eve&gt;

税金 &lt;tax&gt;

収入 &lt;income&gt;

↔ 支出 (P34)

サイクル &lt;cycle&gt;

一巡する &lt;to roll around&gt;

## 【P83】

御用納め &lt;last business of the year&gt;

餅 &lt;mochi; rice cake&gt;

## 【P85】

NHK <Nippon Hōsō Kyōkai; Japan  
Broadcasting Corporation>

⇒ 日本放送協会

紅白歌合戦 &lt;Kōhakuutagassen;

Red-versus-White Song Contest&gt;

年始 &lt;New Year&gt;

↔ 年末

空港 &lt;airport&gt;

国際線 &lt;international flight&gt;

↔ 国内線

極める [～を] &lt;to go to extremes&gt;

都会 &lt;city&gt;

期待 (する) &lt;expectation, to expect&gt;

寺々 &lt;temples&gt;

除夜の鐘 &lt;Joya no kane; temple bell

ringing just before midnight on New  
Year's Eve>

打ち鳴らす [～を] &lt;to ring&gt;

神社 &lt;shrine&gt;

初もうで <first New Year's visit to a  
shrine or a temple>年越しそば <buckwheat noodles eaten on  
New Year's Eve>

## 【P86】

古代 &lt;ancient times&gt;

⇒ 近代、現代

日没 &lt;sunset&gt;

↔ 日の出

クリスマスイブ &lt;Christmas Eve&gt;

聖書 &lt;Bible&gt;

古来 &lt;ancient times&gt;

心理効果 &lt;psychological effect&gt;

ベートーベン &lt;Beethoven&gt;

第九交響曲 &lt;Symphony No.9&gt;

「合唱」 <Gasshō; the Choral  
Symphony>演奏する [～を] <to play (a musical  
instrument)>

## 【P87】

明ける <to begin, to break, to be  
over>

年が明ける。

夜が明ける。

がらりと <completely, suddenly>

内容ないようがかがらりと変わる。

生活せいかつをがらりと変える。

年齢 <age>  
ねんれい

加算する [～を] <to add>  
かさん

⇒ 加える  
くわ

正月気分 <New Year's holiday spirit>  
しょうがつ きぶん

満ちる <to be full>  
み

### 【P88】

年始回り <round of New Year's visits to  
relatives or superiors>  
ねんし まわ

産土 <Ubusuna; tutelary deity (guardian  
god)>  
うぶすな

信仰 <faith, belief, religion>  
しんこう

平安 <peace>  
へいあん

繁盛 (する) <prosperity, to prosper>  
はんじょう

店みせが繁盛はんじょうする。

神宮 <shrine named *jingū*>  
じんぐう

参詣する [～に] <to visit a shrine or a  
temple>  
さんけい

和服 <Japanese clothes>  
わふく

↔ 洋服  
ようふく

家々 <each home>  
いえいえ

雑煮 <*zōni*; soup with rice cakes,  
vegetables and so on eaten on New  
Year's Day>  
ぞうに

他の <other, another>  
た

⇒ ほかの

お節料理 <traditional dishes specially  
prepared>  
せちりょうり

cooked for the New Year season>

### 【P89】

ハレ <*hare*; formal occasion>

ケ <*ke*; ordinary occasion>

礼儀正しい <polite, courteous>  
れいぎただ

態度 <attitude>  
たいど

祖父母 <grandparents>  
そふぼ

⇒ 祖父、祖母  
そふ そぼ

お年玉 <New Year's gift>  
としだま

もともと <originally>

近年 <nowadays>  
きんねん

⇒ 最近  
さいきん

現金 <cash>  
げんきん

### 【P90】

取引 <transaction>  
とりひき

世俗的 (な) <common, worldly>  
せぞくてき

上司 <superior at work>  
じょうし

↔ 部下  
ぶか

エチケット <etiquette>

### 【P91】

元日 <New Year's Day>  
がんじつ

普段 (の) <ordinary>  
ふだん

通信文 <correspondence, written  
message>  
つうしんぶん

便り <letter, news>  
たよ

そういうふうに <in such a way>

⇒ そんなふうに、そのように



⇒ こういうふう、ああいうふう

御用始め <first working day of a year>  
ごようはじ⇔ 御用納め (P83)  
ごようおさお互いどうし <each other>  
たが～どうし、友だちどうし、男どうし  
とも おとこ乾杯 <toast>  
かんぱい年賀の会 <New Year party>  
ねん が かい晴着 <best clothes>  
はれ ぎ普段着 <ordinary clothes>  
ふ だん ぎ区別 <distinction>  
く べつ

## 【P92】

成人の日 <Coming-of-Age Day>  
せいじん ひ市町村 <cities, towns and villages>  
し ちょうそん⇒ 都道府県 (P77)  
と どう ふ けん自治体 <municipal corporation>  
じ ち たい成年 <adult age>  
せいねん男女 <men and women>  
だん じょ祝賀式 <celebration>  
しゅく が しき

## 【P93】

選挙権 <right to vote>  
せんきょけん法的に <legally>  
ほうてき⇒ 法的 (な)  
ほうてき飲酒 <drinking alcohol>  
いんしゅ許す <to permit>  
ゆる承諾 (する) [～を] <consent, agreement, to consent, to agree>  
しょうだく犯罪 <crime>  
はんざい犯す [～を] <to commit>  
おか少年犯 <juvenile delinquent>  
しょうねんはん処罰する [～を] <to punish>  
しよばつ⇒ 罰する  
ばつ扱う [～を] <to treat>  
あつか大人として扱う。  
おと な あつか客として扱う。  
きやく あつか⇒ この時計は大切に扱ってください。  
と けい たいせつ あつか⇒ この品物はわたくしどもの店では扱って  
しなもの みせ あつか  
ておりません。物質的生活 <material life>  
ぶつしつてきせいかつ

かつての &lt;former&gt;

勤勉 <diligence>  
きんべん⇒ 勤勉 (な)  
きんべん節約 (する) <economy, to economize>  
せつやく忍耐 <patience>  
にんたい美德 <virtue>  
び とく政治的に <politically>  
せい じ てき⇒ 政治的 (な)  
せい じ てき無関心 (な) <apathy, indifferent>  
む かんしん自己中心的に <self-centredly>  
じ こ ちゅうしんてき⇒ 自己中心的 (な)  
じ こ ちゅうしんてき批判 (する) [～を] <criticism, to criticize>  
ひ はん批判される、批判を受ける  
ひ はん ひ はん う反動 <reaction>  
はんどう

エンジョイする &lt;to enjoy&gt;

⇒ 楽しむ  
たの

## 【P95】

暦 <calendar>  
こよみ暦の上ではもう春だ。  
こよみ うえ はる

⇒ カレンダー

節分 <Setsubun; the day before the  
calendrial beginning of spring>

二八のブタ <Nippachi no Buta; Business  
diminishes in February and August.>

低調 (な) <inactive, dull>

### 【P96】

入学試験 <entrance examination>  
⇒ 入試 (P97)

階級意識 <class-consciousness>

人種 <race>

家系 <family, lineage>

差別 (する) [～を] <discrimination, to  
discriminate>

出世 (する) <promotion, to be  
promoted>

左右する <to influence, to decide>

進学率 <percentage of students going  
onto higher education>

幼稚園 <kindergarten>

### 【P97】

学習塾 <cram school>

希望大学 <university of one's choice>

浪人 (する) <rōnin; student who failed  
to enter university and decided to  
prepare for another chance to enter  
one the following year>

名門校 <prestigious school>

率 <rate, percentage>

⇒ 乗車率 (P14)

評価する [～を] <to evaluate>

しばしば <often>

受験地 <place where an applicant takes  
an entrance examination>

入試 <entrance examination>

⇒ 入学試験 (P96)

宿泊する [～に] <to stay at>

親子 <parent and child>

### 【P98】

日本海 <Nihonkai; Japan Sea>

面する [～に] <to face>

わたしの家は川に面している。

豪雪地帯 <area of heavy snowfall>

まひする <to stop, to be paralyzed>

興ずる [～に] <to enjoy>

大挙して <in crowds, in great  
numbers>

大挙して出かける。

雪だるま <snowman>

かまぐら <snow hut>

北国 <northern region>

↔ 南国

雪見 <snow-viewing>

宴会 <party>

### 【P99】

所得税 <income tax>

確定申告 <final income tax return>

締切 <deadline, closing>

申し込みの締切は3月30日です。

一種 (の) <a kind of>

いっしゆ

年末気分 <year-end mood>

ねんまつ きぶん

～気分、正月気分 (P87)、お祭り気分

きぶん

しょうがつ きぶん

まつ

きぶん

漂う <to be in the air, to drift>

ただよ

いいかおりが漂っている。

ただよ

⇒ 船が漂っている。

ふね

ただよ

### 【P100】

卒業式 <graduation ceremony>

そつぎょうしき

スコットランド民謡 <Scottish folk song>

みんよう

メロディー <tune>

蛍の光 <Hotaru no Hikari; Auld Lang

ほたる ひかり

Syne>

社会人 <member of society>

しゃかいじん

儀式 <ceremony>

ぎしき

### 【P101】

人事異動 <staff transfer>

じんじいどう

異動 (する) <transfer, to transfer>

いどう

⇒ 移動

いどう

昇進 (する) <promotion, to be

しょうしん

promoted>

転勤 (する) [～に] <transfer, to

てんきん

transfer>

赴任する [～に] <to leave for one's new

ふにん

post>

社宅 <company residence, company

しゃたく

housing>

官舎 <civil servants' residence>

かんしゃ

未婚者 <unmarried person>

みこんしゃ

独身寮 <dormitory for unmarried

どくしんりょう

persons>

家族持ち <married person>

かぞくもち

低額 <low cost>

ていがく

↔ 高額

こうがく

家賃 <house rent>

やちん

通勤用 <for commuting to work>

つうきんよう

定期券 <season ticket, commuter

ていきけん

ticket>

施設 <facility>

しせつ

福利厚生 <welfare>

ふくりこうせい

格段に <by far>

かくだん

⇒ ずっと、はるかに (P79)

現物給与方式 <system of payment in

げんぶつぎゅう よほうしき

kind>

忠誠心 <sense of loyalty>

ちゅうせいしん

⇒ 忠誠

ちゅうせい

維持する <to maintain, to preserve>

いじ

### 【P103】

一生 <life>

いっしゅう

千差万別 <infinite variety>

せんさばんべつ

最大公約数 <the greatest common

さいだいこうやくすう

divisor>

↔ 最小公倍数

さいしょうこうばいすう

### 【P104】

家庭内教育 <education at home>

かていないきょういく

ベビーシッター <babysitter>

外出する <to go out>

がいしゅつ

レクリエーション <recreation>

布団 <futon, traditional Japanese bed>

ふとん



敷く [～を] <to lay>

真中 <the middle>

↔ 端  
はし

いわゆる <what is called, the so-called>

幼児 <small child>

甘やかす [～を] <to spoil>

親が子供を甘やかす。

⇒ 子供が親に甘える。

### 【P105】

しつけ <discipline, training>

保育園 <nursery school>

付き添う [～に] <to accompany>

場面 <scene>

PTA <Parent-Teacher Association>

会合 <meeting>

学力 <scholastic ability>

向上する <to improve, to raise>

品質が向上する。

サービスが向上する。

熱中する [～に] <to become enthusiastic over>

### 【P106】

学歴偏重社会 <society too concerned with qualification>

最終学歴 <last place of education>

経歴 <career>

務め <duty>

親としての務め

⇒ 親としての義務

会社の勤め

⇒ 会社の勤務

教育制度 <educational system>

義務教育 <compulsory education>

競争率 <competitive rate>

### 【P107】

希望 (する) [～を] <hope, to hope>

週刊誌 <weekly magazine>

出身高校 <senior high school which one graduated from>

掲載する [～を] <to print, to carry>

ベストテン <best ten>

あおり立てる <to stir up, to inflame>

～を経て <through>

⇒ ホンコンを経てバンコクへ行く。

もっぱら <exclusively, only>

精を出す [～に] <to work hard, to exert oneself in>

だが <however>

⇒ しかし

資金稼ぎ <earning money, raising funds>

### 【P108】

人生行路 <path of one's life, one's course in life>

きわめて <extremely>

⇒ 非常に、たいへん

書店 <bookshop>

参考書 <reference book>

積む <to pile up>  
つ

面接 <interview>  
めんせつ

リクルートファッション <clothes for a  
job interview>

男女雇用機会均等法 <Equal Employment  
Opportunity Law>  
だんじょ こよう きかいきんとうほう

地位 <position>  
ちい

高級管理職 <high managerial position>  
こうきゅうかん りしよ

### 【P110】

企業社会 <business world>  
きぎょうしゃかい

日本の経営 <Japanese-style  
management>  
にほんてきけいえい

特質 <characteristic>  
とくしつ

刑法上 <criminal>  
けいほうじょう

～上、教育上、法律上、会計上  
じょう きょういくじょう ほうりつじょう かいけいじょう

罪 <crime>  
つみ

解雇する <to discharge, to fire>  
かいこ

能力 <ability>  
のうりょく

比較的 <comparatively>  
ひかくてき

定年 <retirement age, age limit>  
ていねん

不況 <depression, recession>  
ふきよう

経営 <management>  
けいえい

困難 (な) <difficult, hard>  
こんなん

⇒ 難しい  
むずか

○ この問題を解決するのは困難です。  
もんだい かいけつ こんなん

○ この問題を解決するのは難しいです。  
もんだい かいけつ むずか

× 日本語は困難です。  
にほんご こんなん

○ 日本語は難しいです。  
にほんご むずか

報酬 <pay, salary>  
ほうしゅう

カットする <to cut off>

レイオフ (する) [～を] <layoff, to lay  
off>

企業内労組 <company's own labour  
union>  
きぎょうないろうそ

経営側 <management side>  
けいえいがわ

協調する [～と] <to cooperate>  
きようちよう

⇒ 協力する  
きようりよく

切りぬける [～を] <to get out of>  
き

倒産 (する) <bankruptcy, to go  
bankrupt>  
とうさん

再就職先 <company where one has found  
new employment>  
さいしゅうしよき

再～、再出発、再教育、再放送  
さい さいしゅつぱつ さいきょういく さいほうそう

必死に <desperately>  
ひっし

必死にかんばった。  
ひっし

帰属意識 <sense of belonging>  
きぞくいしき

大手企業 <large company>  
おおて きぎょう

⇔ 中小企業 (P39)  
ちゅうしゅう きぎょう

⇒ 大企業 (P40)  
だい きぎょう

分離する [～と] <to separate>  
ぶんり

家族主義的 (な) <paternalistic>  
かぞくしゆぎてき

強める [～を] <to strengthen>  
つよ

⇒ 強まる (P118)、高める→高まる  
つよ たか たか

役割 <role>  
やくわり

### 【P111】

初出社 <going to the office for the first  
time>  
はつしゅつしゃ

初～、初優勝、初体験  
はつ はつゆうしょう はつたいけん

定期採用 <regular employment>  
てい きさいよう

⇒ 中途採用  
ちゅうと さいよう

就業規則 <work regulations>  
しゅうぎょう き せう

中途入社 <joining a company in  
ちゅうと にゅうしゃ  
mid-career>

心得 <knowledge, preparedness>  
こころ え

マナー <manner>

教えこむ [～を] <to teach, to  
おし  
inculcate>

人材育成 <talent development>  
じんざい いく せい

企業内訓練 <training in a company>  
き ぎやうないくんれん

技術研修施設 <technical training  
ぎ じゆつけんしゅう し せつ  
facility>

長期 <long-term>  
ちよう き

↔ 短期  
たん き

配置転換 <transfer>  
はい ち てんかん

体験 (する) [～を] <experience, to  
たいけん  
experience>

管理職 <managerial position>  
かん り しょく

⇒ 高級管理職 (P108)  
こうきゅうかん り しょく

ねらい <aim>

## 【P112】

人材 <man of talent>  
じんざい

登用する [～を] <to appoint, to assign>  
とうよう

常時 <always>  
じょう じ

⇒ 常に  
つね

雇用者 <employer>  
こようしゃ

労働基準監督署 <Labour Standards  
らうどう き じゆんかんとくしよ  
Inspection Office>

届け出る [～を] <to submit notice>  
とど け

義務 <compulsory, obligation>  
ぎ む

⇒ 義務教育  
ぎ む きやういく

安全衛生 <safety and hygiene>  
あんぜん えいせい

規律 <rule>  
き りつ

雇用契約 <employment contract>  
こ いうけいやく

労働基準法 <Labour Standards Law>  
らうどう き じゆんぽう

部分 <part>  
ぶ ぶん

無効 <invalidation>  
む こう

↔ 有効  
ゆうこう

適用する <to apply to>  
てきよう

## 【P113】

昇給 (する) <rise in salary, to get a  
しやうきゅう  
rise in one's salary>

↔ 減給 (する)  
げんきゅう

企業内福祉 <welfare in a company>  
き ぎやうないふく し

年功序列制 <seniority system>  
ねん こう じやれつせい

昇格 (する) <raising of status, to be  
しやうかく  
promoted to a higher status>

勤務年数 <length of one's service>  
きん む ねんすう

功績 <contribution, distinguished  
こうせき  
service>

差 <difference>  
さ

優秀 (な) <excellent>  
ゆうしゆう

抜てきする [～を] <to select, to single  
ばっ  
out>

上位職 <higher position>  
じやう い しょく

住宅融資 <housing loan>  
じゅうたくゆう し

企業年金 <company pension>  
き ぎやうねんきん

生活設計 <life planning>  
せいかつせつけい

援助する [～を] <to help, to assist>  
えんじよ

保養所 <resort house>  
ほ いうじよ



国鉄 <Japan National Railways (JNR)>  
こくてつ

⇒ JR

国鉄一家 <JNR Family>  
こくてついつか

疑似家族 <pseudo-family>  
ぎじかぞく

### [P114]

ベア交渉 <bargaining for the basic wage rate>  
こうしょう

職務 <job>  
しよくむ

能力給的 (な) <ability-related salary system>  
のうりよくきゅうてき

勤続年数 <length of one's service>  
きんぞくねんすう

⇒ 勤務年数  
きんむねんすう

生活保障的 (な) <to guarantee a living>  
せいひかつほしょうてき

半々 <fifty-fifty>  
はんはん

賃上げ交渉 <bargaining for wage increase>  
ちんあこうしょう

### [P115]

相手に <with ~ as a partner>  
あいて

子供相手におもちゃを売る。  
こどもあいて

100名の学生を相手に話をする。  
めい がくせい あいて はなし

ベースアップ <increase of the basic wage rate>

⇒ ベア

マスコミ <mass media>

労使間 <between management and labour>  
ろうしかん

闘争 <struggle, fight>  
とうそう

最大 (の) <the greatest>  
さいだい

活動 <activity>  
かつどう

賃金引き上げ交渉 <wage bargaining>  
ちんぎんひあげこうしょう

⇒ 賃上げ交渉 (P114)  
ちんあこうしょう

組合大会 <national union meeting>  
くみあいたいかい

職場大会 <in-company meeting>  
しよくばいたいかい

吸いあげる [～を] <to pump up>  
す

ポンプで水を吸いあげる。  
みずす

みんなの意見を吸いあげる。  
いけんす

代表 <representative>  
だいひょう

臨む [～に] <to attend>  
のぞ

会議に臨む。  
かいぎのぞ

試合に臨む。  
しあいのぞ

### [P116]

意思決定 <decision making>  
いしけつてい

集団意思決定 <group decision making>  
しゅうだんいしけつてい

営業 <business activity, sales>  
えいぎょう

研究開発 <research and development>  
けんきゅうかいはつ

下位者 <lower-ranking person>  
か いしゃ

↔ 上位者  
じょういしゃ

現場 <spot, field>  
げんば

諮問 (する) <inquiry, consultation, to inquire>  
しもん

採決時 <at the time of decision>  
さいけつじ

政策的 (な) <concerning a policy>  
せいさくてき

役員会 <meeting of a board of directors>  
やくいんかい

問題解決 <problem solving>  
もんだいかいけつ

品質 <quality>  
ひんしつ

職場環境 <working environment>  
しよくばかんきょう

小集団 <small group>  
しょうしゅうだん

討議 (する) <discussion, to discuss>  
とうぎ

上部 <management>  
じょうぶ

【P117】

QC <quality control>

品質管理 <quality control>  
ひんしつかんり

開発する <to develop>  
かいはつ

QCC <Quality Control Circles>

【P118】

医療 <medical treatment>  
いりょう

定年退職 <retirement at the fixed age>  
ていねんたいしよく

官僚 <bureaucrat>  
かんりょう

関連 (の) <connection, related>  
かんれん

天下り <amakudari; practice of a former  
あまくだ  
bureaucrat acquiring a responsible  
position in a private company or an  
organization and so on after  
retirement>

高齢化社会 <aging society>  
こうれいかしゃかい

ますます <more and more, less and  
less>

強まる <to become strong>  
つよ

⇒ 強める (P110)  
つよ

【P119】

国民健康保険 <national health  
こくみんけんこうほけん  
insurance>

共済組合 <mutual aid association>  
きょうさいくみあい

いずれかの <any one>

⇒ どれかひとつの

加入する [～に] <to join>  
かにゅう

年金業務 <pension business>  
ねんきんぎょうむ

核家族社会 <nuclear family society>  
かくかぞくしゃかい

老後 <one's old age, one's declining  
らうご  
years>

老人問題 <problem of aging>  
らうじんもんだい

おそらく <probably>

⇒ たぶん

高齢者 <old people>  
こうれいしゃ

社会保障制度 <social security system>  
しゃかいほしょうせいど

検討する [～を] <to examine, to study>  
けんとう

語 法 用 例  
ご ほう よう れい

略 号  
りゃく ごう  
Symbols Used

P 本文のページを示す。  
ほんぶん しめ

P : the page number

l 本文の第何行目かを示す。  
ほんぶん だいなんぎょう め しめ

l : the line number

⇒ 比較・参照せよ。  
ひ かく さんしやう

⇒ : compare/refer to the indicated  
words, phrases or sentences

= 同義  
どう ぎ

= : same meaning

○ 正  
せい

○ : correct usage

× 誤  
ご

× : wrong usage



1. 佐藤さんはご飯に味噌汁と野菜の煮しめ、漬物といった和食を  
さ とう はん み そ しる や さい に つけもの わ しょく  
 食べる。(P13 / 2)  
た

- (1) 朝食はトーストにミルクで十分だ。  
ちようしょく じゆうぶん  
 (2) 魚には日本酒、肉にはワインがいいですね。  
さかな に ほんしゅ にく  
 (3) 富士山に夕日はよくある写真です。  
ふ じ さん ゆう ひ しゃしん  
 (4) 明日は日本語の文法に会話、それに漢字の試験がある。  
あした に ほん ご ぶんぽう かい わ かん じ し けん  
 (5) 「弁当にお茶、コーヒーにサンドイッチはいかがですか。」  
べんとう ちゃ

2. 佐藤さんはご飯に味噌汁と野菜の煮しめ、漬物といった和食を  
さ とう はん み そ しる や さい に つけもの わ しょく  
 食べる。(P13 / 3)  
た

- (1) 子供たちは目玉焼きにハムやサラダといった洋食のメニュー  
こ ども め だま や しょうしょく  
 だ。(P13 / 4)  
 (2) この大学にはフィリピン、マレーシア、インドネシアとい  
だいがく  
 った東南アジアからの留学生が多い。  
とうなん りゅうがくせい おお  
 (3) 料理の講習や英会話や古典の講読といった教養コースなど、  
りょう り こうしゅう えい かい わ こ ぜん こうどく ぎようよう  
 何十という種類のコースがある。(P23 / 5)  
なんじゅう しゅるい  
 (4) ビデオやエアコンといったものに対する大型支出は、ボー  
たい おおがた し しゅつ  
 ナス月に予定される。(P52 / 9)  
づき よてい  
 (5) 社交やファッションといった面を重視する傾向が強くなっ  
しゃこう めん じゅう し けいこう つよ  
 てきている。(P73 / 9)

⇒ ～という

× この大学にはフィリピン、マレーシア、インドネシア  
だいがく  
 という東南アジアからの留学生が多い。  
とうなん りゅうがくせい おお

○ 雪国という小説はだれが書きましたか。  
ゆきぐに しょうせつ か

× 雪国といった小説はだれが書きましたか。  
ゆきぐに しょうせつ か

○ 1か月7万円という給料では生活できない。  
げつ まんえん きゅうりょう せいかつ

○ 1か月7万円といった給料では生活できない。  
げつ まんえん きゅうりょう せいかつ

3. 飲むものも、佐藤さんは日本茶で子供たちはジュースと違って  
の さとう にほんちゃ こども ちが  
 いる。(P13 / 5)

- (1) 今日はすきやきにてんぷらにさしみとすごいごちそうだ。  
きょう
- (2) 信号は赤青黄と変わる。  
しんごう あかあお き か
- (3) この10年間、アメリカ、フランス、ドイツと海外で暮らし  
ねんかん かいがい  
 た。
- (4) 給料が安いので、ひとりふたり3人と会社をやめていった。  
きゅうりょう やす にん かいしゃ
- ⇒ このワープロは操作のしかたがわたしのと違っている。  
そうさ ちが

4. 和食より準備に手間のかからない洋食の方が多い。(P13 / 6)  
わしょく じゅんび てま ようしょく ほう おお

- (1) 先週は雨の降らない日はなかった。  
せんしゅう あめ ふ ひ
- (2) この文章には意味のよくわからないところがあります。  
ぶんしょう い み
- (3) あそこに立っている背の高い人はだれですか。  
た せ たか ひと
- (4) わたしの読みたい本はぜんぜんない。  
よ ほん
- (5) 彼の書いた字は読みにくい。  
かれ か じ よ

⇒ あなたのペンで書いた字はすぐわかります。 →  
か じ

? あなたのペン

? あなたが書いた  
か

⇒ あなたがペンで書いた字はすぐわかります。  
か じ

5. 天気予報を見るのも日課になっている。(P13 / 8)  
てん き よほう み にっ か

- (1) 昔、あそこはさびしい村だったが、今は大きな町になって  
むかし むら いま おお まち  
 いる。
- (2) 住宅ローンの返済は月々の支出の中でいちばん大きな支出  
じゅうたく へんさい つきづき し しゅつ なか おお し しゅつ  
 になっている。(P34 / 4)
- (3) ボーナスシーズンの6・7月と12月が特別な月となってい  
ろく しちがつ じゅうがつ とくべつ つき  
 る。(P52 / 8)
- (4) 9月23日は秋分の日で、3月21日の春分の日とともに祝日  
く がつ にち しゅうぶん ひ さんがつ にち しゅんぶん ひ しゅくじつ

になっている。(P70 / 2)

- (5) 「バッグやかばんの売場は5階の東側になっております」  
うりば かい ひがしがわ

6. ときには新聞といっしょに入る折込広告のうち、デパートや近  
しんぶん はい おりこみこうこく きん  
 所のスーパーマーケットなどでのバーゲンセールのお知らせを丹  
じょ たん  
 念に読み、10時の開店時間を見計らって出かけることもある。  
ねん よ じ かいてん じ かん み はか で  
 (P15 / 4)

- (1) 兄弟8人のうち7人はもう結婚しています。  
きょうだい にん にん けっこん  
 (2) 給料のうちから毎月2万円ずつ貯金している。  
きゅうりょう まいつき まんえん ちよきん  
 (3) 東京大学、大阪大学、京都大学のうち、いちばん古いのは  
とうきょうだいがく おおさかだいがく きょうと だいがく ふる  
 どの大学ですか。  
だいがく

⇒ ～うちに

- 朝のうちに終わらないといけない。  
あさ お
- 暗くならないうちに帰ろう。  
くら かえ

7. ときには新聞といっしょに入る折込広告のうち、デパートや近  
しんぶん はい おりこみこうこく きん  
 所のスーパーマーケットなどでのバーゲンセールのお知らせを丹  
じょ たん  
 念に読み、10時の開店時間を見計らって出かけることもある。  
ねん よ じ かいてん じ かん み はか で  
 (P15 / 5)

- (1) あの交差点での事故が増えています。  
こうさてん じ こ ふ  
 (2) 佐藤さんの会社での一日は9時から始まる。(P17 / 2)  
さとう かいしゃ いちにち じ はじ  
 (3) この大学には東南アジアからの留学生がたくさんいます。  
だいがく とうなん りゅうがくせい  
 (4) そのことについては、田中さんとの話し合いで決めたいと  
た なか はな あ き  
 思います。  
おも

- (5) 朝食をとりながら新聞やテレビで昨日のできごとについて  
ちようしよく しんぶん きの う  
 の知識を仕入れる。(P13 / 8)  
ちしき し い

- (6) 先生への質問はありませんか。  
せんせい しつもん

⇒ ～への



- 空港へ到着するのが遅れた。  
くうこう    とうちやく    おく
- 空港に到着するのが遅れた。  
くうこう    とうちやく    おく
- 空港への到着が遅れた。  
くうこう    とうちやく    おく
- × 空港にの到着が遅れた  
くうこう    とうちやく    おく

8. 校長先生の話があり、行事予定その他の通達事項がこの際に全  
こうちょうせんせい    はなし    ぎょうじ    よてい    た    つうたつ    じ    こう    さい    ぜん  
校生徒に知らされる。(P16 / 3)  
こうせい    と    し

- (1) この店ではテレビやラジオその他いろいろな電気製品を売  
みせ    た    でん    き    せいひん    う  
っています。
- (2) 最近、先方に直接持参することをせず、デパートその他  
さいきん    せんぽう    ちよくせつ    じ    さん    た  
から配達されることが多い。(P55 / 4)  
はいたつ    おお
- (3) 食生活も米食中心からパン食その他に移りはじめています。  
しょくせい    かつ    べい    しょく    ちゅう    しん    しょく    た    うつ  
(P74 / 5)
- (4) その他、何か質問などありませんか。  
た    なに    しつもん  
＝そのほか  
⇒ それ以外  
い    がいい

9. 定刻になると全校生徒・教職員が集まって朝礼が行なわれる。  
ていこく    ぜんこうせい    と    きょうしよくいん    あつ    ちようれい    おこ  
校長先生の話があり、行事予定その他の通達事項がこの際に全  
こうちょうせんせい    はなし    ぎょうじ    よてい    た    つうたつ    じ    こう    さい    ぜん  
校生徒に知らされる。(P16 / 3)  
こうせい    と    し

- (1) 出発の際にもう一度忘れ物がないか確かめてください。  
しゅっぱつ    さい    いち    ど    わす    もの    たし
- (2) こちらへおいでの際はどうぞお立寄りください。  
さい    たち    よ
- (3) この際、言っておきたいことがあります。  
さい    い
- (4) 故障した際にはすぐ電話で知らせてください。  
こしょう    さい    でん    わ    し

⇒ 時、場合、折、節、  
とき    ばあい    おり    せつ

10. 会社によっては、朝礼をして社歌を歌ったり、社訓やスローガ  
かいしゃ    ちようれい    しゃ    か    うた    しゃくごん  
ンをいっせいに唱えたりする。(P17 / 2)  
とな

- (1) 場合によっては、中止することがあるかもしれない。  
ばあい    ちゅう    し

- (2) 日本人でも人によってはさしみが食べられない人がいる。  
に ほんじん ひと た ひと
- (3) たいてい込んでいるこの電車も、時間によってはすいてい  
こ でんしゃ じ かん  
 ます。

- (4) 九州でも場所によっては大雪の降るところがあります。  
きゅうしゅう ばしょ おおゆき ふ
- (5) 会社の仕事は、職種によって違うが、平均して会議と書類  
かいしゃ しごと しよくしゅ ちが へいきん かいぎ しよるい  
 作りと回ってきた書類に判を押すといったデスクワークが  
つく まわ しよるい ほん お  
 中心になっている。(P17 / 6)  
ちゅうしん

⇒ ● この戦争によって、2万人以上の人<sup>が</sup>死んだ。  
せんそう まんにん いじょう ひと し

● 源氏物語は紫式部によって書かれた。  
げん じ ものがたり むらさきしき ぶ か

11. 佐藤さんは海外事業部に属しているので、ファックスや国際電  
さとう かいがい じぎょう ぶ ぞく こくさいでん  
 話による連絡やコンピューターによる情報整理など、外国語を  
わ れんらく じょうほうせいり がいこくご  
 使<sup>つ</sup>ての<sup>し</sup>仕事<sup>ごと</sup>も多い。(P18 / 3)  
つか しごと おお

- (1) 絵や写真を使<sup>つか</sup>ての<sup>せつめい</sup>説明はわかりやすい。  
え しゃしん つか せつめい
- (2) 重い荷物を持<sup>も</sup>ての<sup>りょこう</sup>旅行はたいへんだ。  
おも にもつ も りょこう
- (3) もし佐藤さんが帰<sup>かえ</sup>ってきている場合は一家そろっての夕食  
さとう かえ ばあい いっか ゆうしょく  
 になる。(P31 / 5)
- (4) 7月ごろから何回も台風が日本を襲<sup>おそ</sup>うが、9月に入<sup>い</sup>っての  
しちがつ なんかい たいふう にほん おそ くがつ はい  
 台風がいちばん話題になる。(P68 / 2)  
たいふう わだい

12. 社員食堂は町の食堂に比<sup>くら</sup>べて値段が安く便利だ。(P20 / 3)  
しゃいんしょくどう まち しょくどう くら ねだん やす べんり

- (1) 九州は北海道に比<sup>くら</sup>べて雨が多い。  
きゅうしゅう ほっかいどう くら あめ おお
- (2) ヤンさんはチンさんに比<sup>くら</sup>べて日本語がまだうま<sup>ご</sup>くない。  
くら にほんご
- (3) 主婦の余暇は昔に比<sup>くら</sup>べて飛躍的に延<sup>の</sup>びている。(P24 / 9)  
しゅふ よかむかし くら ひやくてき の
- (4) それに比<sup>くら</sup>べてプレーするスポーツとしては、野球人口が圧  
くら やきゅうじんこう あつ  
 倒的に多く、プロ野球も相撲以上のファンを持<sup>も</sup>っている。  
とうてき おお やきゅう すもういじょう も  
 (P64 / 4)

13. オフィス街のレストランは昼食時にはたいへんな込み<sup>こ</sup>ようだ。  
がい ちゅうしょくじ こ

(P20 / 5)

(1) 田中さんは大学に合格してたいへんな喜びようだ。

た なか だいがく ごうかく よろこ

(2) この川は近くに工場ができてひどい汚れようだ。

かわ ちか こうじょう よご

(3) ひどい疲れようだ。夜も全然寝ていないらしい。

つか よる ぜんぜん ね

⇒ 田中さんは大学に合格してたいへん喜んでいるようだ。

た なか だいがく ごうかく よろこ

14. こういうレストランでは、数百円の日替わりの定食が準備され  
ており、20分くらいで昼食をすませることができる。(P20 / 6)

すうひゃくえん ひ が ていしょく じゅん び

ぶん ちゅうしょく

(1) あの部屋は電気が消えており、だれもいなかった。

へ や でん き き

(2) 戦争の悲惨さに対する記憶はだんだん薄れてきており、一

せんそう ひ さん たい き おく うす いち

部では戦争についての教科書の記述を書き換えようという

ぶ せんそう きょう か しよ き じゆつ か か

動きも出てきた。(P63 / 2)

うご で

(3) 日本人は、レジャーに家計の約15%を使っており、スポー

に ほんじん か けい やく つか

ツに対する支出も増加してきている。(P73 / 6)

たい し しゆつ ぞう か

(4) 1月1日は祝日になっており、だいたい1月は最初の1週

しゅく じつ

しゅう

間は日本中が正月気分満ちている。(P87 / 5)

かん に ほんじゅう しょうがつ き ぶん み

⇒ ~ていて

○ あの部屋は電気が消えていて、だれもいなかった。

へ や でん き き

× あの部屋は電気が消えてい、だれもいなかった。

へ や でん き き

15. カルチャーセンターには、エアロビクスやジャズダンスのよう

に、体を動かすコースもあれば、料理の講習や英会話や古典の

からだ うご りょう り こうしゅう えいかい わ こ てん

購読といった教養コースなど、何十という種類のコースがある。

こうどく きょうよう なんじゅう しゅるい

(P23 / 6)

(1) 山もあれば川もある。

やま かわ

(2) 英語もできればフランス語もできる。

えいご ぶつご

(3) あのホテルは景色もよければ料理もうまい。

け しき りょう り



(4) ギターもひければ歌うたもうまい。

(5) お金かねもなければ暇ひまもない。

16. 今はカルチャーセンターのさまざまなコースをいまはじめ、テニス、水泳すいえいなど、それぞれ自分の好きなものを楽しじぶんむのが一般たの的いっぱんてきになっている。(P23 / 8)

(1) この漫画まんがは中学生ちゅうがくせいをはじめ、大学生だいがくせいや普通のサラリーマンふつうにも読よまれています。

(2) 年賀状ねんがじょうを書いて友人・親類か ゆうじん しんるいをはじめ日頃世話ひごろせわになっている人ひとや先輩せんぱいにおくおく送る。(P81 / 3)

(3) 校長先生こうちょうせんせいをはじめ先生方せんせいがたによろしくお伝えつたください。

17. 主婦しゅふの労働ろうどうは少なくて済すむようになったので、その分ぶん、主婦しゅふがパートに出でたり、カルチャーセンターに行いったりする時間じかんができたのだと言いってよかろう。(P24 / 6)

(1) 病気びょうきは軽かるくて済すんだ。

(2) テキストは友達ともだちにもらったので買かわなくて済すみました。

(3) 20年前ねんまえの東京とうきょうでの生活せいかつは1日1000円にち えんで済すんだ。

(4) これはお金かねで済すむ問題もんだいではありません。

(5) 今週こんしゅうは先生せんせいに一度いちども叱しかられずに済すんだ。

⇒ 着きるものも、自分の手てで仕立したてる人ひとが少すくなくなつて、既製服きせいふくかオーダーで済すませる。(P24 / 9)

⇒ 済すませる [～を]

18. 主婦しゅふの労働ろうどうは少なくて済すむようになったので、その分ぶん、主婦しゅふがパートに出でたり、カルチャーセンターに行いったりする時間じかんができたのだと言いってよかろう。(P24 / 8)

(1) 外そとは寒さむかろうと思おもってオーバーおほーを着きて出でたがそれでもなかつた。

(2) 「辛<sup>つら</sup>かろうが、しばらくがまんするんだ」と父<sup>ちち</sup>に言<sup>い</sup>われた。

(3) 法律<sup>ほうりつじょう</sup>上<sup>じょう</sup>は、問題<sup>もんだい</sup>なかろうと思<sup>おも</sup>われる。

(4) 暑<sup>あつ</sup>かろうと寒<sup>さむ</sup>かろうと毎日<sup>まいにち</sup>5 km走<sup>はし</sup>る。

～かろう (書<sup>か</sup>き言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>) = だろう

⇒ 外<sup>そと</sup>は寒<sup>さむ</sup>いだろうと思<sup>おも</sup>ってオーバ<sup>き</sup>ーを<sup>で</sup>着<sup>き</sup>て出<sup>で</sup>たが、そ<sup>そ</sup>う  
でも<sup>でも</sup>ありま<sup>あり</sup>せん<sup>せん</sup>で<sup>で</sup>した。

19. 日本<sup>にほん</sup>の学<sup>がっ</sup>校<sup>こう</sup>は宿<sup>しゅく</sup>題<sup>だい</sup>も多<sup>おほ</sup>い<sup>い</sup>ので、家<sup>いえ</sup>に帰<sup>かえ</sup>っ<sup>て</sup>3時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>も4時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>も勉<sup>べん</sup>  
強<sup>きやう</sup>する<sup>めづ</sup>ことも珍<sup>めづ</sup>しく<sup>めづ</sup>ない。(P28 / 3)

(1) 5回<sup>かい</sup>も6回<sup>かい</sup>も電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>したん<sup>はな</sup>です<sup>ちゆう</sup>が、ず<sup>ず</sup>っ<sup>と</sup>話<sup>わ</sup>し中<sup>ちゆう</sup>で<sup>で</sup>した。

(2) 北<sup>ほっ</sup>海<sup>かい</sup>道<sup>どう</sup>の旭<sup>あさ</sup>川<sup>かわ</sup>では、気<sup>き</sup>温<sup>おん</sup>がマ<sup>ど</sup>イ<sup>ど</sup>ナ<sup>ど</sup>ス<sup>ど</sup>20度<sup>ど</sup>にも30度<sup>ど</sup>にもな<sup>な</sup>り  
ま<sup>ま</sup>す。

(3) 何<sup>なん</sup>度<sup>ど</sup>も何<sup>なん</sup>度<sup>ど</sup>もく<sup>かえ</sup>り<sup>れん</sup>返<sup>しゅう</sup>して練<sup>れん</sup>習<sup>しゅう</sup>しな<sup>しな</sup>さい。

(4) 雨<sup>あめ</sup>が3週<sup>しゅう</sup>間<sup>かん</sup>も降<sup>ふ</sup>りつづ<sup>つ</sup>いた。

20. 安<sup>やす</sup>く酒<sup>さけ</sup>が飲<sup>の</sup>める居<sup>い</sup>酒<sup>ざ</sup>屋<sup>や</sup>やスナ<sup>い</sup>ック<sup>さけ</sup>に行<sup>たの</sup>っ<sup>て</sup>酒<sup>さけ</sup>を<sup>たの</sup>しむ。……ま<sup>ま</sup>  
た、サ<sup>さん</sup>ラ<sup>む</sup>リ<sup>がい</sup>マ<sup>たの</sup>ンの勤<sup>にん</sup>務<sup>き</sup>外<sup>き</sup>の楽<sup>たの</sup>しみ<sup>き</sup>で人<sup>にん</sup>気<sup>き</sup>が<sup>き</sup>ある<sup>き</sup>のは、マ<sup>ま</sup>ー<sup>ま</sup>ジ<sup>ま</sup>  
ヤ<sup>や</sup>ンとゴ<sup>ご</sup>ル<sup>る</sup>フだ。(P30 / 1)

(1) 広<sup>ひろ</sup>島<sup>しま</sup>へ行<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>き<sup>かえ</sup>ま<sup>きやう</sup>し<sup>と</sup>た。また、帰<sup>かえ</sup>り<sup>きやう</sup>に<sup>と</sup>は京<sup>きやう</sup>都<sup>と</sup>で降<sup>お</sup>り<sup>て</sup>てお寺<sup>てら</sup>  
を見<sup>けん</sup>物<sup>ぶつ</sup>しま<sup>し</sup>た。

(2) あ<sup>ひと</sup>の<sup>がい</sup>人<sup>こく</sup>は外<sup>じん</sup>国<sup>に</sup>人<sup>ほん</sup>に<sup>ご</sup>日<sup>おし</sup>本<sup>に</sup>語<sup>ほん</sup>を<sup>じん</sup>教<sup>えい</sup>え、また、日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>人<sup>じん</sup>に<sup>えい</sup>は英<sup>ご</sup>語<sup>ご</sup>を  
教<sup>おし</sup>えて<sup>い</sup>る。

(3) 大<sup>だい</sup>学<sup>がく</sup>の入<sup>にゅう</sup>学<sup>がく</sup>式<sup>しき</sup>に<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>び<sup>し</sup>て親<sup>おや</sup> (主<sup>しゅ</sup>と<sup>して</sup>母<sup>はは</sup>親<sup>おや</sup>) が盛<sup>せい</sup>装<sup>そう</sup>してつ<sup>つ</sup>いて  
行<sup>い</sup>く<sup>お</sup>こ<sup>お</sup>とも<sup>さい</sup>多<sup>きん</sup>い。また、最<sup>さい</sup>近<sup>きん</sup>は入<sup>にゅう</sup>社<sup>しゃ</sup>式<sup>しき</sup>に<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>び<sup>し</sup>て親<sup>おや</sup>が<sup>しゅう</sup>出<sup>しゅう</sup>席<sup>せき</sup>する  
こ<sup>めづ</sup>とも<sup>めづ</sup>珍<sup>めづ</sup>しく<sup>めづ</sup>な<sup>な</sup>く<sup>な</sup>った。(P38 / 10)

(4) 草<sup>くさ</sup>や紙<sup>かみ</sup>で舟<sup>ふね</sup>を作<sup>つく</sup>りこ<sup>う</sup>れ<sup>み</sup>を<sup>な</sup>が<sup>しやう</sup>に<sup>よう</sup>流<sup>なが</sup>す精<sup>せい</sup>霊<sup>れい</sup>流<sup>りゅう</sup>しも多<sup>おほ</sup>く<sup>ち</sup>の<sup>ほう</sup>地<sup>ち</sup>方<sup>ほう</sup>で  
行<sup>おこ</sup>な<sup>たま</sup>わ<sup>しい</sup>れる。また、魂<sup>たましい</sup>を<sup>なぐさ</sup>慰<sup>なぐさ</sup>める<sup>なぐさ</sup>た<sup>なぐさ</sup>め<sup>なぐさ</sup>の<sup>なぐさ</sup>盆<sup>ぼん</sup>踊<sup>おど</sup>りも盛<sup>せい</sup>大<sup>だい</sup>に行<sup>おこ</sup>な  
わ<sup>おこ</sup>れる。(P61 / 3)

⇒ また、お会い<sup>あ</sup>しましょう。

21. そういう家庭では、父親<sup>かてい</sup>が子供<sup>ちちおや こども</sup>の寝<sup>ね</sup>ているうちに出<sup>で</sup>かけ、子供<sup>こども</sup>が寝<sup>ね</sup>てから帰<sup>かえ</sup>るという生活<sup>せいかつ</sup>パターンになり、父親<sup>ちちおや</sup>と子供<sup>こども</sup>がめつたに顔<sup>かお</sup>を合<sup>あ</sup>わせないで過<sup>す</sup>ごすことになる。(P32 / 5)

- (1) 家賃<sup>やちん</sup>は1か月<sup>げつ</sup>5万円<sup>まんえん</sup>だから、1年間<sup>ねんかん</sup>で60万円<sup>まんえん</sup>払<sup>はら</sup>うことになる。

- (2) あの会社<sup>かいしゃ</sup>に入<sup>はい</sup>れば、田中<sup>たなか</sup>さんの下<sup>した</sup>で働<sup>はたら</sup>くことになる。

- (3) 苦<sup>くる</sup>しくても今<sup>いま</sup>ががんばれば、あと<sup>あと</sup>で楽<sup>らく</sup>をすることになりますよ。

- (4) 学校<sup>がっこう</sup>で5時間<sup>じかん</sup>、家<sup>いえ</sup>で4時間<sup>じかん</sup>、合計<sup>ごうけい</sup>9時間<sup>じかん</sup>も日本語<sup>にほんご</sup>を勉強<sup>べんきょう</sup>することになる。

⇒ 来年<sup>らいねん</sup>、アメリカ<sup>りゅうがく</sup>に留学<sup>りゅうがく</sup>することになりました。

22. 一般<sup>いっぱん</sup>に家計<sup>かけい</sup>の管理<sup>かんり</sup>は、大型支出<sup>おおがたししゅつ</sup>を除<sup>のぞ</sup>いては、主婦<sup>しゅふ</sup>によって行<sup>おこ</sup>なわれる。(P32 / 7)

- (1) わたしとあなたを除<sup>のぞ</sup>いて15名<sup>めいあつ</sup>集<sup>あつ</sup>まります。

- (2) 休日<sup>きゅうじつ</sup>は、日曜日<sup>にちようび</sup>を除<sup>のぞ</sup>いては第1・第3土曜日<sup>だいい だいい どようび</sup>です。

- (3) その問題<sup>もんだい</sup>を除<sup>のぞ</sup>けば、わたしも賛成<sup>さんせい</sup>です。

- (4) 家賃<sup>やちん</sup>を除<sup>のぞ</sup>くと1か月<sup>げつ</sup>に10万円<sup>まんえん</sup>ぐらにかかります。

⇒ ~を入<sup>い</sup>れて、~を含<sup>ふく</sup>めて

- わたしとあなたを入<sup>い</sup>れて17名<sup>めいあつ</sup>集<sup>あつ</sup>まります。

- わたしとあなたを含<sup>ふく</sup>めて17名<sup>めいあつ</sup>集<sup>あつ</sup>まります。

23. 一般<sup>いっぱん</sup>に家計<sup>かけい</sup>の管理<sup>かんり</sup>は、大型支出<sup>おおがたししゅつ</sup>を除<sup>のぞ</sup>いては、主婦<sup>しゅふ</sup>によって行<sup>おこ</sup>なわれる。(P32 / 7)

- (1) この戦争<sup>せんそう</sup>によって2万人<sup>まんにん</sup>以上<sup>いじょう</sup>の人々<sup>ひとびと</sup>が死<sup>し</sup>んだ。

- (2) 源氏物語<sup>げんじものがたり</sup>は紫式部<sup>むらさきしきぶ</sup>によって書<sup>か</sup>かれた。

- (3) だれ<sup>い</sup>が行<sup>はな</sup>くか、話<sup>あ</sup>し合<sup>き</sup>いによって決<sup>き</sup>めよう。



- (4) テレビやラジオによって世界のニュースをはやく知ることができる。  
せ かい し

⇒ 佐藤さんは海外事業部に属しているので、ファックス  
さ とう かいがい じぎょう ぶ ぞく  
 や国際電話による連絡やコンピューターによる情報整  
こくさいでん わ れんらく じょうほう せい  
 理など、外国語を使つての仕事も多い。(P18 / 2)  
り がいこくご つか し こと おお

⇒ 10. (1)~(5)

24. 佐藤夫妻と子供二人がそれぞれ一部屋ずつ占めていて、それは  
さ とう ふうさい こどもふたり ひとへや し  
 ど広くもなければ狭くもない。(P34 / 5)  
ひろ せま

- (1) このコーヒーはおいしくもなければまずくもない。  
 (2) 今日のテストは特に難しくもなければ易しくもない。  
きょう とく むずか やさ  
 (3) ゴルフは好きでもなければ嫌いでもない。  
す きら  
 (4) このことばはタミール語でもなければヒンディー語でもな  
ご  
 い。いったい何語だろう。  
なにご

25. 日本人の多くは、こういう団地生活から、いつか庭つきの家に  
にほんじん おお だんち せいかつ にわ いえ  
 移りたいと夢見ている。が、だんだん団地での社会生活が確立  
うつ ゆめみ だんち しゃかいせいかつ かくりつ  
 し、定着する人が多くなっている。(P35 / 2)  
ていちゃく ひと おお

- (1) 中学生は、母親の作った弁当を学校に持っていく。が、東  
ちゅうがくせい ははおや つく べんとう がっこう も とう  
 京の公立の中学校では給食を行なっているところもある。  
きょう こうりつ ちゅうがっこう ぎゅうしょく おこ

⇒ (P21 / 2)

- (2) 飲むものも、佐藤さんは日本茶で子供たちはジュースと違  
の さとう にほんちゃ こども ちが  
 っている。が、最近一般的には朝食は、和食より準備に手  
さいきん いっぱんでき ちやうじよく わしょく じゅんび て  
 間のかからない洋食の方が多い。⇒ (P13 / 5)  
ま ちやうじよく ほう おお

- (3) 授業に出ずに、もっぱらアルバイトに精を出す者もいる。  
じゅぎょう て せい だ もの  
 が、そのアルバイトも、昔は学資を作るためのものだった。  
むかし がくし つく

⇒ (P107 / 7)

26. 日本では、新聞やテレビ、町の商店なども、季節に応じた生活  
にほん しんぶん まち しょうてん きせつ おう せいかつ

の変化を人々に感じさせるようになっている。(P37 / 3)

- (1) まだ5月なのに今日は真夏を思わせる天気だ。  
へん か ひとびと かん
- (2) 彼の死は多くの人々を悲しませた。  
かれ し おお ひとびと かな
- (3) 悲しんでいる人々を喜ばせるニュースが届いた。  
かな ひとびと よろこ とど
- (4) 野球よりサッカーの方がおもしろいですよ。観ている人たちはハラハラさせますから。  
や きゅう ほう み ひと
- (5) 秋の到来を感じさせる言葉やイメージがテレビや雑誌・新聞に数多く現れる。(P67 / 3)  
あき とうらい かん こと ば ざっ し しん ぶん かず おお あらわ

27. 入学式も入社式も人生の重要な節目として厳粛なセレモニーとみなされている。(P38 / 7)

- (1) 部長として責任をとってください。  
ぶ ちょう せきにん
  - (2) わたしは留学生としてではなく技術研修生として日本へ来ました。  
りゅうがくせい ぎ じゅつけんしゅうせい に ほん き
  - (3) 11月3日は文化の日として祝日になっている。(P76 / 2)  
じゅういちがつみつ か ぶん か ひ しゅくじつ
  - (4) 相撲が国技として歴史ももっとも古く、ファンの数も多い。  
す もう こくぎ れきし ふる かず おお
- (P64 / 2)
- (5) 高校野球大会がもっとも盛んで、国民的行事としても重要な位置を占めている。(P64 / 7)  
こうこう や きゅうたいかい しか こくみんてきぎょう じ じゅうよう い ち し

28. そのため、小学校、中・高校はもちろん、大学の入学式にまで親(主として母親)が盛装してついて行くことも多い。(P38 / 9)

- (1) 日本では、子供はもちろん大人まで、子供向けの漫画を読んでいる。  
に ほん こども おと な こども む まん が よ
- (2) 田中さんは英語はもちろんドイツ語もよくできますよ。  
た なか えい ご ぎ
- (3) 漢字はもちろんひらがなさえ書けないのだからたいへんです。  
かん じ か

- (4) 日本酒やウイスキーはもちろんのことビールも飲んではいけません。  
に ほんしゅ の
29. 特に、中小企業では、企業主は親、従業員は子という観念が強く、それだけに入社式は通過儀礼としての意味を強く持っている。(P39 / 3)
- (1) 企業主は親、従業員は子という観念が強いだけに、入社式は通過儀礼としての意味を強く持っている。  
き ぎょうぬし おや じゅうぎょういん こ かんねん つよ にゅうしゃしき  
つう か ぎれい い み つよ も
- (2) リーさんは毎日日本人と話しているだけに、会話はかなりうまい。  
まいにち に ほんじん はな かい わ
- (3) このアパートのまわりは静かなだけに、夜はちょっとさびしいです。  
しず よる
- (4) まだ子供なだけに、あいさつのしかたを知らない。  
こども し  
 =子供であるだけに、～  
こども  
 =子供だけに、～  
こども
30. 日本にも100年くらい前から労働組合も労働運動も存在したが、その組織率は10%以下にすぎなかった。(P40 / 3)
- (1) これはダイヤモンドのように光っていますが、ただのガラスにすぎません。  
ひか
- (2) あの人わたしを恋人ではありません。友達としてつきあっているにすぎません。  
ひと こいびと ともだち
- (3) けがをしたといっても、指をちょっと切ったにすぎない。  
ゆび き
- (1)=～でしかない  
 (2)(3)=～だけのことだ
31. これが、1945年の敗戦からそれ以後7年間の占領中に発達し、現在は23%程度になっている。(P40 / 3)
- (1) 木村さんとは大学を卒業して以後一度も会ったことがあり  
き むら だいがく そつぎょう い ご いち ど あ



ません。

- (2) 4時までは会社にいますが、それ以後はいません。

- (3) 1984年に日本に留学しました。それから以後4年間毎日日本語の勉強を続けました。

⇒ ～てから、以来

- 木村さんとは大学を卒業してから、一度も会ったことがありません。

- 木村さんとは大学を卒業して以来一度も会ったことがありません。

- × 4時までは会社にいますが、それ以来はいません。

32. これが、1945年の敗戦からそれ以後7年間の占領中に発達し、現在は20%程度になっている。ただ、労組の大部分は官公労や大企業の組合で、中小零細企業では、未組織のままになっているところが多い。(P40 / 4)

- (1) わたしのアパートは通勤にも買物にも便利です。ただ、ちょっとうるさいですけど。
- (2) 田中さんは確かにいい人です。ただ、酒を飲むと人が変わってしまいます。
- (3) あのおばあさんは90歳なのに、とても元気だ。ただ、最近耳が遠くなったようだ。
- (4) 8月は国民が反戦反核の思いを新たにする月でもある。ただ、すでに「戦争を知らない」世代が日本の人口の半分以上を占めている今日、戦争の悲惨さに対する記憶はだんだん薄れてきている。(P63 / 1)

33. 労組の大部分は官公労や大企業の組合で、中小零細企業では、未組織のままだになっているところが多い。(P40 / 6)

- (1) そのままにしておいてください。
- (2) あの子は今朝家を出たまま、帰ってきません。  
こ け さいえ で かえ
- (3) 良い日を選ぶという伝統も昔のまま残っていて、キリスト  
よ ひ えら でんとう むかし のこ  
教会でも、日が悪いのに挙式をする人は少ない。(P78 /  
きょうきょうかい ひ わる きよしき ひと すく  
7)

⇒ 思ったままのことを言う。  
おも い

34. 5月5日はこどもの日で、昔から3月3日の女の子の節句雛祭  
ごがついつ か ひ むかし さんがつみつ か おんな こ せつ く ひなまつ  
りとともに、子供のすこやかな成長を祝い、幸福を願う日であ  
こども せいちょう いわ こうふく ねが ひ  
る。(P43 / 6)

- (1) スキーとともにスケートも人気のある冬のスポーツだ。  
にん き ふゆ
- (2) 9月23日は秋分の日で、3月21日の春分の日とともに祝日  
く がつ にち しゅうぶん ひ さんがつ にち しゅんぶん ひ しゅくじつ  
になっている。(P70 / 2)
- (3) 11月は10月とともに結婚式が一年中でいちばん多い。(P78  
じゅういちがつ じゅうがつ けっこんしき いちねんじゅう おお  
/ 2)
- (4) 12月には日本の各地でベートーベンの第九交響曲「合唱」  
じゅういがつ にほん かくち だいく こうきやうきよく がっしやう  
が演奏される。クリスマスとともに最近数十年の間に定着  
えんそう さいきんすうじゅうねん あいだ ていちゃく  
した新しい年中行事だ。(P86 / 8)  
あた ねんじゅうぎやう じ
- =同様に、同じく  
どうよう おな

35. 現在、戦争放棄の第九条を改めたり、天皇を元首とする憲法に  
げんざい せんそうほう き だいきやうじやう あた てんのう げんしゅ けんぽう  
書き換えようとする運動も一部で行なわれている。(P44 / 9)  
か か うんどう いち ぶ おこ
- (1) あの子は30分も勉強しないうちにすぐ休もうとする。  
こ ぶん べんきやう やす
- (2) 寝ようとしてもなかなかねむれない。  
ね
- (3) 電話をかけようとしたのですが、10円玉も100円玉もなくてか  
でん わ えんだま えんだま  
けられませんでした。
- (4) バスに乗ろうとしたとき、かばんを落としてしまいました。  
の お
36. 面白いことに、日本の大学では法学部で法律を学んで卒業した  
おもしろ に ほん だいがく ほうがく ぶ ほうりつ まな そつぎやう

学生の大部分は、法律の知識をあまり必要としない民間企業に

就職する。(P45 / 6)

- (1) うれしいことに、給料が50%も上がった。
- (2) 悲しいことには、太りすぎて大好きな甘いものを食べてはいけな
- (3) いやなことに、どうしてもあの人と会わなければならない
- (4) 困ったことには、パスポートをなくしてしまいました。
- (5) 驚いたことに、この薬をのんだら病気がすぐになおってし

37. 6月上旬から7月中旬にかけて、北海道を除いて、日本は高温多湿の梅雨の季節を迎える。(P48 / 3)

- (1) 秋から冬にかけて晴れた日が続く。
- (2) 「今日の夕方から明日の朝にかけて強いところでは150ミリから200ミリ程度の大雨になりそうです」
- (3) 「東名高速道路では、東京から横浜インターチェンジにかけて30キロメートル以上渋滞しています」
- (4) 右の肩から指先にかけて強い痛みが走ります。

38. 快適なシーズンではないが、千年以上も日本の基幹産業になっている米作りには大切な田植えの時期であり、日本人は今でも多かれ少なかれ親しみを抱いている。(P48 / 6)

- (1) 幸せそうに見える人でも多かれ少なかれ問題を持っている

⇒ 多少

- (2) この仕事も遅かれ早かれ今月中には終わるでしょう。

⇒ 遅くとも



(3) よかれあしかれ、このままが**ん**ばるしかない。

⇒ どっちみち、どちらにしても

39. 米作農業を**中心**として生まれた伝統は、日本人の生活や文化に  
べいさく のうぎょう ちゅうしん う でんとう に ほんじん せいかつ ぶん か  
 今も**広範囲**にわたって根づいており、季節の変化に対応してい  
いま こうはん い ね き せつ へん か たいおう  
 るものが多い。(P49 / 1)

(1) 田中先生を中心とした研究会が毎月開かれます。  
た なかせんせい ちゅうしん けんきゅうかい まいつきひら

(2) この町はお城を中心にしてできたのです。  
まち しろ ちゅうしん

(3) 11月3日は文化の日として祝日になっているが、この日を  
じゅういちがつ みつ か ぶん か ひ しゅくじつ ひ  
 中心に文化的な催しが多く行なわれる。(P76 / 2)

(4) 明日の日本語の試験は文法の問題を中心に、聞きとりと漢  
あした に ほんご し けん ぶんぽう もんだい ちゅうしん き かん  
 字の問題も出されます。  
じ もんだい だ

40. 米作農業を中心として生まれた伝統は、日本人の生活や文化に  
べいさく のうぎょう ちゅうしん う でんとう に ほんじん せいかつ ぶん か  
 今も**広範囲**にわたって根づいており、季節の変化に対応してい  
いま こうはん い ね き せつ へん か たいおう  
 るものが多い。(P49 / 2)

(1) 今度の会議は6日間にわたって行なわれる。  
こん ど かいぎ むい か かん おこ

(2) 今朝5時ごろ、東京、神奈川の両県にわたって強い地震が  
け さ じ とうきょう か な がわ りょうけん つよ じしん  
 ありました。

(3) 人材育成のための企業内訓練は、語学・技術研修施設で行  
じんざいいくせい きぎょうないくれん ご がく ぎ じゅつけんしゅう し せつ おこ  
 なわれたり、海外留学などの方法により長期にわたって行  
かいがいりゅうがく ほうほう ちよう き おこ  
 なわれる。(P111 / 8)

⇒ ～にかけて

41. また、利潤を目的としない**学校**や官公庁でも支給されるのが普  
り じゅん もくてき がっこう かんこうちよう し きゅう ふ  
 通になっている。(P52 / 4)

(1) この教科書は、日本と日本人を知ること

(2) 目標としている大学は東京大学です。  
もくひょう だいがく とうきょうだいがく

(3) 遺伝子工学をはじめとする高度技術を利用した多種多様な  
いでん し こうがく こう ど ぎ じゅつ りよう た しゅ た よう

集約性の高い農業が生み出されている。(P74 / 7)

しゅうやくせい たか のうぎょう う だ

- (4) 明治維新以来、富国強兵を国是として発展してきた。(P77 / 1)

めい じ い しん い らい ふ こくきょうへい こく ぜ はってん

しゅ

⇒ 中心として、主として

ちゅうしん しゅ

42. 最近、先方に直接持参することをせず、デパートその他から

さいきん せんぽう ちよくせつ じ さん た

配達されることが多い。(P55 / 3)

はいたつ おお

- (1) 今日は一歩も外に出ず、家の中でずっと勉強していた。

きょう いっ ぽ そと で うち なか べんきょう

- (2) 企業に勤めるサラリーマンは通常1週間程度の休暇しか取

きぎょう つと つうじょう しゅうかんてい ど きゅう か と

らず、欧米のように3週間も休暇を取る者はいない。(P60

おうべい しゅうかん きゅう か と もの

/ 5)

- (3) ぜんぜん勉強せずに、試験を受けた。

べんきょう し けん う

- (4) どこにも寄らず、まっすぐ家へ帰ります。

よ うち かえ

- (5) 切符を買わずに、電車に乗ることはできません。

きつ ぷ か でんしゃ の

⇒ ~ないで、~なくて

○ ぜんぜん勉強しないで、試験を受けた。

べんきょう し けん う

× ぜんぜん勉強しなくて、試験を受けた。

べんきょう し けん う

43. お中元は、目上の人や世話になった人に感謝のつもりで贈られ

ちゅうげん め うえ ひと せ わ ひと かんしゃ おく

るものだが、一般に日本人の贈り物は、それに対してお返しを

いっぽん に ほんじん おく もの たい かえ

するのが礼儀になっている。(P55 / 5)

れい ぎ

- (1) 冗談のつもりで言ったんですが、あの人は怒ってしまいました。

じょうだん い ひと おこ

した。

- (2) 自分では正しいつもりでも、ほんとうに正しいのかどうか

じ ぶん ただ ただ

はわかりません。ほかの人の意見も聞いてみてください。

ひと い けん き

- (3) もう一度子供にかえったつもりで、思いっきり遊んだ。

いち ど こども おも あそ

- (4) 全部わかったつもりが、試験を受けてみたら半分しかでき

ぜん ぶ し けん う はんぶん

なかった。

⇒ わたしは来年結婚するつもりです。  
らいねんけっこん

44. お中元は、目上の人や世話になった人に感謝のつもりで贈られるものだが、一般に日本人の贈り物は、それに対してお返しをするのが礼儀になっている。(P55 / 6)
- ちゅうげん め うえ ひと せ わ ひと かんしゃ おく  
いっぱん に ほんじん おく もの たい かえ  
れい ぎ

- (1) 目上の人に対してていねいなことばを使う。  
め うえ ひと たい つか
- (2) バス料金の値上げに対して多くの反対意見が出た。  
りょうきん ね あ たい おお はんたい い けん で
- (3) あの人に対してはお礼をする必要はありません。  
ひと たい れい ひつよう
- (4) 自然の猛威に対して抵抗することのできない人間の無力感が流れていた。(P68 / 9)  
し ぜん もう い たい ていこう にんげん む りよくかん  
なが

⇒ ● 目上の人に対することば  
め うえ ひと たい

- バス料金の値上げに対する反対意見  
りょうきん ね あ たい はんたい い けん
- 自然の力に対する人為の無力さ (P69 / 2)  
し ぜん ちから たい じん い む りよく

45. それを間違うと関係者から陰口をたたかれかねない。(P55 / 11)  
まちが かんけいしゃ かげぐち

- (1) 鈴木さんはお酒を飲むと、課長とけんかしかねない。  
すずき さけ の かちょう
- (2) あの人の運転だったら事故を起こしかねません。  
ひと うんでん じ こ お
- (3) あんなに朝から晩まで働いては病気になりかねませんよ。  
あさ ばん ばたら びょうき
- (4) いい大学に入れるかどうかで、その人の人生が左右されることにもなりかねない。(P96 / 7)  
だいがく はい ひと じんせい さ ゆう

⇒ ～そうだと

- あの人の運転だったら事故を起こしそうだと。  
ひと うんでん じ こ お
- あの人の運転だったら楽しいドライブができそうだと。  
ひと うんでん たの
- × あの人の運転だったら楽しいドライブができかねない。  
ひと うんでん たの

46. こういう社会では大切な「義理」というのは、この「お返し」であると考えている人が多い。(P55 / 15)  
しゃかい たいせつ ぎ り かい  
かんが ひと おお

- (1) ワープロというのはワードプロセッサの略です。  
りゃく



- (2) 「銭別」<sup>せんべつ</sup>というのは何<sup>なん</sup>のことですか。
- (3) 「お歳暮」<sup>せいぼ</sup>というのは日<sup>ひ</sup>ごろ世<sup>せ</sup>話<sup>わ</sup>になっ<sup>て</sup>いる人<sup>ひと</sup>たちへの  
年末<sup>ねんまつ</sup>の贈<sup>おく</sup>り物<sup>もの</sup>のことです。
- (4) 「法に触れる」<sup>ほうふ</sup>というのは「法に違反した行為をする」<sup>ほういはんこうい</sup>と  
いう<sup>い</sup>意味<sup>み</sup>です。
- = ~ とは

47. 高校生・中学生は、受験勉強<sup>こうこうせい ちゅうがくせい</sup>で忙<sup>いそ</sup>しく、夏休み<sup>なつやすみ</sup>の間<sup>あいだ</sup>、塾<sup>じゅく</sup>や予備校<sup>よびこう</sup>  
など<sup>しゅうちゅうてき</sup>で集<sup>べんきよう</sup>中的<sup>もの</sup>に勉強<sup>おお</sup>する者<sup>たい</sup>が多い。それ<sup>たい</sup>に對<sup>たい</sup>して、サラリーマ  
ン<sup>か ききゅう か ゆうきゅうきゅう か と りよう ひ しょ</sup>は夏期休暇<sup>か ききゅう か</sup>や有給休暇<sup>ゆうきゅうきゅう か</sup>を取<sup>と</sup>って、旅行<sup>りよう</sup>や避暑<sup>ひ しょ</sup>に出<sup>で</sup>かける。(P  
57 / 6)

- (1) 兄<sup>あに</sup>はまじめによく勉強<sup>べんきよう</sup>する。それ<sup>たい</sup>に對<sup>たい</sup>して弟<sup>おとうと</sup>はぜんぜん勉  
強<sup>きよう</sup>しない。
- (2) 日本<sup>に ほん</sup>は電氣製品<sup>でん き せいひん</sup>は比較<sup>ひ かく</sup>的<sup>てき やす</sup>安<sup>たい</sup>い<sup>にく</sup>の<sup>しよくりようひん</sup>に對<sup>たい</sup>して、肉<sup>にく</sup>などの食料品<sup>しょくりようひん</sup>  
は高<sup>たか</sup>い。
- (3) 彼岸<sup>ひ がん</sup>とは向<sup>む</sup>こうの岸<sup>きし</sup>の意味<sup>い み</sup>で、此岸<sup>し がん</sup>つまり現世<sup>げん せ</sup>に對<sup>たい</sup>して「あ  
の世<sup>よ</sup>」を指<sup>さ</sup>す。(P70 / 4)
- (4) 5月<sup>ご がつ</sup>の連休<sup>れんきゅう</sup>をゴールデンウイーク<sup>よ</sup>と呼<sup>たい</sup>ぶの<sup>たい</sup>に對<sup>たい</sup>して、この  
日<sup>ひ</sup>を中心<sup>ちゅうしん</sup>とした週<sup>しゅう</sup>をシルバーク<sup>ひ</sup>ウイーク<sup>よ</sup>と呼<sup>よ</sup>ぶこと<sup>よ</sup>もある。  
(P77 / 5)

⇒ 44. (1)~(4)

48. お盆<sup>ぼん</sup>は宗教<sup>しゅうきよう</sup>的<sup>てき</sup>な意味<sup>い み</sup>だ<sup>き せい</sup>け<sup>か ぞく</sup>でなく、帰省<sup>きんせい</sup>によ<sup>か ぞく</sup>って家族<sup>しんせき</sup>や親戚<sup>ゆう</sup>、友  
人<sup>じん</sup>など<sup>きゆうこう</sup>と旧交<sup>きうこう</sup>をあたためる点<sup>てん</sup>でも、日本<sup>に ほん</sup>人<sup>じん</sup>の精神生活<sup>せいしんせいかつ</sup>に重要<sup>じゅうよう</sup>な  
はたらき<sup>は</sup>を果<sup>は</sup>たしている。(P61 / 9)

- (1) 学生<sup>がくせい</sup>だけでなく先生<sup>せんせい</sup>もいっしょに歌<sup>うた</sup>ったり踊<sup>おど</sup>ったりした。
- (2) 東京<sup>とうきよう</sup>だけでなく大阪<sup>おおさか</sup>や名古屋<sup>なごや</sup>でも土地<sup>とち</sup>の値上<sup>ねあ</sup>がり<sup>つづ</sup>が續<sup>つづ</sup>いて  
いる。

- (3) 木村さんはアラビア語を話すだけでなく読むこともできる。  
き むら                      ご   はな                      よ
- (4) 留学生はアジアからだけでなくヨーロッパやアメリカから  
りゅうがくせい  
 もおおぜい来ます。  
き

⇒ 28. (1)~(4)

49. 人々は、それぞれ自分の郷土チームを声援し、特に準決勝・決勝の日は日本全国といってよいほど国民は熱狂する。(P 65 / 6)  
ひとびと                      じ ぶん きょう ど                      せい えん                      とく                      じ めん けつ し ょう                      けつ  
しょう                      ひ                      に                      ほん ぜん こく                      こく みん                      ねつき ょう

- (1) あの人はまったくといってよいほど日本語がわかりません。  
ひと                      に                      ほん ご
- (2) 田中さんは毎晩といってよいほどお酒を飲みに出かける。  
た なか                      まいばん                      さけ                      の                      で
- (3) リーさんは「日本人以上」といってよいほど日本語がうまいです。  
に                      ほんじん い じょう                      に                      ほん ご
- (4) このカメラは丈夫で、ぜったいといってよいほど故障しません。  
じょう ぶ                      こしょう

○ あの人はだいたい日本語ができます。  
ひと                      に                      ほん ご

× あの人はだいたいといってよいほど日本語ができます。  
ひと                      に                      ほん ご

50. 一方、台風は米作農業（水田耕作）に必要な大量の雨をもたら  
いっぼう                      たいふう                      べいさくのうぎょう                      すいでんこうさく                      ひつよう                      たいりょう                      あめ  
 すものとして自然の慈愛の現れでもあった。(P 69 / 4)  
し ぜん                      じ あい                      あらわ

- (1) 九州ではもう桜が咲いている。一方、北海道では、まだ、雪が積もっている。  
きゅうしゅう                      さくら                      さ                      いっぼう                      ほっかいどう  
ゆき                      つ
- (2) 4月には学校で入学式が行なわれる。一方、会社では入社式が行なわれる。  
し がつ                      がっこう                      にゅうがくしき                      おこ                      いっぼう                      かいしゃ                      にゅうしや  
しき                      おこ
- (3) 佐藤さんは会社で忙しく働いている。一方、奥さんはカルチャーセンターで英会話を勉強して楽しんでいる。  
さ とう                      かいしゃ                      いそが                      はたら                      いっぼう                      おく  
えいかい わ                      べんきょう                      たの
- (4) 農業人口も耕地面積も昔に比べて非常に少なくなっている。  
のうぎょうじんこう                      こう ち めんせき                      むかし                      くら                      ひ じょう                      すく  
 一方、遺伝子工学をはじめとする高度技術を利用した多種  
いっぼう                      い でん し こうがく                      こう ど                      ぎ じゅつ                      りよう                      た しゅ  
 多様な集約性の高い農業が生み出されている。(P 74 / 6)  
た よう                      しゅうやくせい                      たか                      のうぎょう                      う                      だ

⇒ 47. (1)

51. 日本の古い格言に「待てば海路の日和あり」とか「果報は寝て待て」といったものが多いのも、人為よりも自然の恵みの大きさを意識した人々の英知を示すものだった。(P69 / 6)

- (1) 机の上に本とかノートとか(いった)いろいろな物があります。  
(2) わたしはゴルフとかテニスといったスポーツは好きではありません。  
(3) 「は」と「が」とか「で」と「に」とかいった助詞の使い方方は難しいですね。

⇒ ・よくおぼえておりませんが、「北国の春」とかいう歌を聞いたことがあります。

・リーさんはあした学校を休むとか言っていました。

52. 9月23日は秋分の日で、3月21日の春分の日とともに祝日になっている。伝統的には彼岸と呼ばれ、仏教思想にもとづいたものだ。(P70 / 3)

- (1) 戦争放棄は憲法にもとづいたものである。  
(2) 事実にもとづいた説明をお願いします。  
(3) こんどの計画は調査結果にもとづいて立てられます。  
(4) 自由と平等の民主主義にもとづく文化国家の建設を理想に掲げる国に変身した。(P77 / 2)

53. 10月には小学校から高校まで運動会が催される。(P72 / 5)

- (1) あの人にお問い合わせ、住む所からアルバイト先までいろいろ紹介してくれます。  
(2) この本は子供から大人まで多くの人に読まれています。  
(3) 新入社員はあいさつの仕方から電話のかけ方まで注意され



る。

- (4) ハレとケでは、着る物から食べる物、言葉、行動様式まで  
違っている。(P89 / 3)  
ちが
- (5) 「何から何までお世話になり、ほんとうにありがとうございます  
いました」  
なに なに せ わ

⇒ 28. (1)(2)

54. 会社などでも運動会が行なわれ、従業員だけでなくその家族ま  
で参加する場合もあり、会社の団結にとって重要な催しとされ  
ている。(P73 / 2)  
かいしゃ うんどうかい おこ じゅうぎょういん かぞく  
さん か ば あい かいしゃ だんけつ じゅうよう もよお

- (1) 日本でも、昔は、牛肉や豚肉は食べてはいけないものとさ  
れていた。  
に ほん わかし ぎゅうにく ぶたにく た
- (2) 日本国憲法では天皇は元首とはされていない。  
に ほんこくけんぽう てんのう げんしゅ
- (3) 出席していても、名前を呼んで返事のないものは欠席とさ  
れます。  
しゅっせき な まえ よ へん じ けっせき
- (4) 日本では「4」とか「9」といった数字はよくない数字と  
されています。  
に ほん すう じ すう じ

⇒ ～となっている。

55. 秋祭りは昔ながらに、あるいは昔以上に盛大に行なわれ、その  
年にとれた米を神や先祖に供え、家族や親族が集まって食べ物  
を共にする伝統は失われることなく続いている。(P75 / 3)  
あきまつ わかし わかし じょう せいだい おこ  
とし こめ かみ せん ぞ そな かぞく しんぞく あつ た もの  
とも でんとう うしな つづ

- (1) 1日も休むことなく、働き続けた。  
にち やす はたら つづ
- (2) 間違うことなく全部答えることができました。  
まちが ぜん ぶ こた
- (3) 一度も病気することなく、4年間日本で過ごせた。  
いち ど びょう き ねんかん に ほん す
- (4) わたしの母は孫の顔を見ることなく死んでしまった。  
はは まご かお み し

⇒ ～ずに

- 1日も休まずに、働きつづけた。  
にち やす はたら

⇒ 42. (1)~(5)

56. 人口統計による農業人口とは別に、正月やお盆などに農村に帰  
 じんこうとうけい のうぎょうじんこう べつ しょうがつ ぼん のうそん き  
 省する人たちを含めると、農村につながっている人口は少なく  
 せい ひと ふく のうそん じんこう すく  
 ない。(P75 / 4)

- (1) 授業料とは別に、入学金を払わなければならない。  
 じゅぎょうりょう べつ にゅうがくきん はら  
 (2) 昨日相談したこととは別に、お願いしたいことがある。  
 きのう そうだん べつ ねが  
 (3) 今持っているカメラとは別に、もう一台欲しい。  
 いま も べつ いちだい ほ  
 (4) 田中さんのグループとは別に、わたしたち二人だけで山に  
 たなか べつ ふたり やま  
 登った。  
 のぼ

⇒ 納豆は別に嫌いではないけれど、今は食べたくない。  
 なつとう べつ きら いま た

57. 1945年の敗戦を機に、戦争を放棄し、自由と平等の民主主義に  
 ねん はいせん き せんそう ほうき じゆう ひょうどう みんしゆしゆぎ  
 もとづく文化国家の建設を理想に掲げる国に変身した。(P77 /  
 ぶんか こつか けんせつ りそう かか くに へんしん  
 2)

- (1) 今度の入院を機に体の悪いところは全部なおしてもらうこ  
 こんど にゅういん き からだ わる ぜんぶ  
 とにした。  
 (2) 結婚を機にゴルフとマージャンをやめた。  
 けっこん き  
 (3) 先生にほめられたのを機にいっしょうけんめい勉強するよ  
 せんせい き べんきょう  
 うになった。  
 (4) これを機によろしくおつきあいください。  
 き

⇒ ~を機会に  
 き かい

58. 年末のあわただしい中で、会社などでも年賀状書きに励む人の  
 ねんまつ なか かいしゃ ねん がじょうが はげ ひと  
 姿を数多く見かける。(P81 / 5)  
 すがた かずおお み

- (1) 途中でやめていく人が多い中で、彼は最後までがんばった。  
 とちゅう ひと おお なか かれ さいご  
 (2) 苦しい生活の中で、母はわたしを大学まで行かせてくれま  
 くる せいかつ なか はは だいがく い  
 した。

(3) 大雨の中、弟はかさもささずに帰ってきた。

おおあめ なか おとうと かえ

(4) 「お忙しい中を多数ご参加くださいましてありがとうございます  
いしました」

いそが なか た すす さん か

59. 海外に行かないまでも、都会から離れてスキーを楽しむ者や、

かいがい い と かい はな たの もの

都会に残っている、大晦日にホテルに泊って正月を迎える人

と かい のこ おおみそ か とま しょうがつ むか ひと

も多くなってきた。(P85 / 5)

おお

(1) わざわざお伺いしないまでも、電話でお礼を言っておいた

うかが でん わ れい い

方がよい。

ほう

(2) ストライキはしないまでも、かなりの抵抗が予想される。

ていこう よ そう

(3) やめないまでも、2・3か月は休むかもしれない。

げつ やす

(4) 全部変えないまでも、半分以上は新しいものに取りかえ

ぜん ぶ かはん ぶん あたら と

なければならない。

60. 紅白歌合戦なども、すでに正月の催しの一つのような心理効果

こうはくががっせん しょうがつ もお ひと しんり こうか

を持っているとも言えよう。(P86 / 6)

も い

(1) ドイツやフランスに比べると日本人はまだまだ働きすぎだ

くら に ほんじん はたら

と言えよう。

い

(2) 掃除機や洗濯機などの使用により主婦の労働時間が少なく

そうじ き せんたく き しょう しゅ ふ ろうどう じかん

なって、その分パートに出たりカルチャーセンターに行っ

たりする自由時間ができたのだと言えよう。

じゆう じかん い

(3) 離婚や交通事故を協議や示談で解決したがるのは、日本人

りこん こうつう じこ きょうぎ じだん かいけつ に ほんじん

の法意識を反映しているものと言えよう。

ほう い しき はんえい い

⇒ ～と言え

い

61. 12月31日に生まれた人は生まれて2日目で2歳になった。それ

じゅうがつ にち う ひと う ふつ か め さい

もあって、1月1日は祝日になっており、だいたい1月はじめ

しゅくじつ

の1週間は日本中が正月気分満ちている。(P87 / 4)

しゅうかん に ほんじゅう しょうがつ きぶん み

(1) 最近どうも体の調子が悪い。それもあって、酒とタバコを

さいきん からだ ちょうし わる さけ



やめようと思っている。

- (2) 今住んでいるアパートは隣がうるさいこともあって、引っ越すことにした。
- (3) 父にすすめられたこともあって、あの学校に入ることにしました。

62. 正月は1月1日から3日まではハレの折だから、盛装して、お節料理を食べ、礼儀正しい態度で「おめでとう」とあいさつするなど、特別な過ごしかたをするわけだ。(P89 / 6)

- (1) 今日からゴールデンウィークだ。だから、高速道路が渋滞しているわけだ。
- (2) 「リーさんはきのう国へ帰りました」「そうですか。それでゆうべ何回電話しても出なかったわけですね」
- (3) できないわけだよ。まだ習っていないところが試験に出たんだから。

⇒ お酒が好きだといっても、毎晩飲むわけではない。

63. はたち(20歳)になると、選挙権が与えられ、法的に飲酒が許されるし、親の承諾なしに結婚できる。(P93 / 2)

- (1) 彼は一言もあいさつなしに帰っていった。
- (2) だれにも相談なしにひとりで決めてしまった。
- (3) ひとの迷惑はおかまいなしに自分のやりたいことだけをする。
- (4) 経済の問題とは関係なしに政治の問題を考えることはできない。

64. 大学生は高校生までの受験勉強の反動であるかのように、生活をエンジョイする傾向が強い。(P93 / 9)

- (1) もう二度と会えないかのように、ふたりはいつまでも抱き

あっていた。

(2) あの人は自分がいちばん偉いかのよう<sup>えら</sup>に、みんなに命令<sup>めいれい</sup>している。

(3) 彼女はまるで彼の恋人でもあるかのよう<sup>こう</sup>に、いっしょに公園<sup>こう</sup>を散歩<sup>さんぽ</sup>していた。

(4) リーさんは失敗<sup>しっぱい</sup>してしまったかのよう<sup>かな</sup>に、悲し<sup>かな</sup>そうな顔<sup>かお</sup>をしていた。

× もう二度<sup>にど</sup>と会えないよう<sup>あ</sup>に、ふたりはいつまでも抱き<sup>だ</sup>あっていた。

65. 高校<sup>こうこう</sup>を出てすぐ希望<sup>きぼう</sup>大学<sup>だいがく</sup>に入れなかつた者<sup>はい</sup>は、1年<sup>ねん</sup>なり2年浪<sup>ねんろう</sup>人<sup>にん</sup>して受験勉強<sup>じゅけんべんきょう</sup>をする。(P97 / 4)

(1) 何か困<sup>な</sup>っていることがあつたら、先生<sup>せんせい</sup>なり友達<sup>ともだち</sup> (なり) に相談<sup>そうだん</sup>するといいです。

(2) どうしても行きたくないという人<sup>ひと</sup>が5人<sup>にん</sup>なり10人<sup>にん</sup>はいるかもしれませ

(3) この本<sup>ほん</sup>はかならず読<sup>よ</sup>まなければならないから、新<sup>あたら</sup>しく買<sup>か</sup>うなりだれかに借<sup>か</sup>りるなりしなさい。

(4) 電話<sup>でんわ</sup>をかけるなり、手紙<sup>てがみ</sup>を書<sup>か</sup>くなりして知<sup>し</sup>らせてください。

⇒ ～とか

66. 高校<sup>こうこう</sup>を出て就職<sup>しゅうしよく</sup>する者<sup>もの</sup>にとつては、高校<sup>こうこう</sup>の卒業式<sup>そつぎょうしき</sup>が同じよう<sup>おな</sup>な意味<sup>い</sup>を持<sup>も</sup>っている。(P100 / 6)

(1) 空気<sup>くうき</sup>も水<sup>みず</sup>も人間<sup>にんげん</sup>にとつてなくてはならないものだ。

(2) 今度<sup>こんど</sup>のことはわたしにとつてはいい経験<sup>けいけん</sup>でした。

(3) たまには叱<sup>しか</sup>ることもあの子<sup>こ</sup>にとつては必要<sup>ひつよう</sup>です。

(4) 高速道路<sup>こうそくどうろ</sup>ができて、この町<sup>まち</sup>にとつては何<sup>なに</sup>もプラスにならな<sup>おも</sup>いと思う。

⇒ 今度のことはわたくしにとりましては、いい経験でございました。  
こん ど けいけん

67. そういう激しい競争を経て入ったせいか、大学に入ってもあまり勉強しなくなる学生もいるし、授業に出ずに、もっぱらアルバイトに精を出す者もいる。(P107 / 6)  
はげ きょうそう へ はい だいがく はい べんきょう がくせい じゅぎょう で

- (1) 太ったせいか階段を上るのがつらくなった。  
ふと かいだん のぼ
- (2) 年のせいか、もの忘れがひどくなった。  
とし わす
- (3) あなたのせいで、失敗したのです。  
しっばい
- (4) 頭が痛いのはかぜのせいだ。  
あたま いた

⇒ おかげで

- 先生のおかげで無事卒業することができました。  
せんせい ぶ じ そつぎょう
- × 先生のせいで無事卒業することができました。  
せんせい ぶ じ そつぎょう

68. 終身雇用制の会社では、従業員は刑法上の罪を犯さないかぎり解雇されることはめったにない。(P110 / 3)  
しゅうしん こ しょうせい かいしゃ じゅうぎょういん けいほうじょう つみ おか かい こ

- (1) あなたがあやまらないかぎり、わたしはぜったいに許しません。  
ゆる
- (2) あなたがそこをどかないかぎり、わたしもここを動きません。  
うご
- (3) 急な用事がないかぎり、かならず出席します。  
きゅう よう じ しゅっせき
- (4) 仕事があるかぎり、いつまでも働きつづけたい。  
し ごと はたら

69. 昇進や昇格も、だいたい勤務年数に応じて行なわれる。(P113 / 3)  
しょうしん しょうかく きん む ねんすう おう おこ

- (1) 能力に応じて、いろいろなコースが選べます。  
のうりよく おう えら
- (2) 行き先はみなさんの希望に応じて変えられます。  
い きき き ぼう おう か
- (3) 給料は経験に応じて少しずつ違います。  
きゅうりょう けいけん おう すこ ちが
- (4) 時代に応じて新しい方法を考えなければなりません。  
じ だい ough あたら ほうほう かんが



⇒ ～によって

70. 日本の賃金は、職務・能力・学歴など能力給的な要素と、年齢・  
に ほん ちんぎん しょくむ のうりよく がくれき のうりよくきゅうてき よう そ ねんれい  
 勤続年数・家族構成などに対する生活保障的な要素とがあり、  
きんぞくねんすう かぞくこうせい たい せいかつ ほしょうてき よう そ  
 その比率はだいたい半々くらいが普通になっている。したがっ  
ひりつ はんはん ふつう  
 て、個人が上司と賃上げ交渉をすることはない。(P114 / 4)  
こじん じょうし ちん あ こうしょう
- (1) 学歴が個人の出世や成功のカギになる。したがって、いい  
がくれき こじん しゅっせ せいこう  
 大学に入れるかどうかで、その人の人生が左右される。  
だいがく はい ひと じんせい さゆう
- (2) 夏の間にたくさんの人が海や山へ行く。したがって、それ  
なつ あいだ ひと うみ やま い  
 だけ事故も増える。  
じ こ ふ
- (3) 日本の定年は55歳から60歳が多い。したがって、定年退職  
に ほん ていねん さい さい おお ていねんたいしよく  
 した後に、再就職する人も少なくない。(P118 / 2)  
のち さいしゅうしよく ひと すく

⇒ したがって

- 部長はただいま出張中でございます。したがって、  
ぶ ちょう しゅつちやうちゅう  
 て、かわりに課長がまいりますので、よろしくお願  
か ちょう ねが  
 いたします。

⇒ だから

- もう間に合わないかもしれないよ。だから、はやく行  
ま あ  
 こう。
- × もう間に合わないかもしれないよ。したがって、はや  
ま あ  
 く行こう。  
い

71. 組合大会・職場大会を通して全組合員の意見が吸いあげられ、  
くみあいたいかい しょくば たいかい とお ぜんくみあいいん い けん す  
 組合の代表が交渉に臨む。(P115 / 6)  
くみあい だいいやう こうしょう のぞ
- (1) 山田先生には田中さんを通してお願いするとよい。  
やま だ せんせい た なか とお ねが
- (2) 今度の会議を通して全員の意見を聞き、それによって決定  
こん ど かいぎ とお ぜんいん い けん き けつてい  
 します。
- (3) テレビやラジオを通して伝えられる。  
とお つた

- (4) 5年間の留学を通して、日本人の考え方や生活習慣がかなりわかるようになりました。  
ねん かん りゅう がく とお に はん じん かんが かた せい かつ しゅう かん
- (5) 品質やサービスの向上、職場環境の改善といった問題は職場の小集団による討議を通して、上部に吸いあげられる。  
ひん しつ こうじょう しよく ば かんきょう かいぜん もんだい しよく ば しゅうしゅうだん どう ぎ とお じょう ぶ す  
 (P116 / 8)

⇒ ～を通じて  
つう

72. 一般的にも今後ますます再就職の傾向は強まるものと予想される。  
いっぱんてき こん ご さいしゅうしよく けいこう つよ よ そう  
 る。(P118 / 6)

- (1) 老人の数はこれからますます増えるものと予想される。  
ろうじん かず ふ よ そう
- (2) しばらくは円高ドル安が続くものと予想される。  
えんだか やす つづ よ そう
- (3) 50年後にはこの辺の山はすべて住宅地になるものと思われる。  
ねん ご へん やま じゅうたく ち おも
- (4) この池は約500年前の地震によってできたものと考えられる。  
いけ やく ねんまえ じ しん かんが

73. 社会保障はますます重要になってきている。なかでも、医療はもっとも重視され、現在、国民健康保険をはじめ共済組合など、いずれかの健康保険に全国民が加入している。(P119 / 1)  
しゃかい ほ しょう じゅうよう い りょう じゅう し げんざい こくみんけんこう ほ けん きょうさいくみあい けんこう ほ けん ぜんこくみん か にゅう

- (1) この大学にはアジアからの留学生が多い。なかでも、中国からが多い。  
だいがく りゅうがくせい おお ちゅうごく おお
- (2) スポーツなら何でも好きですが、なかでも、野球が大好きです。  
なん す や きゅう だい す
- (3) キャベツや大根などの野菜、なかでも、レタスがずいぶん値上がりしている。  
だいこん や さい ね あ

⇒ とりわけ、特に  
とく

## 索引

## 索引

## 〔あ〕

あいてに……相手に	115
あおくなる……蒼くなる	77
あおりたてる……あおり立てる	107
あきまつり……秋祭り	72
あきらか(な)……明らか(な)	63
あける……明ける	87
あげる……揚げる	43
あたえる……与える	45
あたためる……温める	24
あつかう……扱う	93
あつささむさもひがんまで……暑さ 寒さも彼岸まで	71
あつとうてきに……圧倒的に	45
あてる……当てる	19
あのよ……あの世	70
あまくだり……天下り	118
アマチュア	64
あまやかす……甘やかす	104
あらそう……争う	72
あらたにする……新たに	62
あらためる……改める	44
あらわれ……現れ	45
あらわれる……現れる	50
アルバイト	55
あわただしい	80
あんぜんえいせい……安全衛生	112

## 〔い〕

いいつたえ……言い伝え	77
Eメール	18
いえいえ……家々	88
～いがい……～以外	28
いけばな……生花	23
いざかや……居酒屋	29
いしき……意識	45
いしけつてい……意思決定	116
いじする……維持する	101
いしょう……衣装	79
いずれかの	119
いせいしゃ……為政者	45
いそんする……依存する	45
いだく……抱く	48

いたるところ	74
いちじゅんする……一巡する	82
いちぶ……一部	32
いちをしめる……位置を占める	64
いっか……一家	31
いっかだんらん(の)……一家団らん(の)	31
いっしゅ(の)……一種(の)	99
いっしょう……一生	103
いっせいに	17
いってい(の)……一定(の)	81
いっばいのむ……一杯飲む	29
いっばんてきに……一般的に	13
いっばんに……一般に	32
いでんしこうがく……遺伝子工学	74
いどう……異動	101
いね……稲	68
いのる……祈る	62
いはんする……違反する	45
いふく……衣服	57
イメージ	67
いも……芋	71
いりょう……医療	118
いれいさい……慰霊祭	62
いろこく……色濃く	79
いろづく……色づく	77
いわう……祝う	43
いわゆる	104
いんしゅ……飲酒	93

## 〔う〕

うける……受ける	68
うしなわれる……失われる	75
うすい……薄い	45
うすれる……薄れる	63
うちならす……打ち鳴らす	85
うつる……移る	35
うぶすな……産土	88
うみだす……生み出す	74
うりだす……売り出す	53
うりば……売り場	55
うわさ	31
うんどう……運動	44
うんどうかい……運動会	72



うんめい……運命

〔え〕

エアコン

エアロビクス

えいかいわ……英会話

えいきょう……影響

えいぎょう……営業

えいち……英知

えがく……描く

エチケット

NHK

えり……襟

えんかい……宴会

えんげき……演劇

エンジョイする

えんじょする……援助する

えんそうする……演奏する

〔お〕

おいろなおし……お色なおし

おうじる……応じる

おうべい……欧米

おおがたししゅつ……大型支出

おおく……多く

おおそうじ……大掃除

オーダー

おおて……大手

おおてきぎょう……大手企業

おおにぎわい……大にぎわい

おおみそか……大晦日

おおむかし……大昔

おかえし……お返し

おかす……犯す

おかみ……お上

おくがい……屋外

おくりぬし……贈り主

おけいごと……おけいこ事

おしえこむ……教えこむ

おせちりょうり……お節料理

おそう……襲う

おそらく

おたがいどうし……お互いどうし

おっと……夫

おとしだま……お年玉

オフィスがい……オフィス街

おもかげ……面影

おもに……主に

68

おやこ……親子

およぶ……及ぶ

おりこみこうこく……折込広告

おんけいかん……恩恵感

おんじょう……恩情

おんせん……温泉

おんせんち……温泉地

〔か〕

かいかい……開会

かいがいじぎょうぶ……海外事業部

かいがいりょこう……海外旅行

かいぎ……会議

かいきゅういしき……階級意識

かいけいねんど……会計年度

かいけつする……解決する

かいごう……会合

かいこする……解雇する

かいしや……下位者

かいしやない……会社内

がいしゅつぎ……外出着

がいしゅつする……外出する

かいじょう……会場

かいせい……改正

かいぜん……改善

かいそう……回想

かいてき(な)……快適(な)

かいてん……開店

かいはつする……開発する

かいほうする……解放する

かおいろ……顔色

かおく……家屋

かおをあわせる……顔を合わせる

かかげる……掲げる

かき……柿

かきかえる……書き換える

かききゅうか……夏季休暇

かぎる……限る

がく……額

かくかぞくしゃかい……核家族社会

かくげん……格言

がくし……学資

かくしゃ……各社

がくしゃ……学者

かくしゅ……各種

がくしゅうじゅく……学習塾

かくせんそう……核戦争

18

97

43

15

52

39

80

57

73

11

43

17

96

38

45

105

110

116

30

23

104

80

44

41

62

48

15

117

16

77

69

32

77

71

63

57

23

52

119

69

57

22

55

65

97

62

- |                       |     |                   |     |
|-----------------------|-----|-------------------|-----|
| かくだんに……格段に            | 101 | がらりと              | 87  |
| かくていしんこく……確定申告        | 99  | かり(の)……仮(の)       | 69  |
| かくとどうふけん……各都道府県       | 77  | カルチャーセンター         | 23  |
| かくへいき……核兵器            | 44  | かわりめ……変わり目        | 71  |
| かくりつする……確立する          | 35  | かんけいしゃ……関係者       | 55  |
| がくりよく……学力             | 105 | かんこう……慣行          | 52  |
| がくれき……学歴              | 38  | かんこうち……観光地        | 80  |
| がくれきへんちようしゃかい……学歴偏重社会 | 106 | かんこうちよう……官公庁      | 52  |
| かけい……家計               | 32  | かんこうろう……官公労       | 40  |
| かけい……家系               | 96  | がんじつ……元日          | 91  |
| かけいぼ……家計簿             | 32  | かんしゃ……感謝          | 55  |
| かげぐちをたたく……陰口をたたく      | 55  | かんしゃ……官舎          | 101 |
| かざり……飾り               | 82  | かんしゅう……慣習         | 37  |
| かざる……飾る               | 43  | かんしんじ……関心事        | 68  |
| かさんする……加算する           | 87  | かんずる……観ずる         | 68  |
| かし……歌詞                | 50  | かんちょう……官庁         | 80  |
| かじ……家事                | 15  | かんねん……観念          | 39  |
| かしわもち……柏餅             | 43  | かんばい……乾杯          | 91  |
| かずおおい……数多い            | 67  | かんびする……完備する       | 68  |
| かせぐ……稼ぐ               | 57  | かんり……管理           | 32  |
| かぞくこうせい……家族構成         | 11  | かんりしよく……管理職       | 111 |
| かぞくしゆぎてき(な)……家族主義的(な) | 110 | かんりよう……官僚         | 118 |
| かぞくもち……家族持ち           | 101 | かんれん(の)……関連(の)    | 118 |
| かたる……語る               | 31  | かんわする……緩和する       | 61  |
| かちぬく……勝ち抜く            | 65  |                   |     |
| かちょう……課長              | 11  | 〔き〕               |     |
| がっき……学期               | 67  | きおく……記憶           | 63  |
| がっきちゅう……学期中           | 56  | きかい……機会           | 29  |
| がっこうきゅうしよく……学校給食      | 21  | きかえる……着かえる        | 23  |
| がっしゆくする……合宿する         | 56  | きかんさんぎよう……基幹産業    | 48  |
| 「がっしょう」……「合唱」         | 86  | きぎよう……企業          | 18  |
| へがつすえ……月末             | 56  | きぎようしゃかい……企業社会    | 110 |
| かつての                  | 93  | きぎようないくんれん……企業内訓練 | 111 |
| かつどう……活動              | 115 | きぎようないふくし……企業内福祉  | 113 |
| カットする                 | 110 | きぎようないろうそ……企業内労組  | 110 |
| カップル                  | 79  | きぎようぬし……企業主       | 39  |
| かていきょうし……家庭教師         | 28  | きぎようねんきん……企業年金    | 113 |
| かていサービス……家庭サービス       | 30  | きぎようべつくみあい……企業別組合 | 40  |
| かていないきょういく……家庭内教育     | 104 | きご……季語            | 49  |
| かにゆうする……加入する          | 119 | きこう……気候           | 43  |
| かほうはねてまで……果報は寝て待て     | 69  | きし……岸             | 70  |
| かまくら                  | 98  | きじ……記事            | 62  |
| かよう……通う               | 26  | ぎじかぞく……疑似家族       | 113 |
| からて……空手               | 65  | ぎしき……儀式           | 100 |
|                       |     | きじゅつ……記述          | 63  |



ぎじゅつけんしゅうしせつ……技術 研修施設	111	きょうみ……興味	45
きじゅん……基準	55	きょうみぶかい……興味深い	58
きしょう……起床	12	きょうよう……教養	23
きせい……既製	58	きょうり……郷里	61
きせいする……帰省する	56	きょうく(の)……巨額(の)	79
きせいふく……既製服	24	きよしき……挙式	78
きせつかん……季節感	50	きより……距離	32
きぞくいしき……帰属意識	110	ざり……義理	55
きたい……期待	85	きりかえる……切りかえる	54
きたくする……帰宅する	29	キリストきょう……キリスト教	78
きたぐに……北国	98	きりつ……規律	112
きっかり	29	きりぬける……切りぬける	110
きている……来ている	50	きろくする……記録する	55
きどあいらく……喜怒哀楽	50	きわめて	108
きねんする……記念する	44	きわめる……極める	85
きびしい……厳しい	41	きんがく……金額	52
きぼう……希望	107	きんぞくねんすう……勤続年数	114
きぼうだいがく……希望大学	97	きんだいけんちく……近代建築	50
きほんてきじんけん……基本的人権	44	きんだいてき(な)……近代的(な)	37
きほんてきに……基本的に	41	きんねん……近年	89
ぎむ……義務	112	きんぴん……金品	55
ぎむきょういく……義務教育	106	きんむ……勤務	11
ぎやくに……逆に	61	きんむがい……勤務外	30
きゅうか……休暇	42	きんむねんすう……勤務年数	113
きゅうぎょう……休業	42	〔く〕	
きゅうこうをあたためる……旧交を あたためる	61	く……句	49
QC	117	くこう……空港	85
QCC	117	くさ……草	61
きゅうじつ……休日	30	くさばな……草花	50
きゅうじょう……球場	65	くさやきゅう……草野球	30
きゅうよ……給与	32	くべつ……区別	91
きゅうよしとくしゃ……給与所得 者	52	くみあい……組合	40
きょういくせいど……教育制度	106	くみあいたいかい……組合大会	115
きょういくひ……教育費	19	くみこむ……組み込む	41
きょうかい……教会	78	クラブかつどう……クラブ活動	56
きょうぎ……協議	45	くり……栗	71
きょうさいくみあい……共済組合	119	くりかえす……繰り返す	54
ぎょうじ……行事	16	クリスチャン	82
きょうしよくいん……教職員	16	クリスマス	82
きょうする……供する	79	クリスマスイブ	86
ぎょうせい……行政	45	クリスマスキャロル	82
きょうそう……競争	26	くわわる……加わる	82
きょうそうりつ……競争率	106	〔け〕	
きょうちょうする……協調する	110	～け……～家	11
きょうどチーム……郷土チーム	65	ケ	89
		けいえい……経営	110



- けいえいかぞくしゅぎ……経営家族主義 39  
 けいえいがわ……経営側 110  
 けいえいじょうたい……経営状態 52  
 けいえん……敬遠 45  
 けいこう……傾向 45  
 けいさいする……掲載する 107  
 けいさん……計算 55  
 けいじ……慶事 55  
 けいしき……形式 78  
 げいじゅつかんしょう……芸術鑑賞 76  
 げいじゅつさい……芸術祭 77  
 けいたい……形態 55  
 けいほうじょう……刑法上 110  
 けいれき……経歴 106  
 ゲーム 72  
 けっこんしき……結婚式 55  
 けっこんねんれい……結婚年齢 79  
 けっしょう……決勝 65  
 けんきゅうかいはつ……研究開発 116  
 げんきん……現金 89  
 けんこう……健康 73  
 けんこうてき(な)……健康的(な) 77  
 げんしばくだん……原子爆弾 62  
 げんじものがたり……源氏物語 50  
 げんしゅ……元首 44  
 げんしゅく(な)……厳粛(な) 38  
 げんしよてき(な)……原初的(な) 55  
 げんせ……現世 70  
 けんせつ……建設 77  
 げんそく……原則 44  
 げんそくとする……原則とする 44  
 けんどう……剣道 65  
 けんとうする……検討する 119  
 げんば……現場 116  
 げんぶつきゅうよほうしき……現物  
 給与方式 101  
 けんぽうきねんび……憲法記念日 42  
 【こ】  
 こいのぼり 43  
 こうい……行為 45  
 こうおん……高温 48  
 こうか(な)……高価(な) 52  
 こうがい……郊外 11  
 こうかん……交換 29  
 こうきゅうかんりしょく……高級管  
 理職 108  
 こうきょうこうつうきかん……公共  
 交通機関 43  
 こうくうき……航空機 61  
 こうこうやきゅう……高校野球 64  
 こうこうやきゅうたいかい……高校  
 野球大会 64  
 こうざ……口座 32  
 こうしえん……甲子園 64  
 こうしゃ……後者 55  
 こうしゅう……講習 23  
 こうしょう……交渉 41  
 こうじょうする……向上する 105  
 こうせき……功績 113  
 ごうせつちたい……豪雪地帯 98  
 こうぞう……構造 69  
 こうそくどうろ……高速道路 43  
 こうちめんせき……耕地面積 74  
 こうちょうせんせい……校長先生 16  
 こうつうきかん……交通機関 61  
 こうつうきそく……交通規則 45  
 こうつうじこ……交通事故 45  
 こうてんき……好天気 72  
 こうどう……行動 50  
 こうどうようしき……行動様式 52  
 こうどぎじゅつ……高度技術 74  
 こうどく……購読 23  
 こうどくしゃ……購読者 65  
 こうにゅうする……購入する 34  
 こうはく……紅白 72  
 こうはくうたがっせん……紅白歌合  
 戦 85  
 こうはんい……広範囲 49  
 こうふ……公布 76  
 こうふく……幸福 43  
 こうらく……行楽 72  
 こうらくち……行楽地 42  
 こうりつ……公立 21  
 こうれいかしやかい……高齢化社会 118  
 こうれいしゃ……高齢者 119  
 ゴールデンウィーク 42  
 ごがく……語学 56  
 ごく……語句 50  
 こくぎ……国技 64  
 こくさいせん……国際線 85  
 こくぜ……国是 77  
 こくてつ……国鉄 113  
 こくてついか……国鉄一家 113  
 こくみん……国民 45

こくみんけんこうほけん……国民健康保険	119
こくみんたいいくたいかい……国民体育大会	77
こくみんてきぎょうじ……国民的行事	64
こころえ……心得	111
こころみる……試みる	50
こじん……個人	81
こじんてきに……個人的に	28
こだい……古代	86
こっか……国家	77
こっかい……国会	44
こづかい……小遣い	32
こっかしゆぎてき(な)……国家主義的(な)	63
こてん……古典	23
こどものひ……こどもの日	42
ことわざ	45
このほか	17
ごみ	15
こむ……込む	20
こめづくり……米作り	48
ごようおさめ……御用納め	83
こようけいやく……雇用契約	112
こようしゃ……雇用者	112
ごようはじめ……御用始め	91
こよみ……暦	95
こらい……古来	86
ごらく……娯楽	57
ゴルフ	30
こんざつする……混雑する	43
こんなん(な)……困難(な)	110
こんにち……今日	63
〔さ〕	
さ……差	113
サイクル	82
さいけつじ……採決時	116
さいしゅう……最終	65
さいしゅうがくれき……最終学歴	106
さいしゅうしょくさき……再就職先	110
さいだい(の)……最大(の)	115
さいだいきょうやくすう……最大公約数	103
さいばんしょ……裁判所	45
さいようする……採用する	30
さかいにして……境にして	63

さからう……逆らう	68
さかり……盛り	54
さくしゃ……作者	49
さくひん……作品	49
さけのせき……酒の席	29
さける……避ける	45
さす……指す	70
さだめる……定める	45
サッカー	65
さどう……茶道	23
さべつ……差別	96
さまざま(な)	23
さゆうする……左右する	96
サラダ	13
さらに	81
サラリーマン	12
3LDK	11
さんかじんこう……参加人口	65
さんかする……参加する	37
ざんぎょうする……残業する	29
さんけいする……参詣する	88
さんこうしょ……参考書	108
ざんしょみまい……残暑見舞い	58
さんせい……賛成	44
サンタクロース	82
サンドイッチ	21
〔し〕	
～し……～氏	11
～じ……～時	34
じあい……慈愛	69
シーズン	48
しいれる……仕入れる	13
しがん……此岸	70
じかんたい……時間帯	31
しき……四季	51
じき……時期	42
しきたり	79
しきゆうする……支給する	22
しきんかせぎ……資金稼ぎ	107
しく……敷く	104
じこう……時候	50
しこうする……施行する	44
じこちゅうしんてきに……自己中心的に	93
じさんする……持参する	55
ししゅつ……支出	34



じしゅてきに……自主的に	30	しゅうきょうてき (な) ……宗教的	61
しせつ……施設	101	(な)	61
したがう	37	じゅうしする……重視する	38
したく……仕度	24	しゅうじつ……週日	42
じたく……自宅	32	じゅうじゅん (な) ……従順 (な)	45
したしみ……親しみ	48	しゅうしょくする……就職する	45
したてる……仕立てる	24	しゅうしん……就寝	33
じだん……示談	45	しゅうしんこよう……終身雇用	38
じちたい……自治体	92	しゅうせんきねんび……終戦記念日	62
しちょうしゃ……視聴者	45	じゅうたい……渋滞	43
しちょうそん……市町村	92	じゅうたく……住宅	11
しちょうりつ……視聴率	85	じゅうたくゆうし……住宅融資	113
じつぎょうだん……実業団	73	じゅうたくローン……住宅ローン	19
しつけ	105	しゅうだんいしけってい……集團意思決定	116
しのぶ	62	しゅうちゅうする……集中する	74
しばしば	97	しゅうちゅうてきに……集中的に	57
しはらい……支払い	53	じゅうどう……柔道	65
しほう……司法	45	しゅうにゆう……収入	82
しほん……資本	39	しゅうぶんのひ……秋分の日	70
しまい……姉妹	79	しゅうやくせい……集約性	74
しめきり……締切	99	じゅうよう (な) ……重要 (な)	38
しめす……示す	37	じゆく……塾	26
しめる……占める	34	しゆくがしき……祝賀式	92
しもん……諮問	116	しゆくじつ……祝日	44
しやいんしょくどう……社員食堂	20	しゆくはくする……宿泊する	97
しやいんよう……社員用	57	じゆけん……受験	26
しやか……社歌	17	しゆけんざいみん……主権在民	44
しやかいじん……社会人	100	じゆけんち……受験地	97
しやかいせいかつ……社会生活	35	じゆけんべんきょう……受験勉強	57
しやかいほしょうせいど……社会保険制度	119	しゆしょく……酒食	79
しやかいもんだい……社会問題	32	しゆっきんする……出勤する	30
しゃくん……社訓	17	しゆっしんこうこう……出身高校	107
しゃこう……社交	73	しゆっせ……出世	96
ジャズダンス	23	しゆとして……主として	38
しゃたく……社宅	101	しゆふ……主婦	24
じゃっかん……若干	52	しゆんかしゅうとう……春夏秋冬	49
しゃよう……社用	29	じゆんけっしょう……準決勝	65
しゅうかい……集会	62	しゆんとう……春闘	40
しゅうかく……収穫	74	しゆんぶんのひ……春分の日	70
しゅうかんし……週刊誌	107	じょういしょく……上位職	113
しゅうきゅうふつかせい……週休2日制	30	しょうかく……昇格	113
しゅうぎょう……終業	29	しょうがつきぶん……正月気分	87
じゅうぎょういん……従業員	39	じょうきやくすう……乗客数	43
しゅうぎょうきそく……就業規則	111	しょうきゅう……昇給	113



- |                  |     |                   |     |
|------------------|-----|-------------------|-----|
| じょうきょう……状況       | 62  | じんざい……人材          | 112 |
| じょうし……上司         | 90  | じんざいいくせい……人材育成    | 111 |
| じょうじ……常時         | 112 | じんじ……人事           | 29  |
| じょうしゃりつ……乗車率     | 14  | じんじいどう……人事異動      | 101 |
| しょうしゅうだん……小集団    | 116 | じんじゃ……神社          | 85  |
| じょうじゅん……上旬       | 48  | じんしゅ……人種          | 96  |
| しょうじる……生じる       | 55  | しんじょう……心情         | 68  |
| しょうしん……昇進        | 101 | じんせい……人生          | 38  |
| しょうする……称する       | 54  | じんせいこうろ……人生行路     | 108 |
| しょうせつ……小説        | 50  | しんせき……親戚          | 61  |
| しょうだく……承諾        | 93  | しんぞく……親族          | 75  |
| しょうてん……商店        | 37  | しんぷ……新婦           | 79  |
| しょうねんはん……少年犯     | 93  | しんり……心理           | 45  |
| しょうひせいかつ……消費生活   | 52  | しんりこうか……心理効果      | 86  |
| しょうぶ……勝負         | 72  | しんろう……新郎          | 79  |
| じょうぶ……上部         | 116 |                   |     |
| しょうぶゆ……菖蒲湯       | 43  | 〔す〕               |     |
| じょうほう……情報        | 29  | すいあげる……吸いあげる      | 115 |
| じょうほうせいり……情報整理   | 18  | すいえい……水泳          | 23  |
| しょうよ……賞与         | 41  | すいでんこうさく……水田耕作    | 69  |
| しょうりょうながし……精霊流し  | 61  | すうひゃくえん……数百円      | 20  |
| ショーウインドー         | 82  | ～すぎ……～過ぎ          | 33  |
| しょくご……食後         | 32  | スコットランドみんよう……スコッ  |     |
| しょくせいかつ……食生活     | 74  | トランド民謡            | 100 |
| しょくたく……食卓        | 77  | すこやか(な)           | 43  |
| しょくば……職場         | 25  | すすめる              | 76  |
| しょくばかんきょう……職場環境  | 116 | すでに               | 24  |
| しょくばたいかい……職場大会   | 115 | ストライキ             | 41  |
| しょくばたいそう……職場体操   | 25  | スナック              | 29  |
| しょくひん……食品        | 24  | スピーカー             | 25  |
| しょくむ……職務         | 114 | すまい……住まい          | 69  |
| しょくりょうじきゅうりつ……食料 |     | すませる……済ませる        | 15  |
| 自給率              | 74  | すもう……相撲           | 64  |
| しよちゅうみまい……暑中見舞い  | 58  | スローガン             | 17  |
| しよてん……書店         | 108 |                   |     |
| しよとくぜい……所得税      | 99  | 〔せ〕               |     |
| しよばつする……処罰する     | 93  | せいえんする……声援する      | 65  |
| じよやのかね……除夜の鐘     | 85  | せいかつせつけい……生活設計    | 113 |
| しよるい……書類         | 17  | せいかつパターン……生活パターン  | 32  |
| しらずしらずのうちに……知らず知 |     | せいかつひ……生活費        | 57  |
| らずのうちに           | 37  | せいかつほしょうてき(な)……生  |     |
| じんい……人為          | 69  | 活保障的(な)           | 114 |
| しんがくりつ……進学率      | 96  | せいき……世紀           | 50  |
| しんがつき……新学期       | 38  | ぜいきん……税金          | 82  |
| じんぐう……神宮         | 88  | せいさくてき(な)……政策的(な) | 116 |
| しんこう……信仰         | 88  | せいさん……清算          | 80  |
| じんこうとうけい……人口統計   | 75  | せいじてきに……政治的に      | 93  |
| しんこんりょこう……新婚旅行   | 79  |                   |     |

せいしよ……聖書 86  
 せいしんせいかつ……精神生活 61  
 せいしんてき(な)……精神的(な) 39  
 せいじんのひ……成人の日 92  
 せいぞうがいしゃ……製造会社 11  
 せいそうする……盛装する 38  
 せいだいに……盛大に 61  
 せいちょう……成長 43  
 せていする……制定する 45  
 せいねん……成年 92  
 せいふ……政府 44  
 せいふく……制服 22  
 せいぼ……歳暮 54  
 せいめい……姓名 18  
 せいよう……西洋 65  
 せいようしき……西洋式 79  
 せいをだす……精を出す 107  
 せすじ……背筋 25  
 せぞくてき(な)……世俗的(な) 90  
 せだい……世代 63  
 せつく……節句 43  
 せったい……接待 30  
 せつぶん……節分 95  
 せつやく……節約 93  
 せびろ……背広 17  
 せびろすがた……背広姿 22  
 セレモニー 38  
 せわになる……世話になる 54  
 せんきょけん……選挙権 93  
 せんげんする……宣言する 44  
 ぜんこう……全校 16  
 せんさばんべつ……千差万別 103  
 ぜんしゃ……前者 55  
 せんしゅけんじあい……選手権試合 73  
 せんしゅだん……選手団 77  
 せんぞ……先祖 60  
 せんたくき……洗濯機 24  
 ぜんにほん……全日本 65  
 ぜんねん……前年 61  
 せんばい……先輩 81  
 せんばつする……選抜する 65  
 せんべつ……餞別 55  
 せんぼう……先方 55  
 せんりょうちゅう……占領中 40  
 せんりよくふほじ……戦力不保持 44

## 〔そ〕

そういうふうに 91  
 ぞうかする……増加する 73  
 そうぎいん……総議員 44  
 そうごふじょ……相互扶助 55  
 そうしき……葬式 55  
 そうじき……掃除機 24  
 そうぞう……想像 63  
 ぞうとう……贈答 80  
 そうとうする……相当する 54  
 ぞうに……雑煮 88  
 ぞくする……属する 18  
 そこ……底 68  
 そしきりつ……組織率 40  
 そつぎょうしき……卒業式 100  
 そなえる……供える 60  
 そのぶん……その分 24  
 そふぼ……祖父母 89  
 それぞれ 23  
 それぞれの 22  
 それほど～ない 34  
 そんざいする……存在する 39  
 そんちょう……尊重 44

## 〔た〕

たいいくのひ……体育の日 73  
 たいいんれき……太陰暦 78  
 たいおうする……対応する 49, 81  
 だいきぎょう……大企業 40  
 だいきゅうじょう……第九条 44  
 たいきょして……大挙して 98  
 だいくこうきょうきょく……第九交響曲 86  
 たいけん……体験 111  
 たいさく……対策 68  
 だいににする……大事にする 50  
 たいしゃく……貸借 80  
 だいセール……大セール 55  
 たいそう……体操 17  
 たいてい(の) 12  
 たいど……態度 89  
 だいとし……大都市 14  
 だいひょう……代表 115  
 たいふう……台風 68  
 だいぶぶん……大部分 38  
 だいへんかく……大変革 63



たいりつ……対立	41	ちゅうとにゅうしゃ……中途入社	111
たいりつかんけい……対立関係	39	ちょうき……長期	111
たいりょう (の) ……大量 (の)	69	ちょうきローン……長期ローン	53
たうえ……田植え	48	ちょうじ……弔事	55
だが	107	ちょうじょ……長女	11
たかめる……高める	52	ちょうしょく……朝食	12
たしつ……多湿	48	ちょうまんいん……超満員	61
たしゅたよう (な) ……多種多様 (な)	74	ちょうれい……朝礼	16
ただよう……漂う	99	ちよくせつ……直接	55
たちもどる……立ち戻る	63	ちらし	15
たっする……達する	43	ちんあげ……賃上げ	41
たどりつく	16	ちんあげこうしょう……賃上げ交渉	114
たの……他の	88	ちんぎんたいけい……賃金体系	41
たましい……魂	60	ちんぎんひきあげこうしょう……賃 金引き上げ交渉	115
たまる	82		
ためる……貯める	57	〔つ〕	
たより……便り	91	ついていく……ついて行く	38
だんけつ……団結	73	ついやす……費やす	30
だんけつりょく……団結力	29	つうかぎれい……通過儀礼	39
だんじょ……男女	92	つうきん……通勤	32
だんじょこようきかいきんとうほう ……男女雇用機会均等法	108	つうきんよう……通勤用	101
だんち……団地	50	つうじょう……通常	60
だんちせいかつ……団地生活	35	つうじる……通じる	68
たんなる……単なる	70	つうしんぶん……通信文	91
たんねんに……丹念に	15	つうたつじこう……通達事項	16
〔ち〕		つきあい	29
ちい……地位	108	つきごとに……月ごとに	37
ちかづく……近づく	45	つきそう……付き添う	105
ちしき……知識	13	つきづき……月々	34
ちちおや……父親	32	つけ	82
チップ	55	～つけ	32
ちほう……地方	61	つけもの……漬物	13
ちまき	43	つとめ……務め	106
ちゅうげん……中元	54	つとめさき……勤め先	12
ちゅうざする……中座する	79	つながり	39
ちゅうじつに……忠実に	45	つま……妻	30
ちゅうじゅん……中旬	48	つみ……罪	110
ちゅうしょうきぎょう……中小企業	39	つむ……積む	108
ちゅうしょうれいさいきぎょう…… 中小零細企業	40	つゆ……梅雨	48
ちゅうしょく……昼食	20	つよまる……強まる	118
ちゅうしょくじ……昼食時	20	つよめる……強める	110
ちゅうしんになっている……中心に なっている	17	〔て〕	
ちゅうせい……忠誠	39	ていいん……定員	43
ちゅうせいしん……忠誠心	101	ていがく……低額	101
		ていかんする……諦観する	69
		ていきけん……定期券	101



- |                   |     |                  |     |
|-------------------|-----|------------------|-----|
| ていきさいよう……定期採用     | 111 | とかい……都会          | 85  |
| ていきしょうきゅう……定期昇給   | 41  | とかいせいかつ……都会生活    | 61  |
| ていこうする……抵抗する      | 68  | ときには             | 15  |
| ていこく……定刻          | 16  | とくしつ……特質         | 110 |
| ていしょく……定食         | 20  | どくしょ……読書         | 76  |
| ていちゃくする……定着する     | 35  | どくしんりょう……独身寮     | 101 |
| ていちょう(な)……低調(な)   | 95  | とげる……遂げる         | 63  |
| ～ていど……～程度         | 11  | とこにつく……床に就く      | 33  |
| ていねん……定年          | 110 | としこしそば……年越しそば    | 85  |
| ていねんたいしょく……定年退職   | 118 | としん……都心          | 11  |
| できごと              | 13  | とどけでる……届け出る      | 112 |
| てきようする……適用する      | 112 | となえる……唱える        | 17  |
| デスクワーク            | 17  | ともにする……共にする      | 75  |
| てま……手間            | 13  | とりひき……取引         | 90  |
| でまわる……出回る         | 71  | とりひきさき……取引先      | 18  |
| てらでら……寺々          | 85  | とる               | 13  |
| テレックス             | 18  |                  |     |
| テレビドラマ            | 45  | 〔な〕              |     |
| てわたす……手渡す         | 32  | なお               | 17  |
| てん……天             | 68  | なくことじとうにはかてぬ……泣く |     |
| てんきよほう……天気予報      | 13  | 子と地頭には勝てぬ        | 45  |
| てんきん……転勤          | 101 | なぐさめる……慰める       | 61  |
| でんしレンジ……電子レンジ     | 24  | なこうど……仲人         | 78  |
| でんとう……伝統          | 37  | なごり……名残          | 54  |
| でんとうしんり……伝統心理     | 50  | なんかする……南下する      | 71  |
| でんとうてきに……伝統的に     | 45  | なんじゅう……何十        | 23  |
| てんのう……天皇          | 44  |                  |     |
| てんのうたんじょうび……天皇誕生  |     | 〔に〕              |     |
| 日                 | 82  | にいぼん……新盆         | 61  |
| 〔と〕               |     | ～にかんする……～に関する    | 29  |
| どろがく……同額          | 55  | にしめ……煮しめ         | 13  |
| とうかししたしむこう……灯火親しむ |     | にちぼつ……日没         | 86  |
| 候                 | 76  | にちょうひん……日用品      | 55  |
| とうかする……投下する       | 62  | につか……日課          | 13  |
| とうかんする……投函する      | 81  | につばちのブタ……二八のブタ   | 95  |
| とうぎ……討議           | 116 | ～にともなう           | 73  |
| とうきようオリンピック……東京オ  |     | にほんかい……日本海       | 98  |
| リンピック             | 73  | にほんけいざい……日本経済    | 39  |
| とうさんする……倒産する      | 110 | にほんこくけんぽう……日本国憲法 | 44  |
| とうそう……闘争          | 115 | にほんしゅ……日本酒       | 31  |
| どうとう(の)……同等(の)    | 55  | にほんちゃ……日本茶       | 13  |
| どうぶつえん……動物園       | 42  | にほんてきけい……日本の経営   | 110 |
| どうよう……同様          | 39  | にゅうがくしき……入学式     | 38  |
| どうようする……登用する      | 112 | にゅうがくしけん……入学試験   | 96  |
| とうらい……到来          | 67  | にゅうし……入試         | 97  |
| どうりょう……同僚         | 29  | にゅうしゃしき……入社式     | 38  |
| トーナメント            | 65  | にゅうよくする……入浴する    | 33  |
|                   |     | にわつき……庭つき        | 35  |

にんげんしんり……人間心理	50	はかまいり……墓参り	70
にんたい……忍耐	93	はげしい……激しい	26
〔ね〕		はげむ……励む	81
ねがう……願う	43	はけんする……派遣する	77
ねっきようする……熱狂する	65	はさむ	42
ねづく……根づく	49	はたす……果たす	61
ねっちゅうする……熱中する	105	バッジ	17
ねづよい……根強い	45	はつしゅっしや……初出社	111
ねらい	111	はったつする……発達する	40
ねんがじょう……年賀状	58	ばってきする……抜てきする	113
ねんがのかい……年賀の会	91	はってんする……発展する	77
ねんきんぎょうむ……年金業務	119	はつもうで……初もうで	85
ねんこうじょれつせい……年功序列		はなばな……花々	50
制	113	ははおや……母親	21
ねんこうちんぎんせい……年功賃金		ハム	13
制	41	ばめん……場面	105
ねんし……年始	85	はるかに	79
ねんしまわり……年始回り	88	ハレ	89
ねんじゅうぎょうじ……年中行事	37	はれぎ……晴着	91
ねんねん……年々	74	はん……判	17
ねんまつ……年末	54	はんい……範囲	79
ねんまつきぶん……年末気分	99	はんえいする……反映する	45
ねんれい……年齢	87	ばんぐみ……番組	31
〔の〕		はんざい……犯罪	93
のうぎょうこく……農業国	75	ばんしゃく……晩酌	31
のうこうぎれい……農耕儀礼	74	ばんしゅう……晩秋	76
のうそんちほう……農村地方	55	はんじょう……繁盛	88
のうりつきゅうせい……能率給制	41	パンしょく……パン食	74
のうりよく……能力	110	はんせんはんかく……反戦反核	62
のうりよくきゅうてき(な)……能力給的(な)	114	はんどう……反動	93
のぞむ……臨む	115	はんばい……販売	81
のばす……伸ばす	25	はんはん……半々	114
のびる……延びる	24	〔ひ〕	
のべる……述べる	50	PTA	105
のぼる……上る	71	ひかくさんげんそく……非核三原則	44
〔は〕		ひかくてき……比較的	110
バーゲンセール	15	ひがわり……日替わり	20
パート	19	ひがん……彼岸	70
はいく……俳句	49	ひかんち……避寒地	57
はいぐうしゃ……配偶者	78	ひきあわせる……引き合わせる	78
はいけい……背景	45	ひくくする……低くする	52
はいせん……敗戦	40	ひごろ……日ごろ	54
はいたつする……配達する	55	ひさん(な)……悲惨(な)	62
ばいてん……売店	21	びじゅつ……美術	77
		ひしょ……避暑	57
		ひしょち……避暑地	57
		ひっしに……必死に	110



- ビデオ 52  
 びとく……美德 93  
 ひととき 31  
 ひなまつり……雛祭り 43  
 ひはん……批判 93  
 ひび……日々 71  
 ひやくてきに……飛躍的に 24  
 ひよう……費用 79  
 ひようかする……評価する 97  
 びようきみまい……病気見舞い 55  
 びようどう……平等 76  
 びようにん……病人 77  
 ひるやすみ……昼休み 22  
 ひろうえん……披露宴 78  
 ひんしつ……品質 116  
 ひんしつかんり……品質管理 117
- 〔ふ〕
- ファッション 73  
 ファン 50  
 ふうぶつ……風物 22  
 ぶかつどう……部活動 16  
 ふきゅう……普及 24  
 ふきょう……不況 110  
 ぶぐ……武具 43  
 ふくめる……含める 42  
 ふくりこうせい……福利厚生 101  
 ふこくきょうへい……富国強兵 77  
 ふさい……夫妻 34  
 ふざい……不在 32  
 ふしめ……節目 38  
 ～ふじん……～夫人 11  
 ふたたび 61  
 ふだん(の)……普段(の) 91  
 ふだんぎ……普段着 91  
 ぶっきょう……仏教 60  
 ぶっきょうしろう……仏教思想 70  
 ぶっしつてきせいかつ……物質的生  
 活 93  
 ふとん……布団 104  
 ふとんほし……布団干し 15  
 ふにんする……赴任する 101  
 ぶぶん……部分 112  
 ふりこむ……振り込む 32  
 プレーする 64  
 プロやきゅう……プロ野球 73  
 ぶんかのひ……文化の日 76  
 ぶんじょうしゅうごうじゅうたく……
- 分譲集合住宅 11  
 ぶんりする……分離する 110  
 ぶんるいする……分類する 49
- 〔へ〕
- ベアこうしょう……ベア交渉 114  
 へいあん……平安 88  
 へいきんする……平均する 17  
 へいこうする……並行する 39  
 べいさくのうぎょう……米作農業 49  
 べいしょく……米食 74  
 へいわしゅぎ……平和主義 44  
 ベースアップ 115  
 ベートーベン 86  
 ベストテン 107  
 ベビーシッター 104  
 へんさい……返済 19  
 へんしんする……変身する 77  
 べんとう……弁当 21  
 へんどうする……変動する 52
- 〔ほ〕
- ほいくえん……保育園 105  
 ほう……法 45  
 ほういしき……法意識 45  
 ほうがくぶ……法学部 45  
 ほうかご……放課後 26  
 ほうきする……放棄する 44  
 ぼうさいせつび……防災設備 68  
 ほうしき……方式 53  
 ほうしゅう……報酬 110  
 ほうていがい……法廷外 45  
 ほうていばめん……法廷場面 45  
 ほうてきに……法的に 93  
 ほうどうする……報道する 62  
 ほうにふれる……法に触れる 45  
 ぼうねんかい……忘年会 80  
 ほうぼう……方々 44  
 ほうりつ……法律 45  
 ボーナス 34  
 ボーナスばらい……ボーナス払い 53  
 ほけん……保険 55  
 ほたるのひかり……蛍の光 100  
 ほようじょ……保養所 113  
 ボランティアかつどう……  
 ボランティア活動 23  
 ぼん……盆 60  
 ぼんおどり……盆踊り 61



ほんだい……本題 50  
 ほんぼう……本俸 52

〔ま〕

マージャン 30  
 まず 12  
 マスコミ 115  
 ますます 118  
 マスメディア 62  
 まつたけ……松茸 71  
 まつる……祭る 60  
 まてばかいのひよりあり……待つて 69  
     ば海路の日和あり 35  
 まどり……間取り 111  
 マナー 98  
 まひする 45  
 まもる……守る 41  
 まれ(な) 17  
 まわる……回る 16  
 まんいん(の)……満員(の) 50  
 マンション 104  
 まんなか……真中

〔み〕

みあいけっこん……見合い結婚 78  
 みあう……見合う 50  
 みかける……見かける 81  
 みこんしゃ……未婚者 101  
 みそしき……末組織 40  
 みそしる……味噌汁 13  
 みぢかにする……身近にする 50  
 みちる……満ちる 87  
 みどりのひ……みどりの日 42  
 みなす 38  
 みはからう……見計らう 15  
 みようじ……名字 18  
 みんかんきぎょう……民間企業 45  
 みんしゅしゅぎ……民主主義 44

〔む〕

むかえる……迎える 48  
 むかしながらに……昔ながらに 75  
 むかんしん(な)……無関心(な) 93  
 むこう……無効 112  
 むしやにんぎょう……武者人形 43  
 むじょうかん……無常感 68  
 むじょうけんこうふく……無条件降 62  
     伏

むすびつく……結びつく 50  
 むりよくかん……無力感 68  
 むりよくさ……無力さ 69

〔め〕

めあてにする……目当てにする 53  
 めいじいしん……明治維新 77  
 めいもんこう……名門校 97  
 めうえ……目上 55  
 めぐみ……恵み 69  
 めした……目下 55  
 めだまやき……目玉焼き 13  
 めったに～ない 32  
 メニュー 13  
 メロディー 100  
 めんする……面する 98  
 めんせつ……面接 108

〔も〕

もうい……猛威 68  
 もうける……設ける 55  
 もくてき……目的 52  
 もち……餅 83  
 もちあわせ……持ち合わせ 82  
 もちこむ……持ち込む 44  
 もつばら 107  
 もともと 89  
 もみじ……紅葉 71  
 もよおし……催し 62  
 もよおす……催す 72  
 もろい 69  
 んだいかいけつ……問題解決 116

〔や〕

やきゅうチーム……野球チーム 30  
 やくいんかい……役員会 116  
 やくしよ……役所 18  
 やくわり……役割 110  
 やしなう……養う 29  
 やすあがり……安上がり 57  
 やちん……家賃 101  
 やとう……雇う 55  
 やどる……宿る 68  
 やりとり 45

〔ゆ〕

ゆいいつ(の)……唯一(の) 31  
 ゆうえんち……遊園地 30

ゆうきゆうきゆうか……有給休暇	57	リラックスする	60
ゆうしゅうしゃ……優秀者	77	りんじに……臨時に	52
ゆうしゅう(な)……優秀(な)	113	〔る〕	
ゆうしょうこう……優勝校	65	るいのない……類のない	44
ゆうしょく……夕食	24	〔れ〕	
ゆうじん……友人	61	れい……霊	70
ゆうわ……融和	50	レイオフ	110
ゆきだるま……雪だるま	98	れいぎ……礼儀	55
ゆきみ……雪見	98	れいぎただしい……礼儀正しい	89
ゆにゆうする……輸入する	65	レクリエーション	104
ゆめみる……夢見る	35	レジャー	57
ゆるす……許す	93	れっしや……列車	43
〔よ〕		れんあいけっこん……恋愛結婚	78
ようじ……幼児	104	れんごうこく……連合国	62
ようしき……様式	54	れんらく……連絡	18
ようしょく……洋食	13	〔ろ〕	
ようそ……要素	79	ろうご……老後	119
ようちえん……幼稚園	96	ろうしかん……労使間	115
よか……余暇	24	ろうじんもんだい……老人問題	119
よしあし……良し悪し	78	ろうそ……労組	40
よせん……予選	65	ろうどう……労働	24
よてい……予定	16	ろうどううんどう……労働運動	40
よびこう……予備校	57	ろうどうきじゅんかんとかくしょ……	
〔ら〕		労働基準監督署	112
らいかいしゃ……来会者	79	ろうどうきじゅんほう……労働基準	
らいきやく……来客	17	法	112
ラグビー	65	ろうどうくみあい……労働組合	40
ラジオたいそう……ラジオ体操	25	ろうどうじょうけん……労働条件	41
ラッシュアワー	14	ろうにん……浪人	97
〔り〕		ローン	34
リクルートファッション	108	〔わ〕	
りこん……離婚	45	わか……和歌	49
りじゅん……利潤	52	わく	45
りそう……理想	77	わしょく……和食	13
りつ……率	97	わだい……話題	29
りっしゅう……立秋	58	わふく……和服	88
りゅうこうか……流行歌	50	〔を〕	
りょう……寮	56	～をへて……～を経て	107
りょうしゃ……両者	78		
りょうてい……料亭	80		

## 語法用例項目一覧

1. に (並列)
2. ～といった
3. と (例示)
4. の (主格)
5. なっている
6. ～のうち
7. ～での (格助詞+の)
8. ～その他
9. ～際
10. ～によっては
11. ～ての (て形+の)
12. ～に比べて
13. ～よう (ます形+よう)
14. ～ており
15. ～もあれば～ある
16. ～をはじめ
17. ～て (で、～ずに) 済む
18. ～かろう (い形容詞の意向形)
19. ～も～も (数字+も 数字+も)
20. また (接続詞)
21. ～ことになる
22. ～を除いては
23. ～によって
24. ～もなければ～もない
25. が、(接続詞)
26. ～させる、～せる (感情・思考の動詞の使役形)
27. ～として
28. ～はもちろん～まで
29. ～だけに
30. ～にすぎなかった
31. ～以後
32. ただ (接続詞)
33. ～まま
34. ～とともに
35. ～ようとする (意向形+とする)
36. ～ことに
37. ～から～にかけて
38. 多かれ少なかれ
39. 中心として
40. ～にわたって
41. ～とする (名詞+とする)
42. ～ず (に)、～
43. ～つもりで
44. ～に対して (=～へ)
45. ～かねない (ます形+かねない)
46. ～というのは
47. ～に対して (=反対に)
48. ～だけでなく～も
49. ～といってよいほど
50. 一方～
51. ～とか～といった
52. ～にもとづく
53. ～から～まで
54. ～とされている
55. ～ことなく
56. ～とは別に
57. ～を機に
58. ～中で
59. ～ないまでも
60. ～とも言えよう
61. ～もあって
62. ～わけだ
63. ～なしに
64. ～かのように
65. ～なり～
66. ～にとっては
67. ～せいか
68. ～かぎり
69. ～に応じて
70. したがって (接続詞)
71. ～を通して
72. ～ものと予想される
73. なかでも (接続詞)



にほんご まな にほんじじょう ちゅうきゅう じょうきゅう  
日本語で学ぶ日本事情 ●中級から上級へ  
しんていばん にほん し  
〔新訂版〕 日 本 を 知 る  
く にち  
——その暮らし 365 日——

---

1992年10月1日 初版第1刷発行

1996年9月30日 改訂版第1刷発行

2004年12月1日 新訂版第2刷発行

著 者 いたしか げん 板坂 元

編 集 せき まさあき 関 正昭

発行者 高井道博

発 行 株式会社 スリーエーネットワーク

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3(松栄ビル)

電話 営業 03 (3292) 5751

編集 03 (3292) 6521

<http://www.3anet.co.jp>

印 刷 株式会社 創英

---

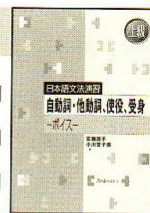
不許可複製

ISBN4-88319-262-8 C0081

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

❖好評の上級文法教材！ 続編も刊行予定

日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身	—ボイス—	1,365円
日本語文法演習 時間を表す表現	—テンス・アスペクト—	1,365円
日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現	—待遇表現—	1,365円
日本語文法演習 話し手の気持ちを表す表現	—モダリティ・終助詞—	1,365円



❖運用力を伸ばすならこの教材

トピックによる日本語総合演習 —テーマ探しから発表へ—		
中級前期	1,575円	上級
中級後期	1,575円	上級用資料集 第2版
		2,100円



❖中級後半の学習に最適

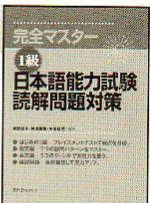
日本語中級 J501 —中級から上級へ—

英語版(改訂版)	2,940円	教師用マニュアル	2,940円
韓国語版	2,940円	CD	3,570円
中国語版	2,940円		



❖試験対策は「完全マスターシリーズ」でバッチリ

完全マスター 1級	日本語能力試験読解問題対策	1,365円
完全マスター 1級	日本語能力試験文法問題対策	1,260円
完全マスター 2級	日本語能力試験文法問題対策	1,260円
完全マスター 漢字	日本語能力試験 1級レベル	1,260円
完全マスター 漢字	日本語能力試験 2級レベル	CD付 1,470円
完全マスター 語彙	日本語能力試験 1・2級レベル	1,155円



❖レポートや論文に必要な論理的な文章の書き方を学ぶ

改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方 1,470円



ホームページで  
新刊や日本語セミナーをご案内しております。  
<http://www.3anet.co.jp>

※価格は税込です

スリーエーネットワーク



## 初級日本語教材の定番 みんなの日本語シリーズ

### みんなの日本語初級Ⅰ

本冊	2,625円	漢字英語版	1,890円
本冊・ローマ字版	2,625円	漢字カードブック	630円
翻訳・文法解説ローマ字版(英語)	2,100円	初級で読めるトピック25	1,470円
翻訳・文法解説英語版	2,100円	書いて覚える文型練習帳	1,365円
翻訳・文法解説中国語版	2,100円	漢字練習帳	945円
翻訳・文法解説韓国語版	2,100円	聴解タスク25	2,100円
翻訳・文法解説スペイン語版	2,100円	教え方の手引き	2,940円
翻訳・文法解説フランス語版	2,100円	練習C・会話イラストシート	2,100円
翻訳・文法解説ポルトガル語版	2,100円	導入・練習イラスト集	2,310円
翻訳・文法解説タイ語版	2,100円	カセットテープ	6,300円
翻訳・文法解説インドネシア語版	2,100円	CD	5,250円
翻訳・文法解説ロシア語版	2,100円	携帯用絵教材	6,300円
翻訳・文法解説ドイツ語版	2,100円	B4サイズ絵教材	37,800円
標準問題集	945円	会話ビデオ	10,500円

### みんなの日本語初級Ⅱ

本冊	2,625円	漢字英語版	1,890円
翻訳・文法解説英語版	2,100円	初級で読めるトピック25	1,470円
翻訳・文法解説中国語版	2,100円	書いて覚える文型練習帳	1,365円
翻訳・文法解説韓国語版	2,100円	漢字練習帳	1,260円
翻訳・文法解説スペイン語版	2,100円	教え方の手引き	2,940円
翻訳・文法解説フランス語版	2,100円	練習C・会話イラストシート	2,100円
翻訳・文法解説ポルトガル語版	2,100円	導入・練習イラスト集	2,520円
翻訳・文法解説タイ語版	2,100円	カセットテープ	6,300円
翻訳・文法解説インドネシア語版	2,100円	CD	5,250円
翻訳・文法解説ロシア語版	2,100円	携帯用絵教材	6,825円
翻訳・文法解説ドイツ語版	2,100円	B4サイズ絵教材	39,900円
標準問題集	945円	会話ビデオ	10,500円

みんなの日本語初級 やさしい作文 1,260円

ホームページで  
新刊や日本語セミナーを  
ご案内しております  
<http://www.3anet.co.jp>

価格は税込です

**スリーエーネットワーク**



日本語で学ぶ日本事情

中級から上級へ

新訂版

# 日本を知る

その暮らし365日